

「寝屋川市都市計画マスタープラン」改定に向けた
市民アンケート調査 報告書(全体版)

令和3年1月

寝屋川市 2軸化事業本部

目次

1 調査の概要と回収状況.....	1
2 回答者の住所と都市計画マスタープラン地域別構想区域.....	2
2-1 都市計画マスタープラン地域別構想区域.....	2
2-2 複数の地域別構想区域にまたがる町丁目の配分.....	3
3 集計結果.....	5
3-1 問1 あなたの年齢を教えてください。.....	5
(1) 単純集計結果.....	5
3-2 問2 あなたの職業を教えてください。.....	6
(1) 単純集計結果.....	6
(2) クロス集計結果.....	7
3-3 問3 あなたのお住まいの家族構成を教えてください。.....	9
(1) 単純集計結果.....	9
(2) クロス集計結果.....	10
3-4 問4 お子さまと同居の方のみお答えください。同居するお子様の年代について教えてください。	11
(1) 単純集計結果.....	11
(2) クロス集計結果.....	12
3-5 問5 あなたの寝屋川市での居住年数(累計)を教えてください。.....	13
(1) 単純集計結果.....	13
(2) クロス集計結果.....	14
3-6 問6 あなたのお住まいになっている住宅の種類を教えてください。.....	16
(1) 単純集計結果.....	16
(2) クロス集計結果.....	17
3-7 問7 あなたのお住まいの場所を教えてください。.....	19
(1) 単純集計結果.....	19
(2) クロス集計結果.....	20
3-8 問8 あなたの勤務先または通学先を教えてください。.....	21
(1) 単純集計結果.....	21
(2) クロス集計結果.....	22
3-9 問9 あなたの主な通勤または通学方法を教えてください。.....	24
(1) 単純集計結果.....	24
(2) クロス集計結果.....	25
3-10 問10 あなたのお住まいの場所の最寄り駅を教えてください。.....	26
(1) 単純集計結果.....	26
(2) クロス集計結果.....	27
3-11 問11 あなたのお住まいの場所から最寄り駅までの主な移動手段を教えてください。.....	30

(1) 単純集計結果	30
(2) クロス集計結果.....	31
3-12 問 12 あなたの鉄道を利用する主な目的を教えてください。.....	33
(1) 単純集計結果	33
(2) クロス集計結果.....	34
3-13 問 13 あなたの最寄り駅の利用にかかる満足度を教えてください。.....	36
(1) 単純集計結果	36
(2) クロス集計結果.....	37
3-14 問 14 問 13 で「4. やや不満」、「5. 不満」とお答えいただいた方に伺います。あなたの最寄り駅の利用にかかる不満点を教えてください。.....	39
(1) 単純集計結果	39
(2) クロス集計結果.....	40
3-15 問 15 下記の選択項目より、あなたの最寄り駅周辺の満足している施設と、より充実してほしい施設をそれぞれ3つまで教えてください。.....	43
(1) 満足している施設の単純集計結果.....	43
(2) 満足している施設のクロス集計結果.....	44
(3) より充実してほしい施設の単純集計結果.....	46
(4) より充実してほしい施設のクロス集計結果.....	47
3-16 問 16 あなたの日用品等の主な購入先を教えてください。.....	49
(1) 単純集計結果	49
(2) クロス集計結果.....	50
3-17 問 17 あなたのお住まいの場所から日用品等の購入先への主な移動手段を教えてください。.....	52
(1) 単純集計結果	52
(2) クロス集計結果.....	53
3-18 問 18 下記の選択項目より、お住まいの地域の状況や土地利用など、まちづくりに関する現状について、課題や問題点と思われるものを3つまでお選びください。.....	55
(1) 単純集計結果	55
(2) クロス集計結果.....	57
3-19 問 19 下記の選択項目より、あなたが自身の居住環境の中で重要と考える点や、新たに居住地を選ぶ際に重視したい点について、当てはまるものを3つまで教えてください。.....	59
(1) 単純集計結果	59
(2) クロス集計結果.....	60
3-20 問 20 今後のまちづくりは、どのように進めていくことが望ましいと思いますか。.....	62
(1) 単純集計結果	62
(2) クロス集計結果.....	63

1 調査の概要と回収状況

令和2年9月8日から9月30日にかけて実施しました「寝屋川市都市計画マスタープラン」改定に向けた市民アンケート調査の集計結果の取りまとめを行いました。以下に、その調査の概要等を示します。

【アンケート調査概要】

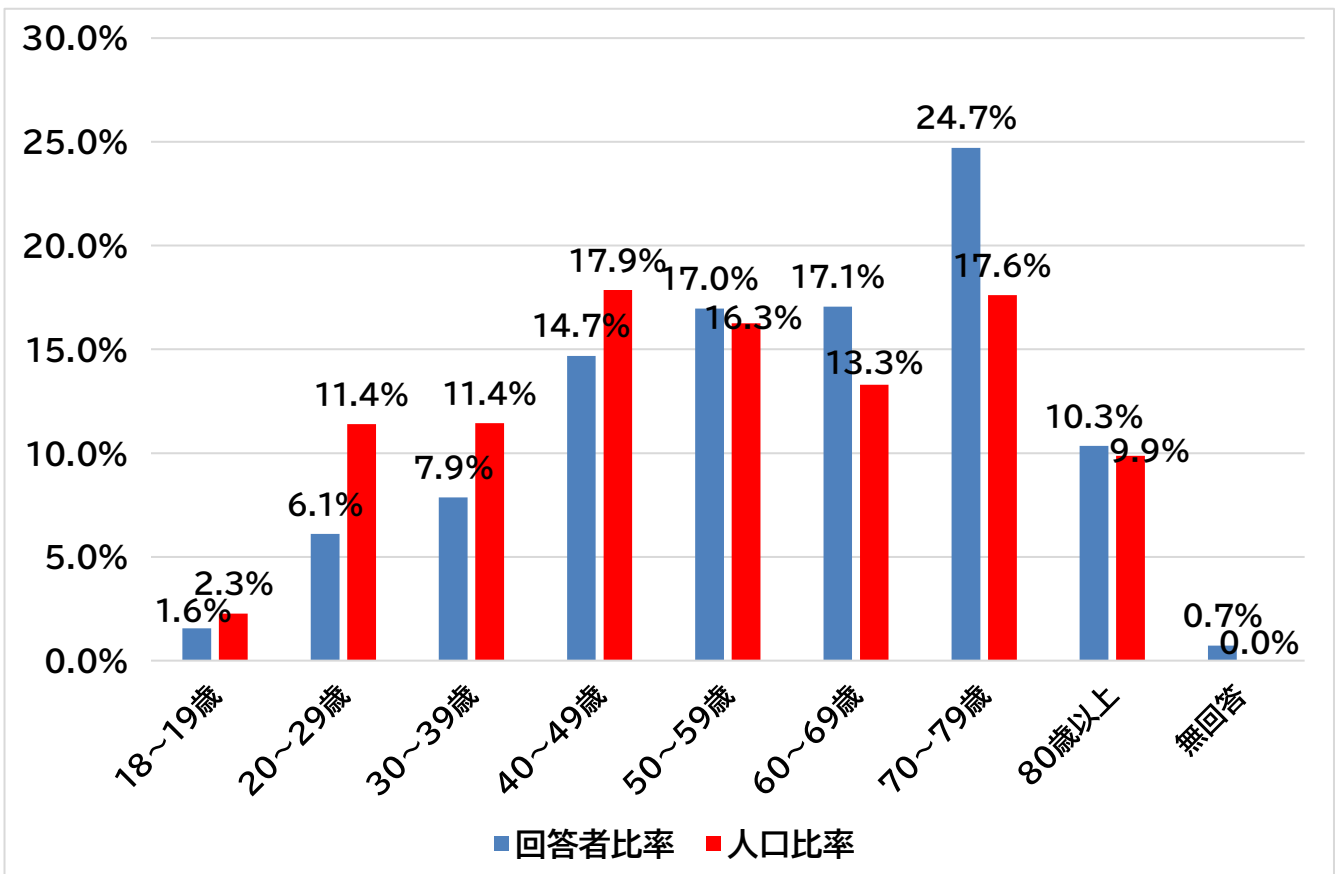
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7月1日現在寝屋川市に居住する18歳以上の市民を母集団とし、住民基本台帳を基に年齢階層別の構成比により対象者2,000人を無作為抽出しました。
回答期間	<ul style="list-style-type: none"> 9月8日(火)～9月30日(水)
有効配布数	<ul style="list-style-type: none"> 1,989件(11件は宛名不明等により市へ返送)
回収数	<ul style="list-style-type: none"> 有効回答数:967件 有効配布数に対する有効回答数の割合:48.6%

• この報告書は、10月9日までに到着した総有効回答数967件分についての報告です。

回答者の年齢階層による回答結果の偏りを見るため、令和2年9月1日現在人口による18歳以上人口の年齢階層別人口の比率とアンケート結果から見た年齢階層別人口の比率を比較したものを図1に示します。

これを見ると、50～59歳、60～69歳、70～79歳、80歳以上の階層で回答者比率が人口比率を上回っています。

図1 18歳以上人口の年齢階層別構成比率とアンケート回答者の年齢階層別構成比率の比較



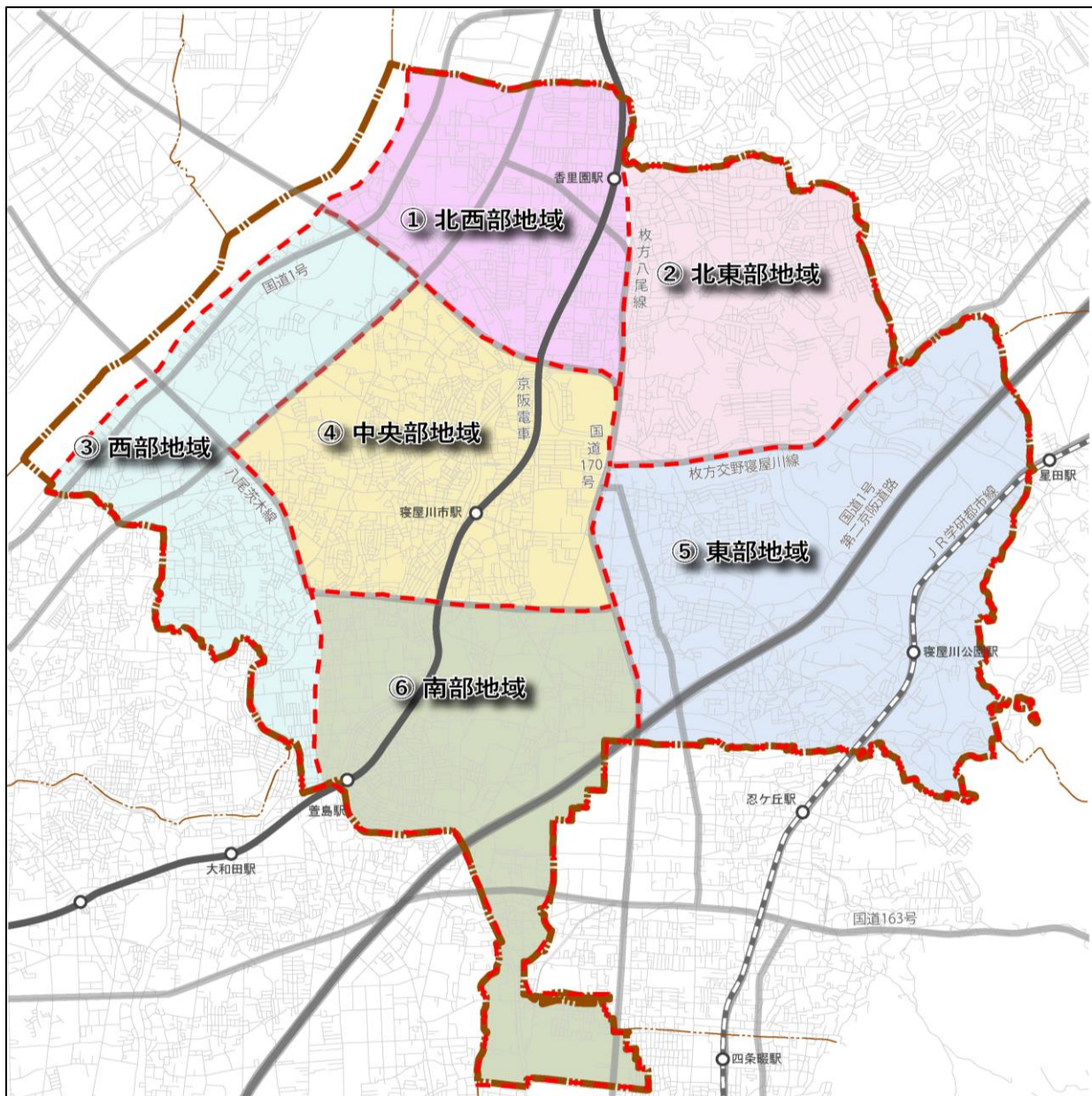
2 回答者の住所と都市計画マスタープラン地域別構想区域

アンケート結果の集計に当たっては、回答者の年齢階層(39歳以下を若年層、40～69歳を中年層、70歳以上を高年齢層とする)及び都市計画マスタープラン地域別構想区域によるクロス集計を行いました。

2-1 都市計画マスタープラン地域別構想区域

ここで、都市計画マスタープラン地域別構想区域の設定は図2に示すように、道路等地形地物に基づき、①北西部地域、②北東部地域、③西部地域、④中央部地域、⑤東部地域、⑥南部地域、の6つの地域に区分しています。

図2 地域別構想区域割設定図



2-2 複数の地域別構想区域にまたがる町丁目の配分

この地域別構想区域の設定は、地域を一体的なまとまりとして道路等地形地物に基づき設定されたものであるため、一部では、回答者住所の町丁目設定とは一致しないものもあります。

このため、複数の地域別構想区域にまたがる町丁目からの回答については、面積按分により、回答数を割り振っています。

以下に複数の地域別構想区域に回答数を配分した町丁目位置とその配分比率を示します。

図3 複数の構想区域に配分した町丁目位置



表1 複数の地域別構想区域に配分した町丁目の配分比率

町丁目	所属する構想区域			備考	各構想区域への配分比率		
石津元町	北西部	中央部			0.84	0.16	0.00
石津南町	北西部	中央部			0.74	0.26	0.00
音羽町	北西部	中央部			0.87	0.13	0.00
緑町	北西部	中央部		分割しない	1.00	0.00	
三井南町	北東部	北西部		分割しない	1.00	0.00	
幸町	中央部	北西部		分割しない	1.00	0.00	
太秦桜ヶ丘	東部	北東部		分割しない	1.00	0.00	
高宮栄町	中央部	南部			0.65	0.35	0.00
宝町	中央部	西部			0.62	0.38	0.00
対馬江東町	西部	中央部			0.66	0.34	0.00
高柳四丁目	西部	中央部			0.55	0.45	0.00
高柳二丁目	中央部	西部	南部		0.77	0.15	0.08
上神田一丁目	南部	中央部		分割しない	1.00	0.00	
清水町	南部	中央部			0.60	0.40	0.00
木田町	中央部	南部		分割しない	1.00	0.00	
中木田町	南部	中央部			0.89	0.11	0.00
出雲町	南部	中央部			0.67	0.33	0.00
昭栄町	中央部	南部			0.58	0.42	0.00
下神田町	南部	西部			0.62	0.38	0.00

3 集計結果

3-1 問1 あなたの年齢を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

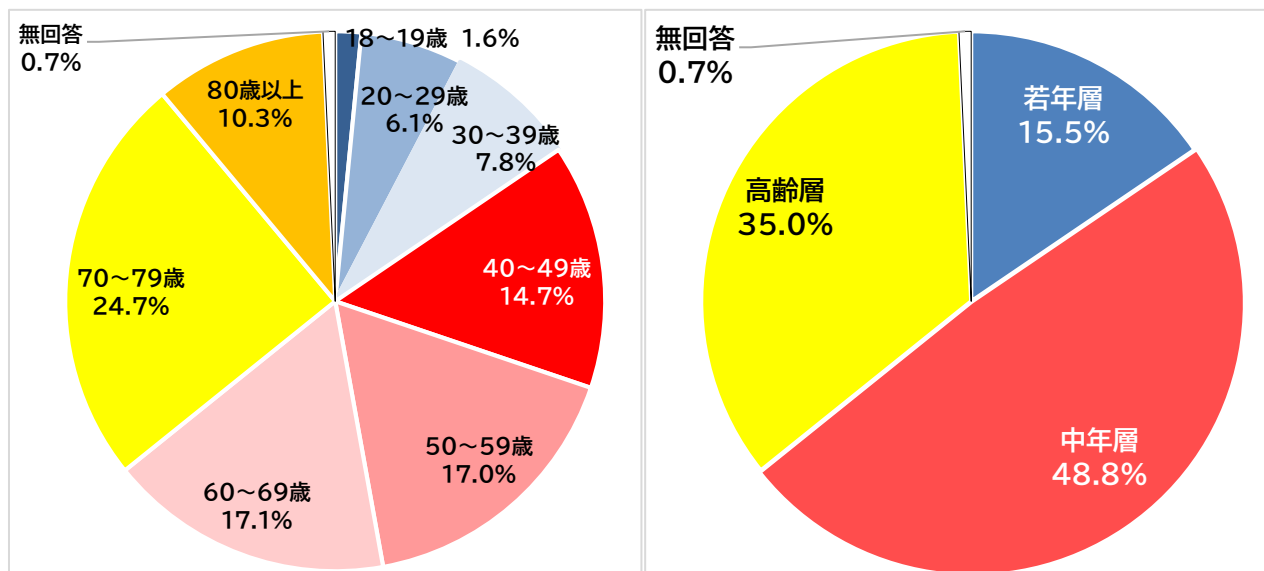
(1) 単純集計結果

- ・アンケート回答者のうち、70歳～79歳の方が最も高い24.7%(239人)もの比率を占めた。
- ・39歳以下を若年層、40～69歳を中年層、70歳以上を高年齢層とした場合、構成比はそれぞれ、若年層:15.5%(150人)、中年層:48.8%(471人)、高年齢層:35.0%(339人)であった。

表2 回答者の年齢構成

年齢階層	回答数	回答者比率
18～19歳	15	1.6%
20～29歳	59	6.1%
30～39歳	76	7.8%
40～49歳	142	14.7%
50～59歳	164	17.0%
60～69歳	165	17.1%
70～79歳	239	24.7%
80歳以上	100	10.3%
無回答	7	0.7%
総計	967	100.0%

図4 回答者の年齢構成



3-2 問2 あなたの職業を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

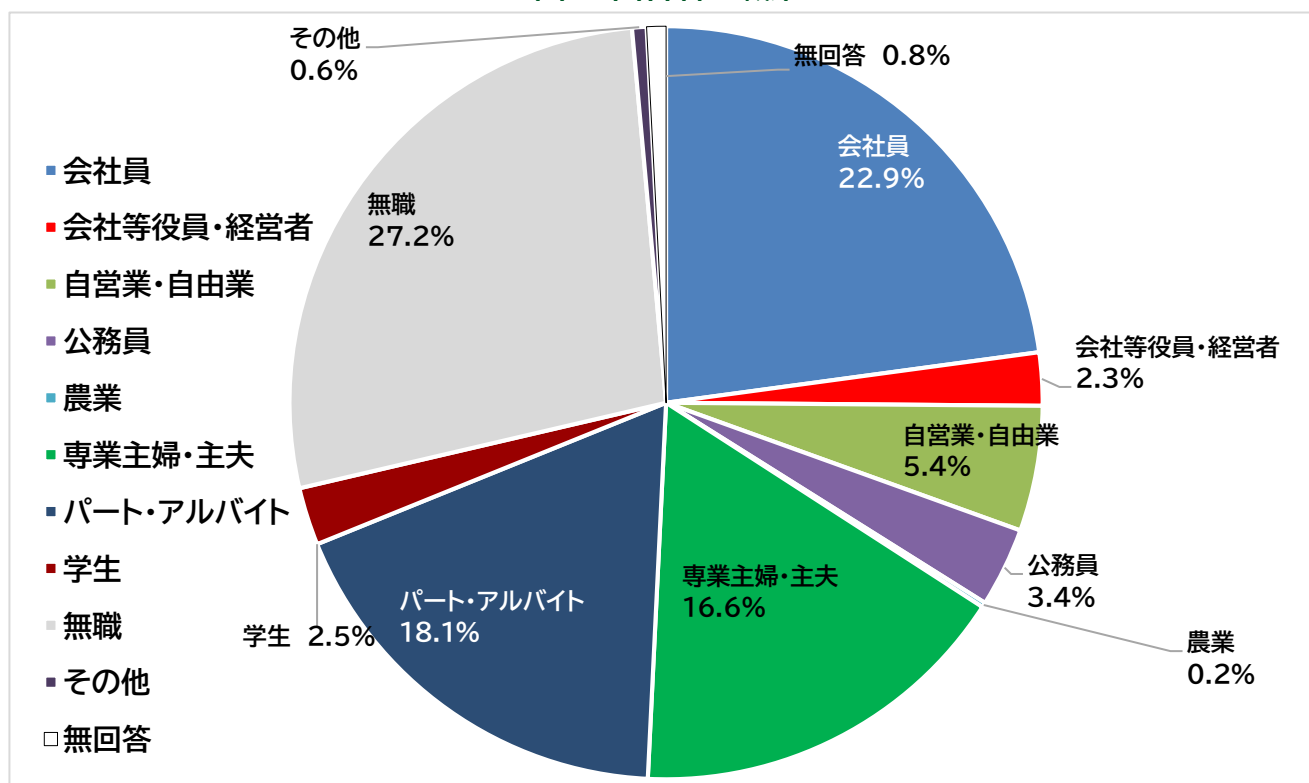
(1) 単純集計結果

- ・回答数として最も多かったのは「無職」で全体の 27.2%(263 人)を占めた。
- ・次いで「会社員」22.9%(221 人)、「パート・アルバイト」18.1%(175 人)、「専業主婦・主夫」16.6%(161 人)と続く。
- ・「無職」と「専業主婦・主夫」を合すると 43.8%に上った。

表3 回答者の職業

職 業	回 答 数	回 答 者 比 率
会 社 員	221	22.9%
会社等役員・経営者	22	2.3%
自営業・自由業	52	5.4%
公 務 員	33	3.4%
農 業	2	0.2%
専業主婦・主夫	161	16.6%
パート・アルバイト	175	18.1%
学 生	24	2.5%
無 職	263	27.2%
そ の 他	6	0.6%
無 回 答	8	0.8%
総 計	967	100.0%

図5 回答者の職業



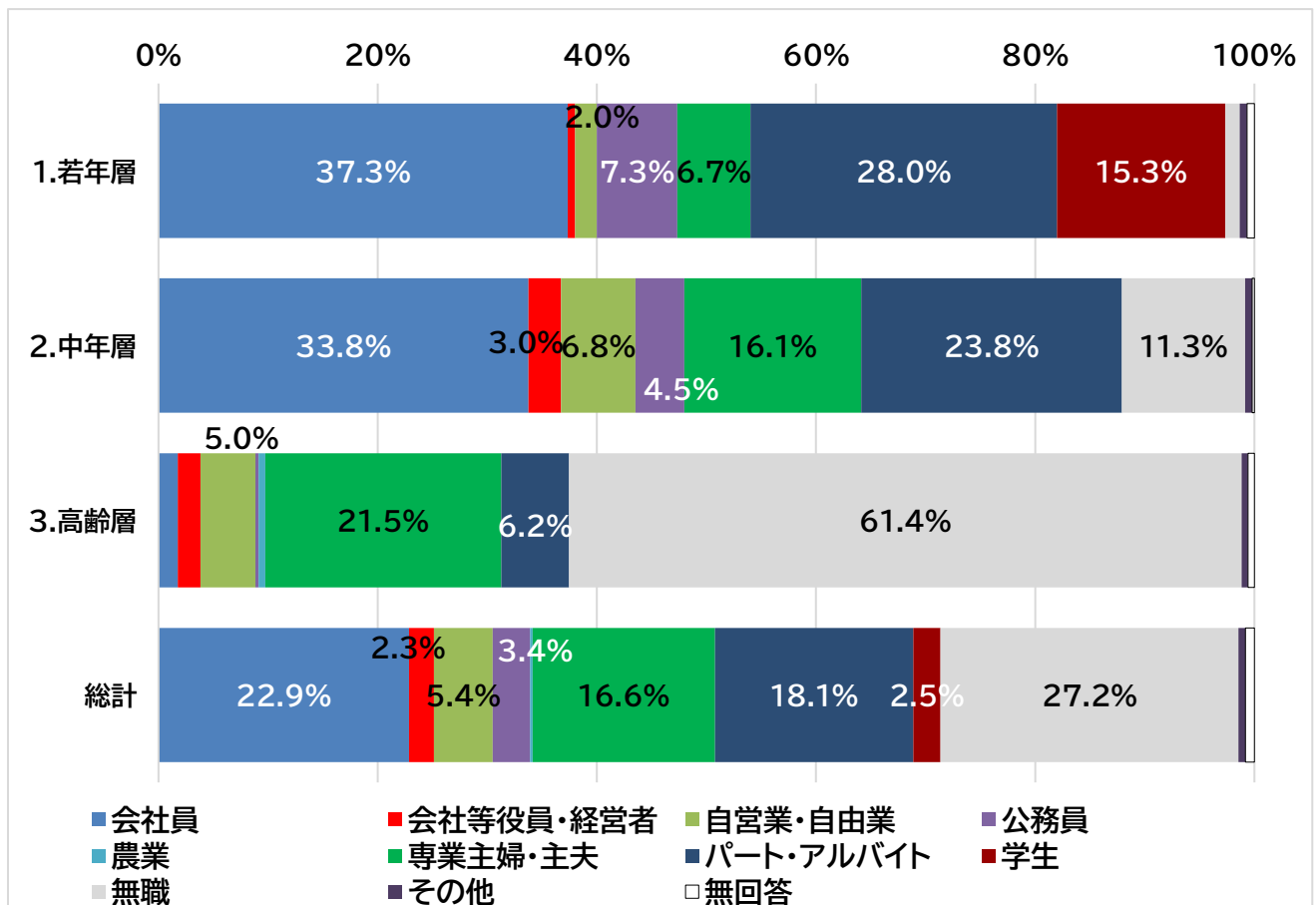
注 円グラフは、12 時の位置を開始位置とし、時計回りの順に凡例順の項目を表示しています。以下、同様です。

(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「会社員」が最も高く 37.3%、次いで「パート・アルバイト」28.0%、「学生」15.3%であった。
- ・中年層では、「会社員」が最も高く 33.8%、次いで「パート・アルバイト」23.8%、「専業主婦・主夫」16.1%であった。
- ・高齢層では、「無職」が最も高く 61.4%、次いで「専業主婦・主夫」21.5%であり、この2つで8割以上を占める。

図6 年齢階層別の回答者の職業

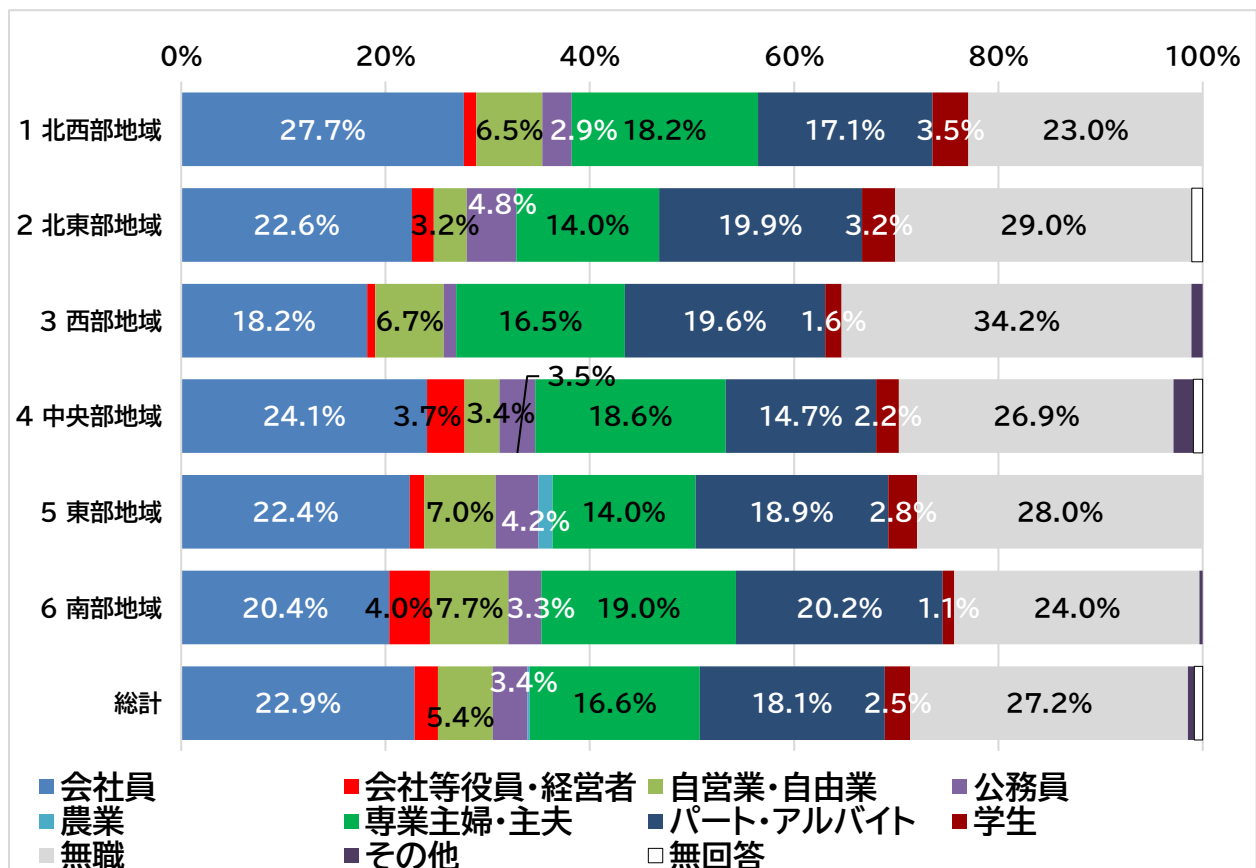


注 棒グラフは、左から順に凡例順の項目を表示しています。以下、同様です。

② 地域別構想区域別のクロス集計

- ・北西部地域では、「会社員」が27.7%と最も高い比率で、地域別でも最も高かった。逆に「無職」は23.0%と地域別では最も少なかった。
- ・北東部地域は、「無職」が29.0%と最も高い比率で、次いで「会社員」の22.6%、「パート・アルバイト」19.9%と続く。
- ・西部地域は、「無職」が34.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の19.6%である。
- ・中央部地域は、「無職」が26.9%と最も高く、次いで「会社員」の24.1%である。
- ・東部地域は、「無職」が28.0%と最も高く、次いで「会社員」の22.4%、「パート・アルバイト」18.9%と続く。
- ・南部地域は、「無職」が24.0%と最も高く、次いで「会社員」20.4%、「パート・アルバイト」20.2%、「専業主婦・主夫」19.0%と続く。

図7 地域別構想区域別の回答者の職業



3-3 問3 あなたのお住まいの家族構成を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果

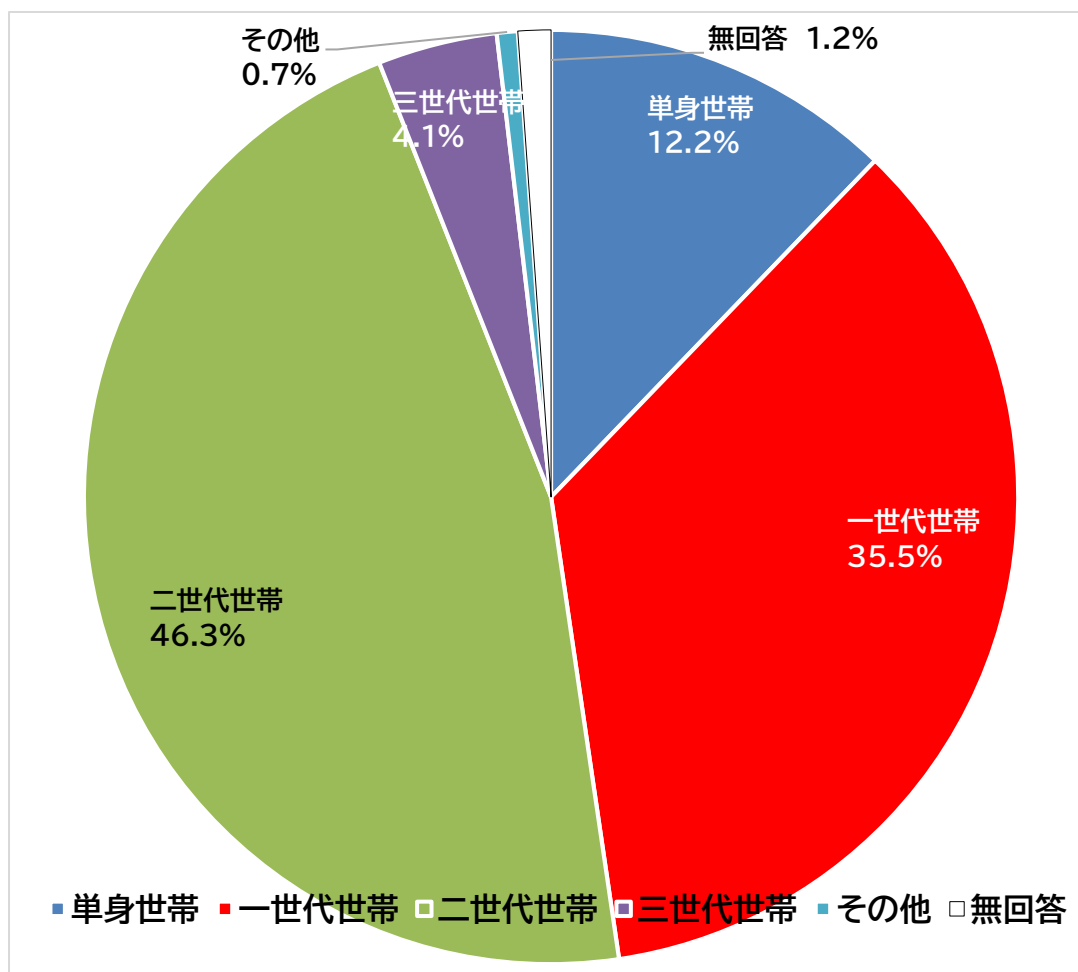
・アンケート回答者のうち、夫婦と子どもからなる世帯などを中心とした二世帯世帯が46.3%(448人)を占め、最も高い比率となっている。

表4 回答者の家族構成

家族構成	回答数	回答者比率
単身世帯	118	12.2%
一世代世帯	343	35.5%
二世帯世帯	448	46.3%
三世帯世帯	40	4.1%
その他	7	0.7%
無回答	11	1.2%
総計	967	100.0%

【その他】弟夫婦と3人暮らし、施設 ほか

図8 回答者の家族構成

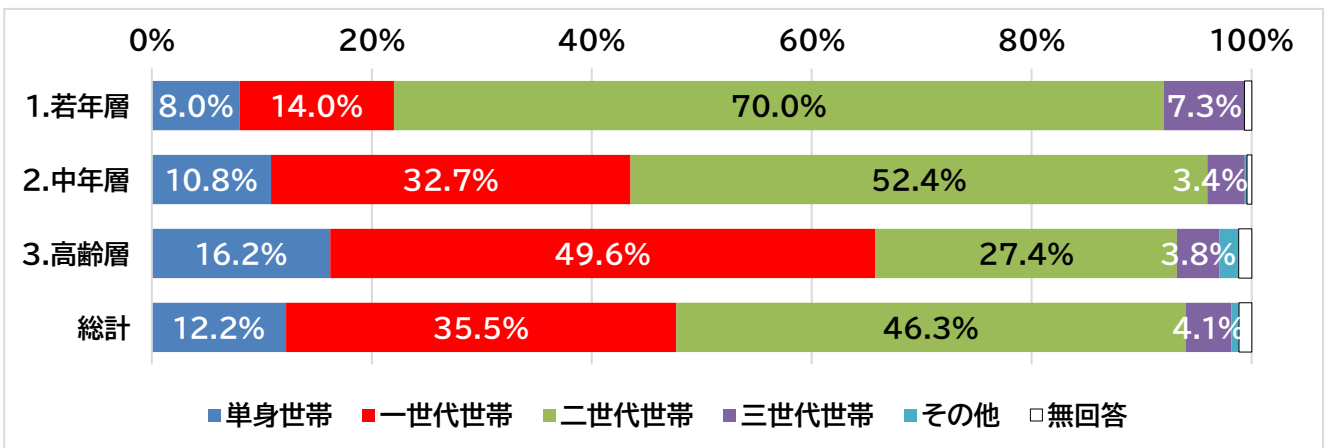


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「二世世代世帯」が最も高く、70.0%であった。
- ・中年層では、「二世世代世帯」が52.4%と最も高い比率で、次いで「一世代世帯」32.7%と続き、「単身世帯」は10.8%であった。
- ・高齢層では、「一世代世帯」が49.6%と最も高い比率で、次いで「二世世代世帯」27.4%、「単身世帯」16.2%であった。

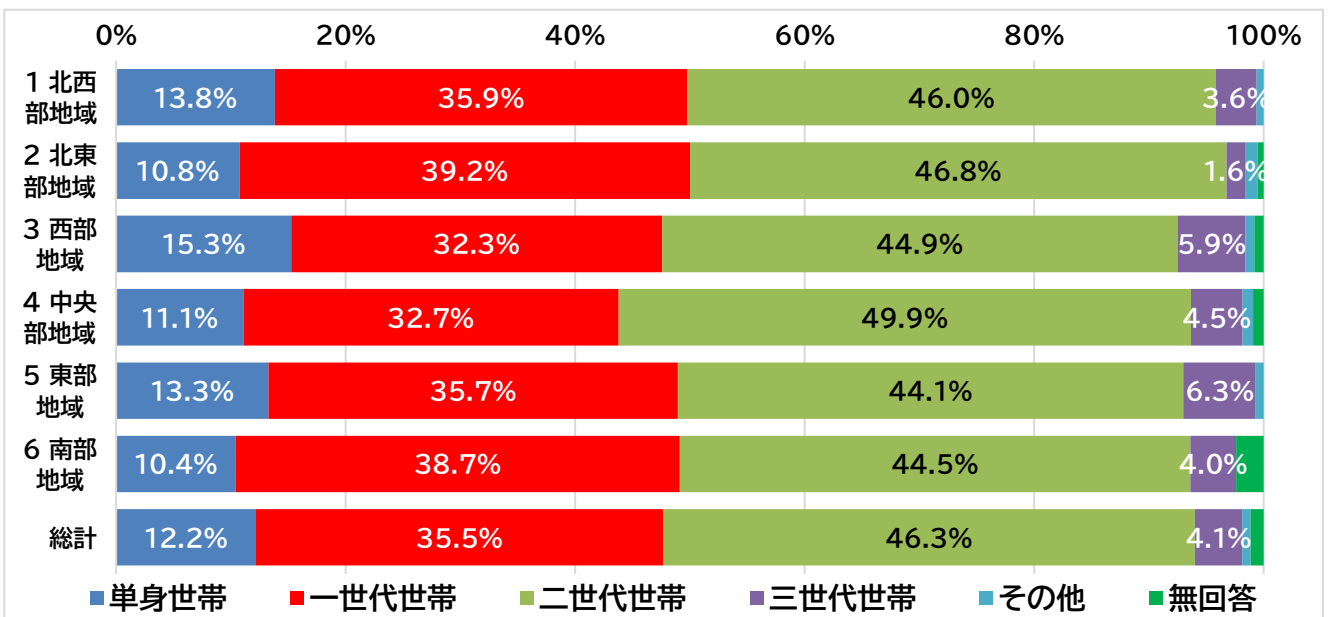
図9 年齢階層別の回答者の家族構成



② 地域別構想区域別とのクロス集計

- ・いずれの地域でも「二世世代世帯」が最も高く、45%前後で、中央部地域が最も比率が高かった。次いで「一世代世帯」で、いずれの地域も35%前後で、北東部地域が最も比率が高かった。
- ・「単身世帯」は西部地域が一番高く、15.3%であった。

図10 地域別構想区域別の回答者の家族構成

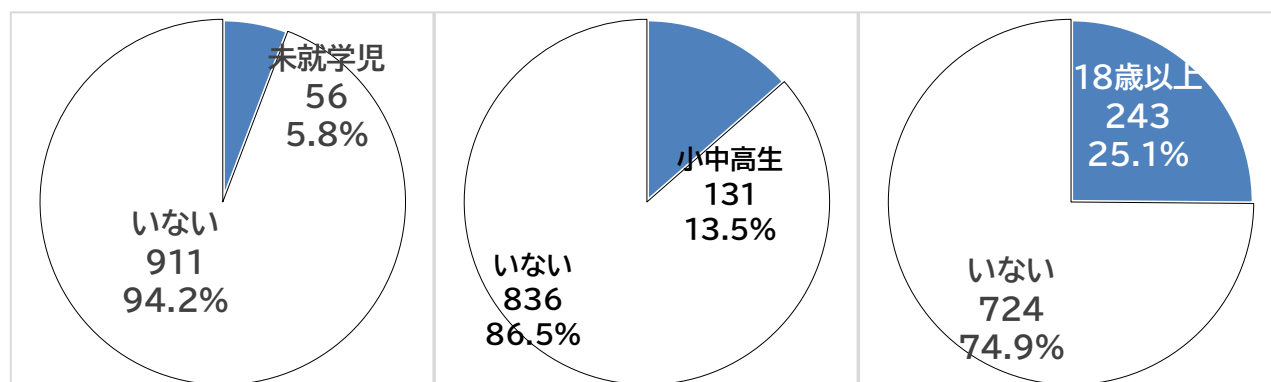


3-4 問4 お子さまと同居の方のみお答えください。同居するお子様の年代について教えてください。(該当する番号を選び、○で囲んでください。複数回答可。)

(1) 単純集計結果

- ・未就学児のいる世帯は 5.8%(56 世帯)であった。
- ・小中高生のいる世帯は 13.5%(131 世帯)であった。
- ・18 歳以上の子どもがいる世帯は 25.1%(243 世帯)であった。

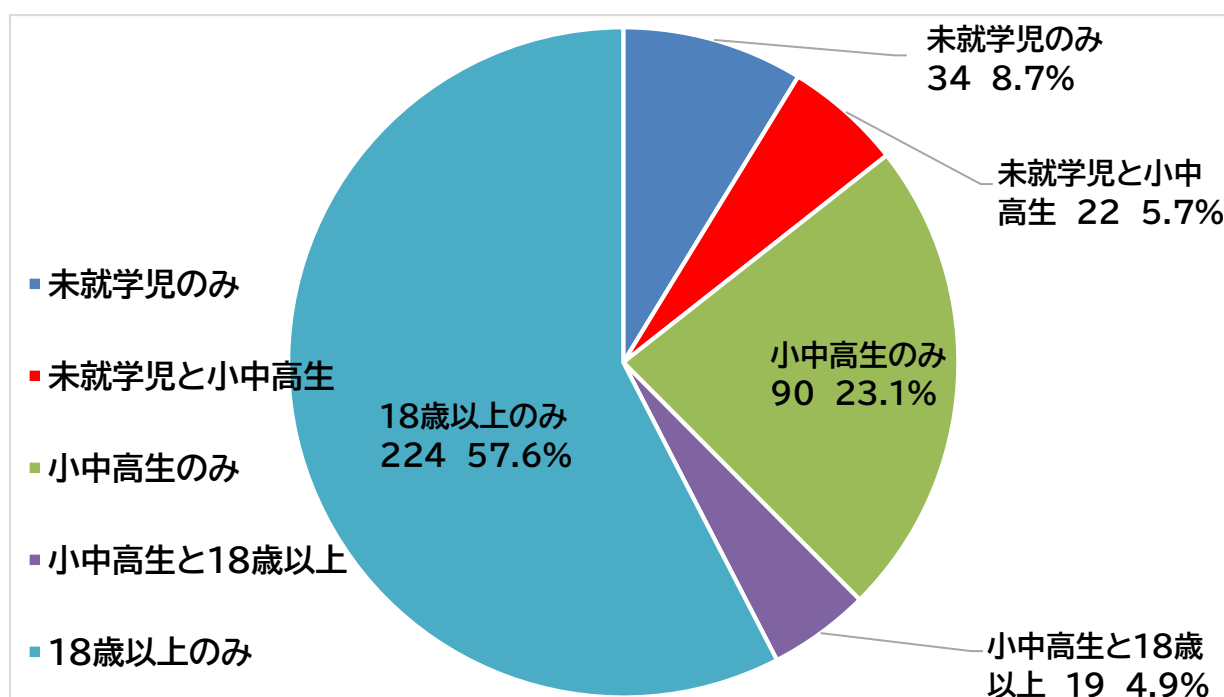
図 11 同居する子どものいる世帯



□子どものいる世帯のまとめ

- ・子どものいる世帯の総数は 40.2%(389 世帯)であった。
- ・このうち、「18 歳以上の子どものみ」の世帯が子どものいる世帯総数の 57.6%(224 世帯)を占めた。
- ・次いで、小中高生だけの世帯は子どものいる世帯総数の 23.1%(90 世帯)を占めた。

図 12 子どものいる世帯のまとめ

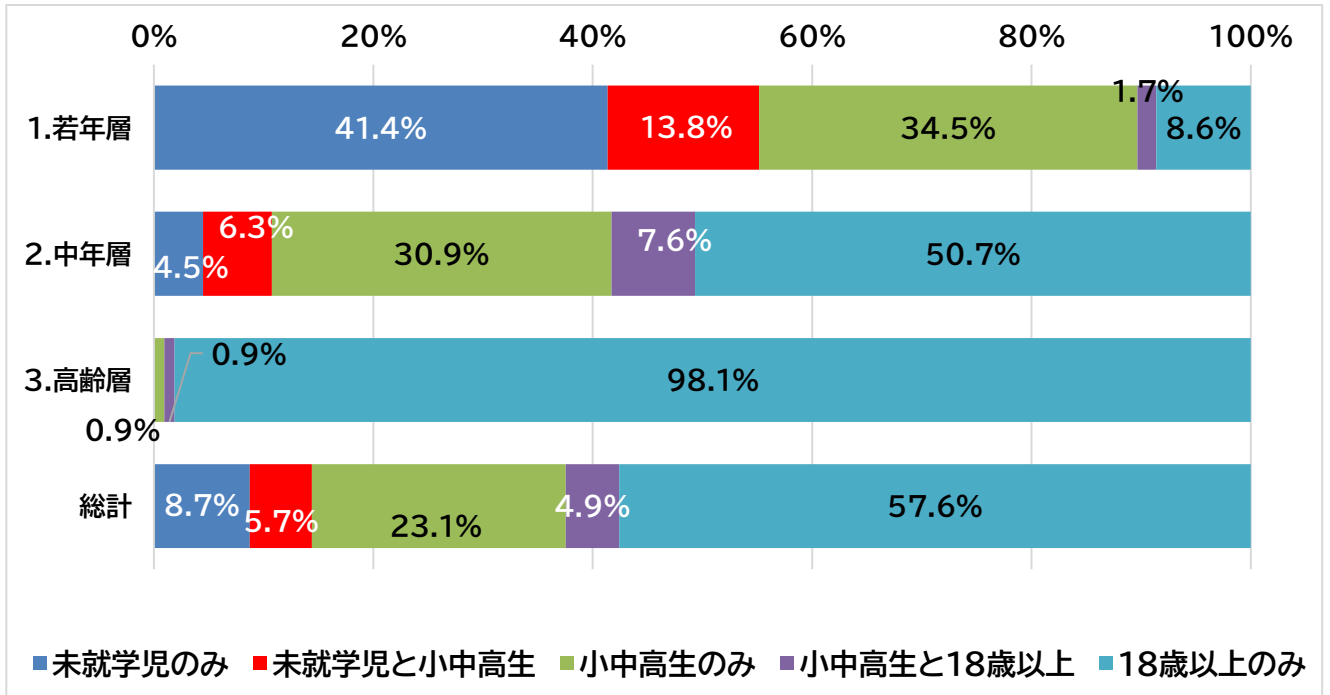


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「未就学児のみ」が41.4%と最も高く、次いで「小中高生のみ」の34.5%であった。
- ・中年層では、「18歳以上のみ」が50.7%と最も高く、次いで「小中高生のみ」の30.9%である。
- ・高齢層では、「18歳以上のみ」が98.1%とほとんどを占めている。

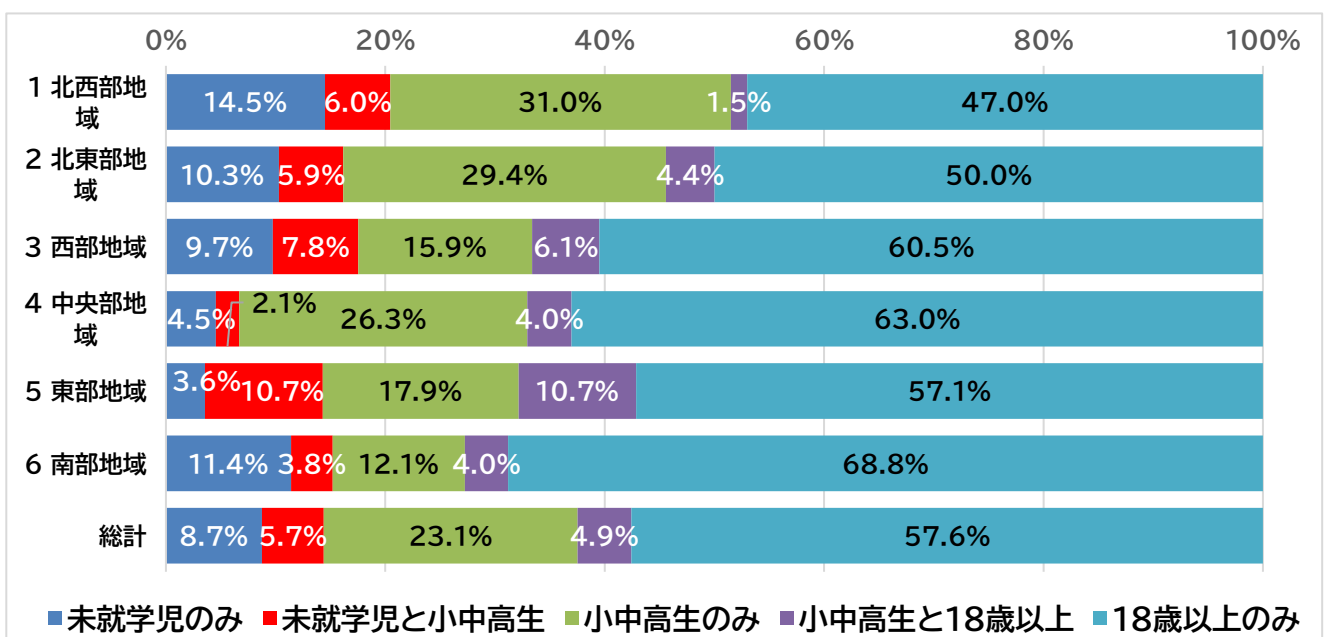
図13 年齢階層別の子供のいる世帯



② 地域別構想区域別とのクロス集計

- ・いずれの地域でも「18歳以上のみ」が最も高く、次いで「小中高生のみ」となっている。
- ・北西部地域は、「未就学児のみ」が14.5%と地域別でみると最も高い比率となっている。
- ・南部地域は、「18歳以上のみ」が68.8%と特に高い比率となっている。

図14 地域別構想区域別の子供のいる世帯



3-5 問5 あなたの寝屋川市での居住年数(累計)を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

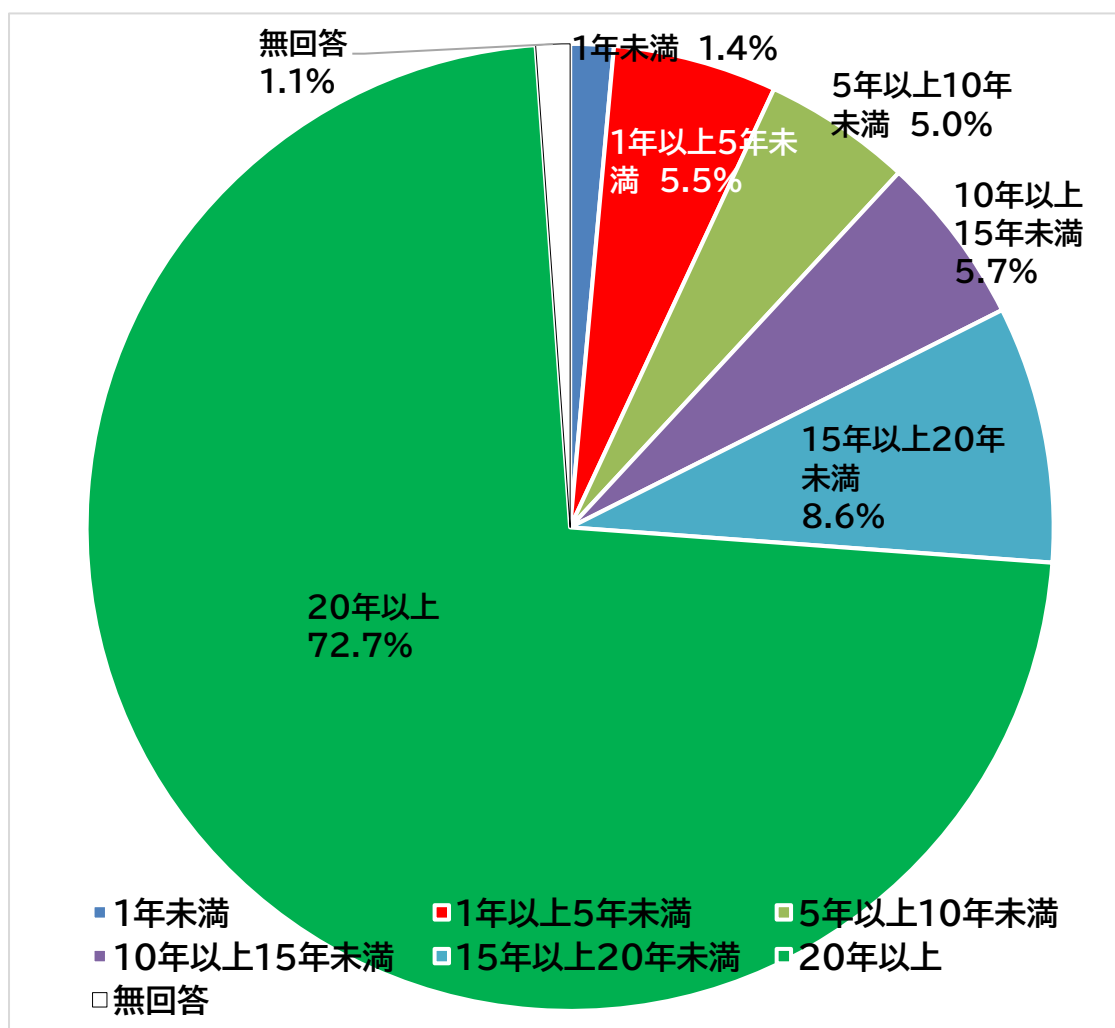
(1) 単純集計結果

・「20年以上」が72.7%(703人)を占めた。次いで「15年以上20年未満」が8.6%(83人)で15年以上の居住歴を持つ人が8割以上を占める。

表5 回答者の居住年数

居 住 年 数	回 答 数	回 答 者 比 率
1 年 未 満	14	1.4%
1 年 以 上 5 年 未 満	53	5.5%
5 年 以 上 10 年 未 満	48	5.0%
10 年 以 上 15 年 未 満	55	5.7%
15 年 以 上 20 年 未 満	83	8.6%
2 0 年 以 上	703	72.7%
無 回 答	11	1.1%
総 計	967	100.0%

図 15 回答者の居住年数

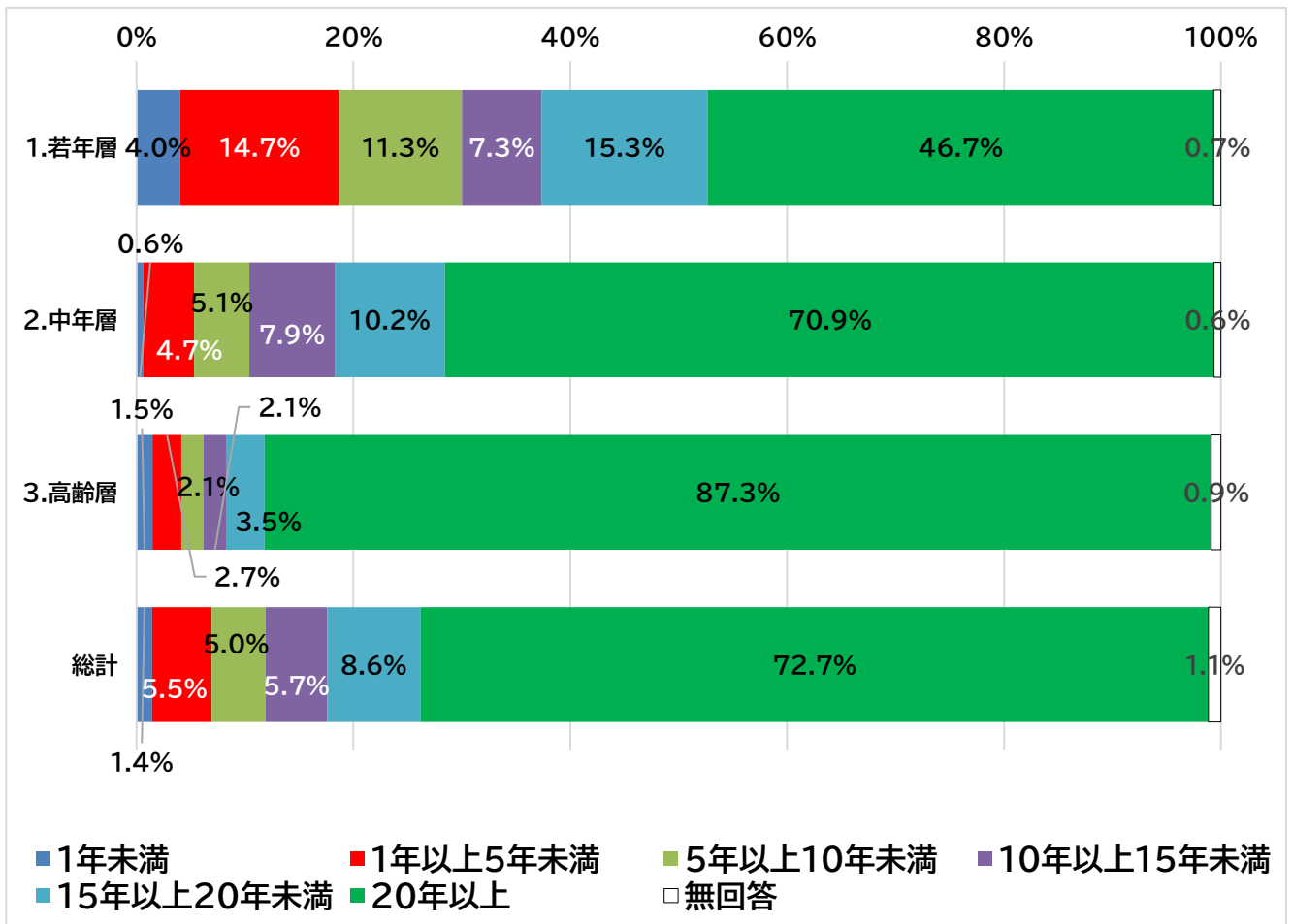


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「20年以上」が最も高い比率を占め、46.7%であった。しかし、「1年以上5年未満」、「5年以上10年未満」もそれぞれ14.7%、11.3%あり、近年市内に転入してきた比率も中年層及び高齢層に比べると高い。
- ・中年層・高齢層では「20年以上」が大部分を占める。

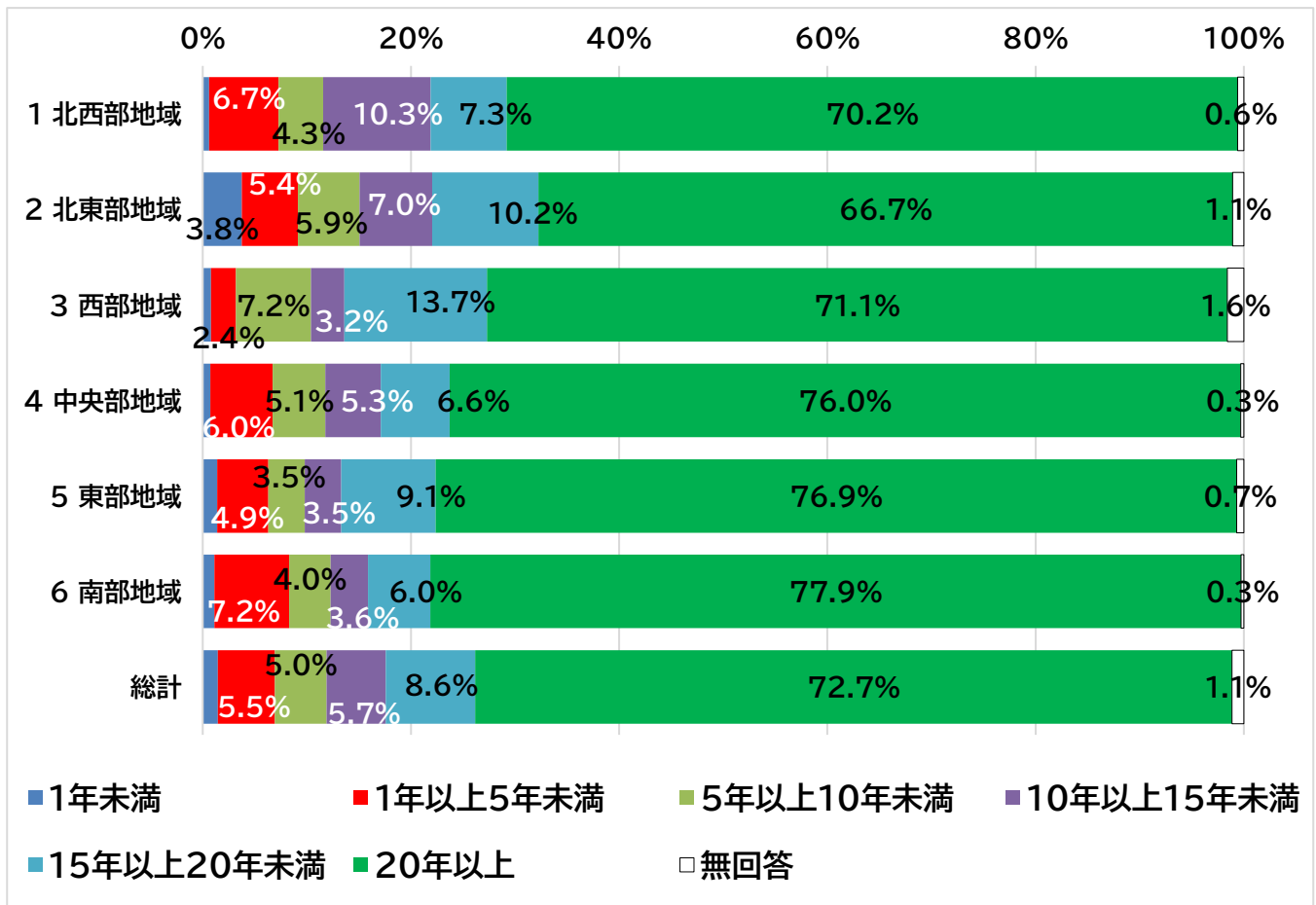
図 16 年齢階層別の回答者の居住年数



② 地域別構想区域別のクロス集計

- ・いずれの地域でも「20年以上」が最も高い比率であり、7割程度を占める。
- ・その中で、北西部地域と北東部地域は居住歴が短い人の比率が他地域と比べやや高くなっている。

図 17 地域別構想区域別の回答者の居住年数



3-6 問6 あなたのお住まいになっている住宅の種類を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果

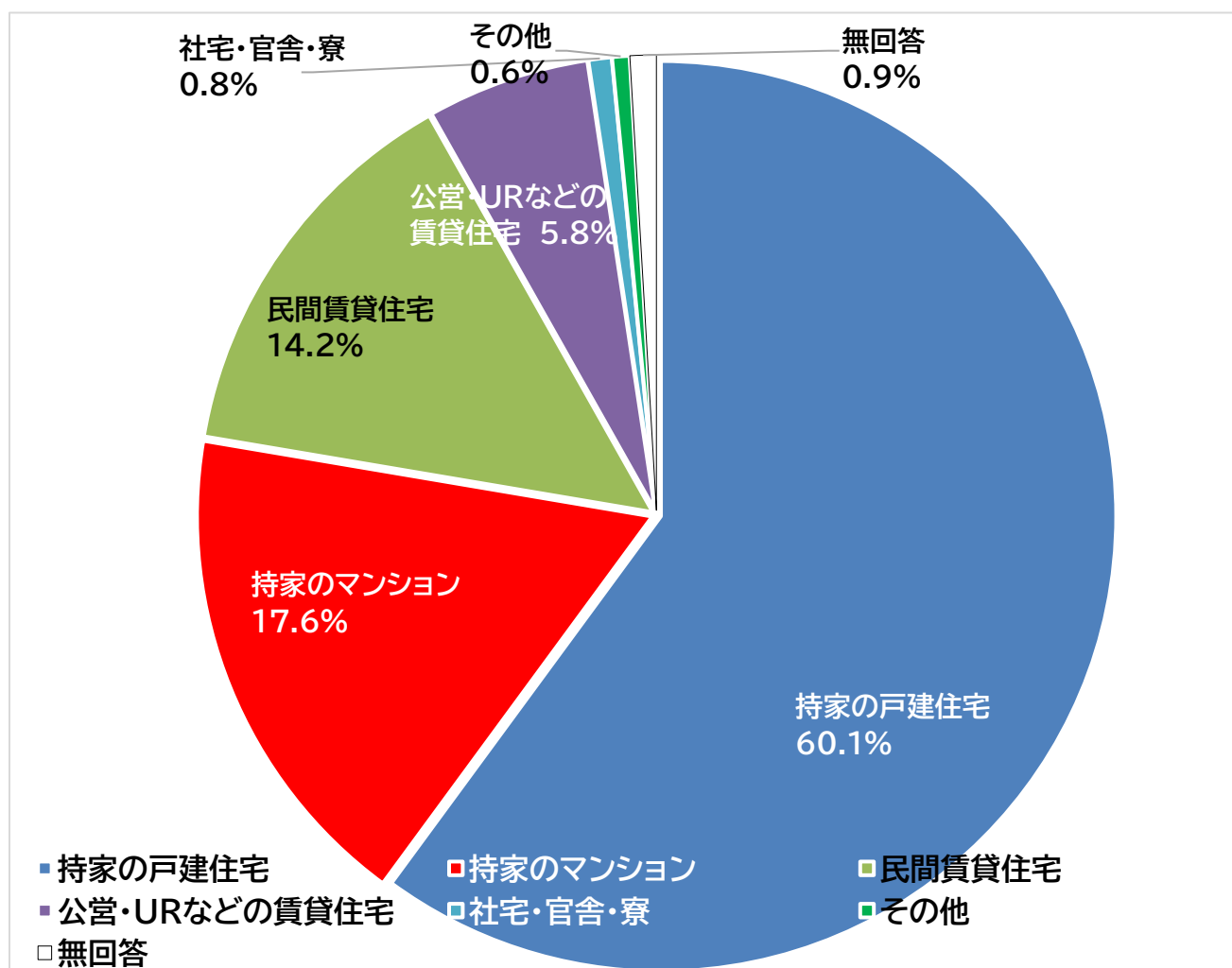
・「持家の戸建住宅」が 60.1%(581 人)を占めた。次いで「持家のマンション」が 17.6%(170 人)、「民間賃貸住宅」が 14.2%(137 人)であった。

表6 回答者の住宅の種類

住宅の種類	回答数	回答者比率
持家の戸建住宅	581	60.1%
持家のマンション	170	17.6%
民間賃貸住宅	137	14.2%
公営・URなどの賃貸住宅	56	5.8%
社宅・官舎・寮	8	0.8%
その他	6	0.6%
無回答	9	0.9%
総計	967	100.0%

【その他】家族所有、施設 ほか

図 18 回答者の住宅の種類

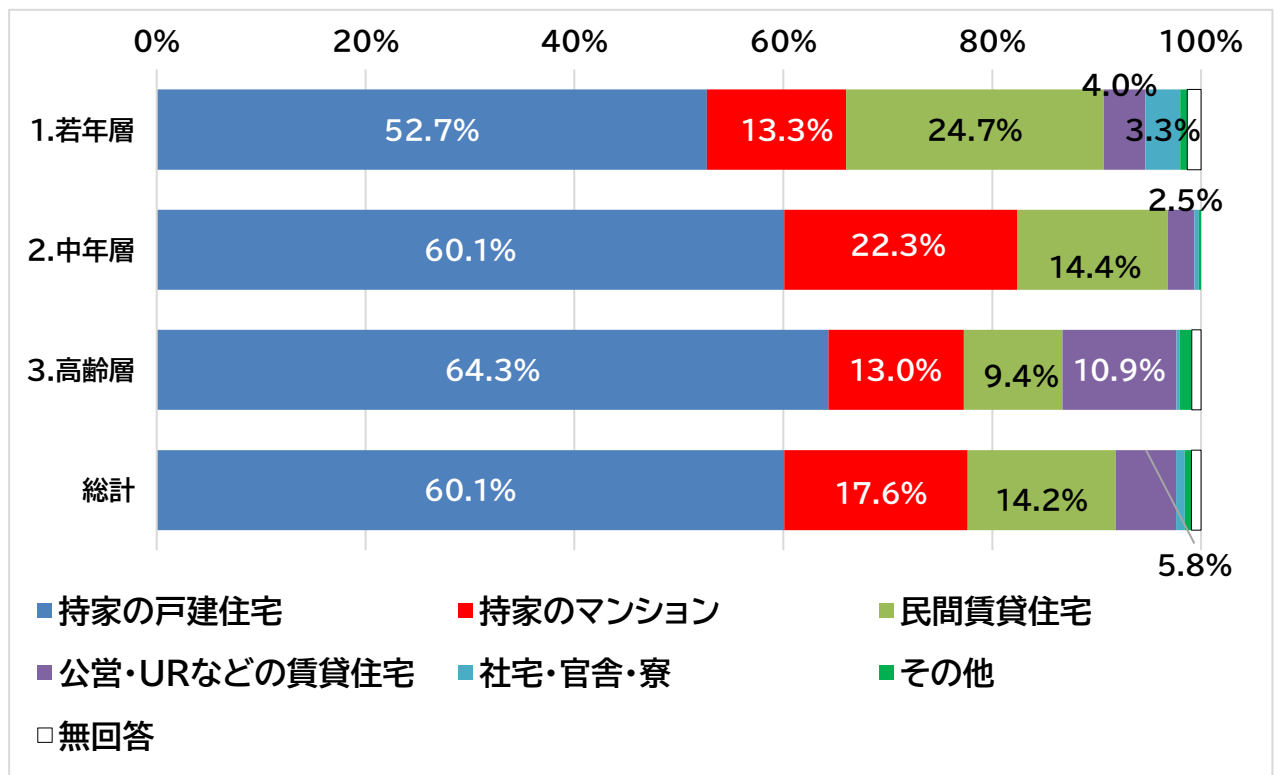


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・いずれの階層でも「持家の戸建住宅」が50%以上の多数を占めた。また、年齢階層が上がるほど「持家の戸建住宅」の比率は高くなる。
- ・若年層と中年層を比較すると、若年層では「民間賃貸住宅」の比率が「持家のマンション」の比率を上回るが、中年層では、逆転して「持家のマンション」が「民間賃貸住宅」を上回る。
- ・高齢層では、「公営・URなどの賃貸住宅」の比率が相対的に高く、10.9%となっている。

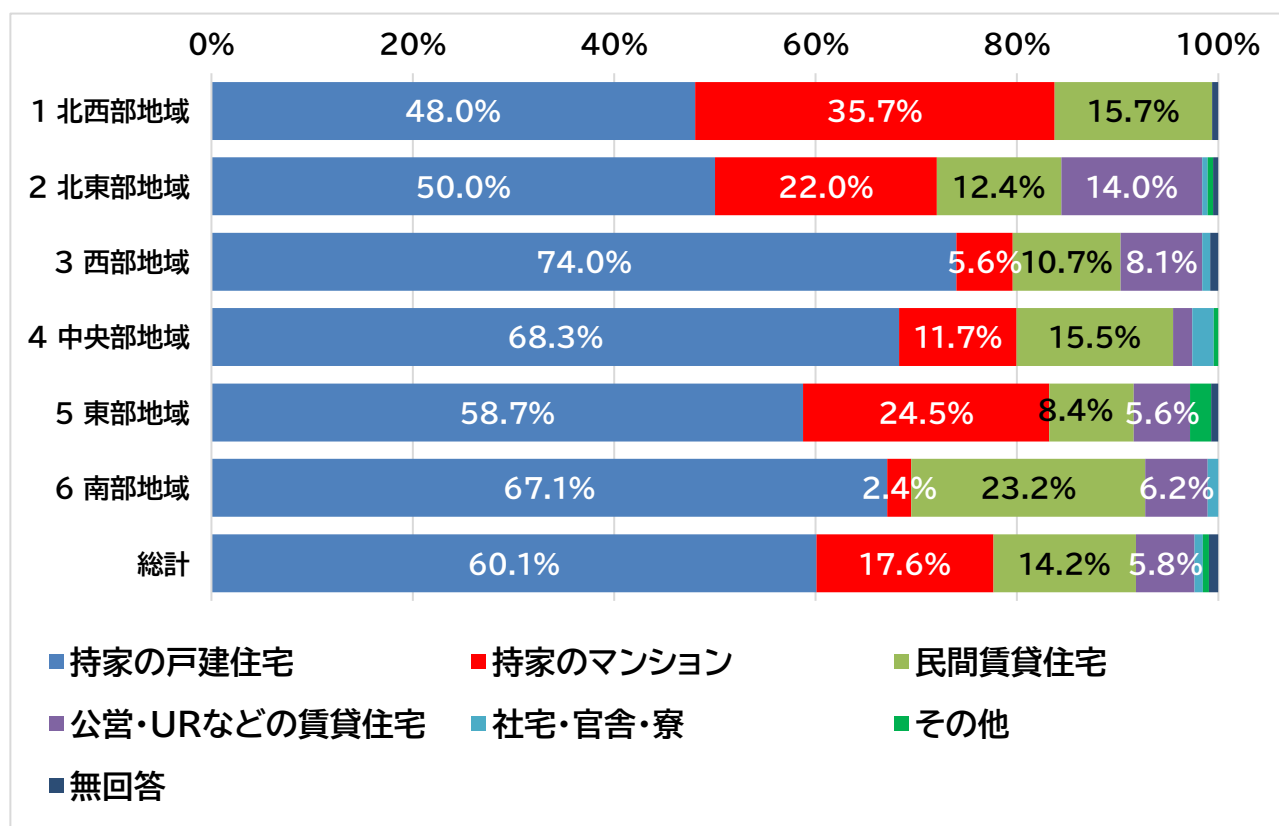
図 19 年齢階層別の回答者の住宅の種類



② 地域別構想区域別のクロス集計

- ・いずれの地域でも「持家の戸建住宅」が多数を占めた。
- ・中でも、西部地域は 74.0%、中央部地域は 68.3%、南部地域は 67.1%と「持家の戸建住宅」の比率が高い。
- ・また、北西部地域と東部地域では「持家のマンション」がそれぞれ 35.7%、24.5%と高い比率となっている。
- ・南部地域では「民間賃貸住宅」の比率が 23.2%と高い。一方、北東部地域では「公営・UR などの賃貸住宅」が 14.0%で相対的に高い比率となっている。

図 20 地域別構想区域別の回答者の住宅の種類



3-7 問7 あなたのお住まいの場所を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果

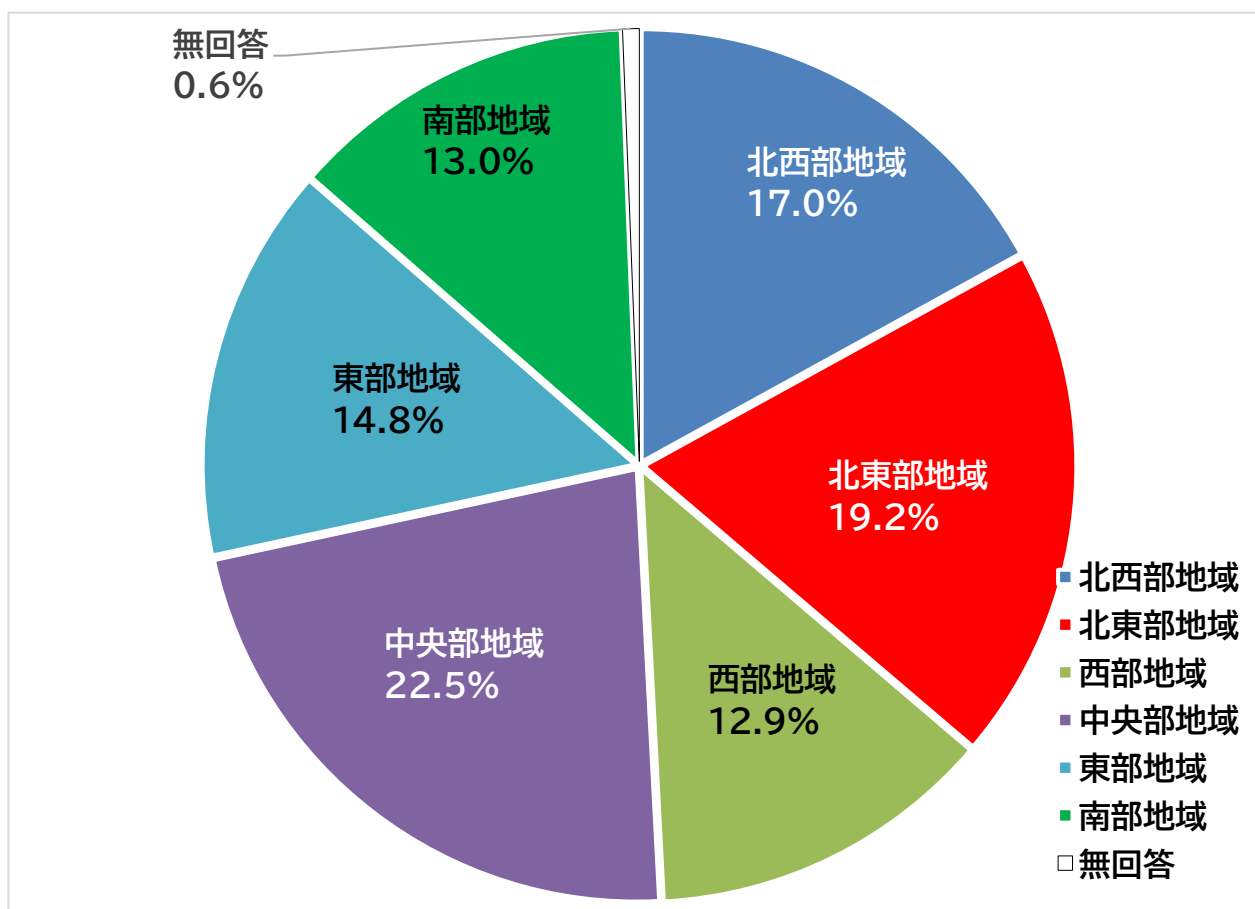
- ・回答者の住所を基に、都市計画マスタープラン地域別構想における区域別の回答者数を求めた。
- ・最も回答者の比率が高かったのは中央部地域で 22.5%、次いで北東部地域の 19.2%、以下、北西部地域 17.0%、東部地域 14.8%、南部地域 13.0%、西部地域 12.9%と続く。

表7 回答者の居住地(地域別構想区域)

地域別構想区域別	回 答 数	回答者比率
北 西 部 地 域	164.4	17.0%
北 東 部 地 域	186.0	19.2%
西 部 地 域	125.1	12.9%
中 央 部 地 域	217.1	22.5%
東 部 地 域	143.0	14.8%
南 部 地 域	125.4	13.0%
無 回 答	6.0	0.6%
総 計	967	100.0%

注)複数の地域にまたがる住所については、それぞれの地域別の面積比に応じて回答数を配分した。

図 21 回答者の居住地(地域別構想区域)

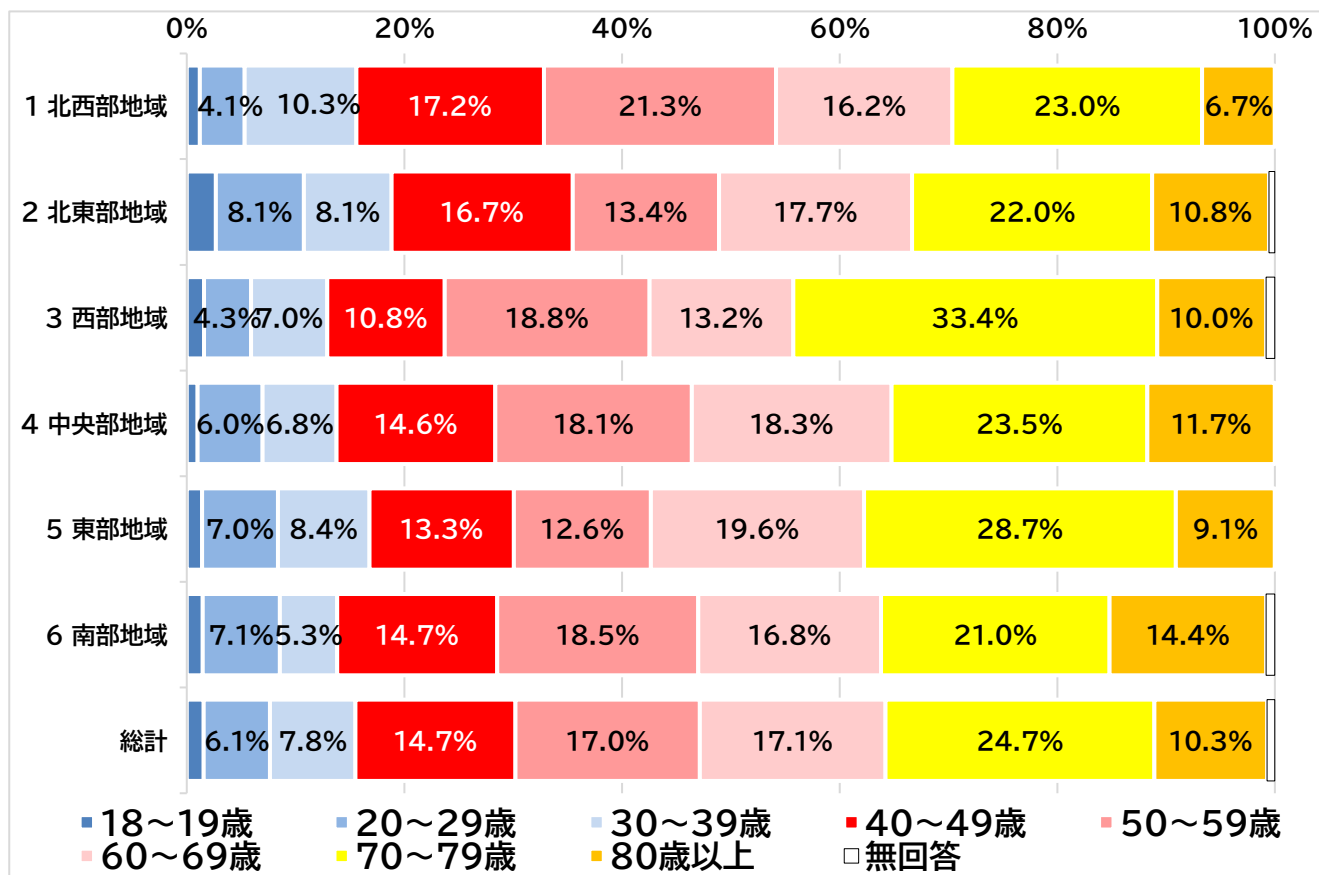


(2) クロス集計結果

地域別の年齢階層

- ・地域別の年齢区分別回答者数を見ると、西部地域での70～79歳の高齢者の比率が33.4%と特に高くなっている。
- ・一方、北西部地域、北東部地域、中央部地域及び南部地域では、中年層の比率が高くなっている。

図 22 地域別の年齢階層



3-8 問8 あなたの勤務先または通学先を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

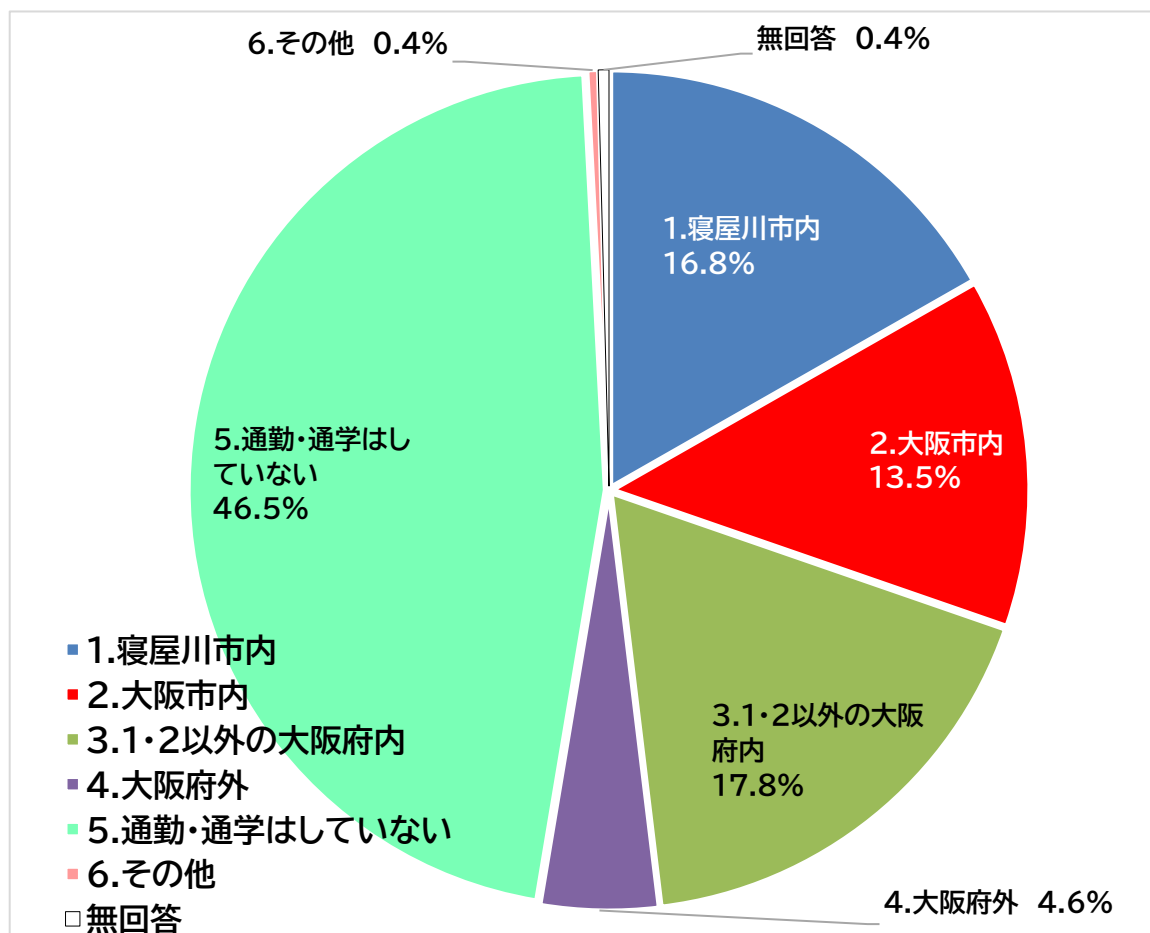
(1) 単純集計結果

- ・「5.通勤・通学はしていない」人が 46.5%(450 人)を占めた。
- ・通勤・通学先のある人では、「3.寝屋川市・大阪市以外の大阪府内」が 17.8%(172 人)、「1.寝屋川市内」が 16.8%(162 人)、「2.大阪市内」が 13.5%(131 人)であった。
- ・「4.大阪府外」は 4.6%(44 人)であった。

表8 回答者の勤務先・通学先

通 勤 ・ 通 学 先	回 答 数	回 答 者 比 率
1. 寝屋川市内	162	16.8%
2. 大阪市内	131	13.5%
3. 1・2 以外の大阪府内	172	17.8%
4. 大阪府外	44	4.6%
5. 通勤・通学はしていない	450	46.5%
6. その他	4	0.4%
無回答	4	0.4%
総計	967	100.0%

図 23 回答者の勤務先・通学先

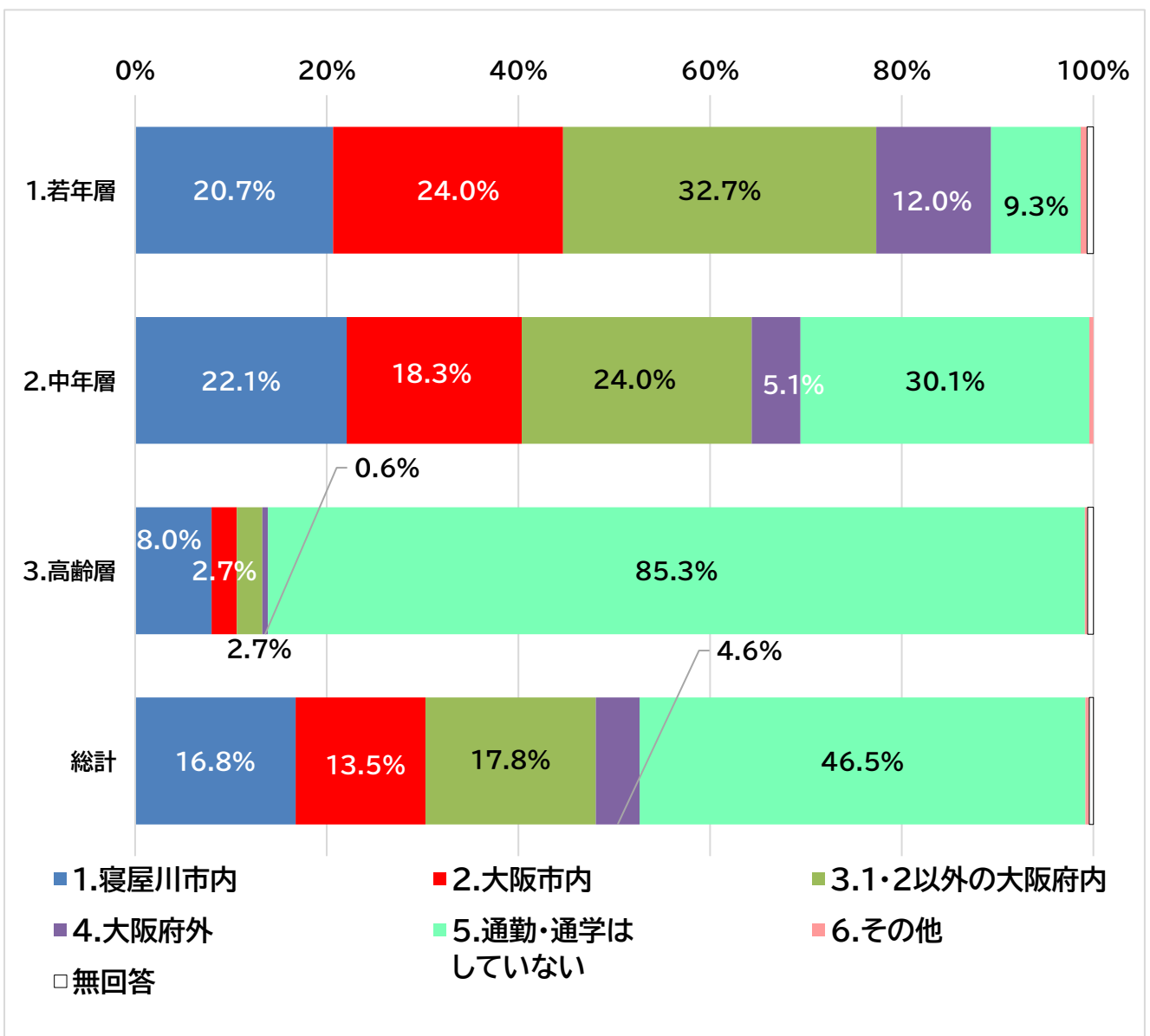


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「3.寝屋川市・大阪市以外の大阪府内」が最も高く 32.7%であった。次いで「2.大阪市内」が 24.0%、「1.寝屋川市内」が 20.7%であった。
- ・中年層では、「5.通勤・通学はしていない」人は 30.1%であった。通勤・通学先では「3.寝屋川市・大阪市以外の大阪府内」が 24.0%、「1.寝屋川市内」が 22.1%、「2.大阪市内」が 18.3%であり、若年層と比べ、寝屋川市内と大阪市内が逆転している。
- ・高齢層では「5.通勤・通学はしていない」が 85.3%と大部分を占める。

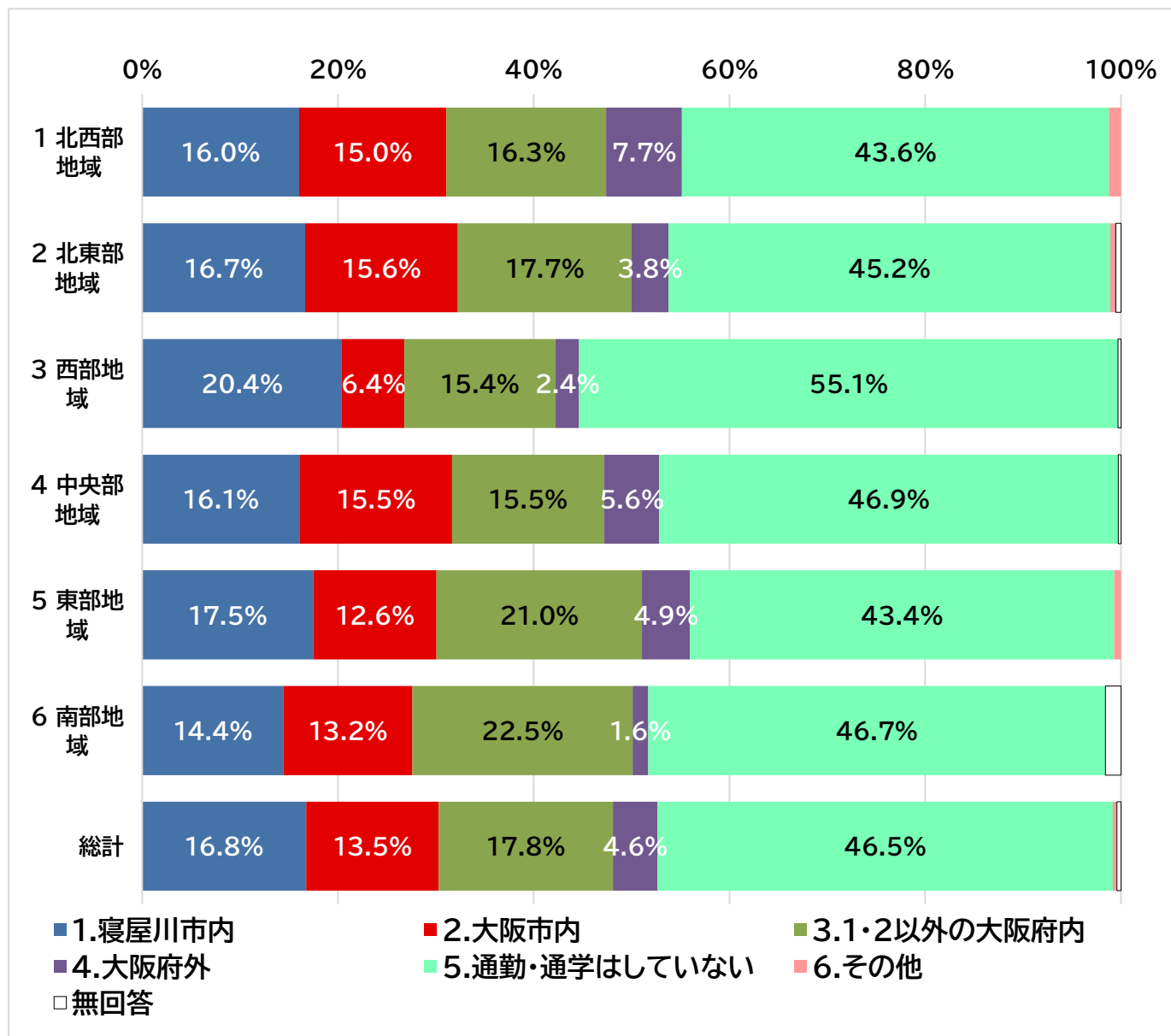
図 24 年齢階層別の回答者の勤務先・通学先



② 地域別構想区域別のクロス集計

・西部地域では、「1.寝屋川市内」の比率が 20.4%と他地域に比べ高く、「2.大阪市内」の比率が 6.4%と特に低くなっている。

図 25 地域別構想区域別の回答者の勤務先・通学先



3-9 問9 あなたの主な通勤または通学方法を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果

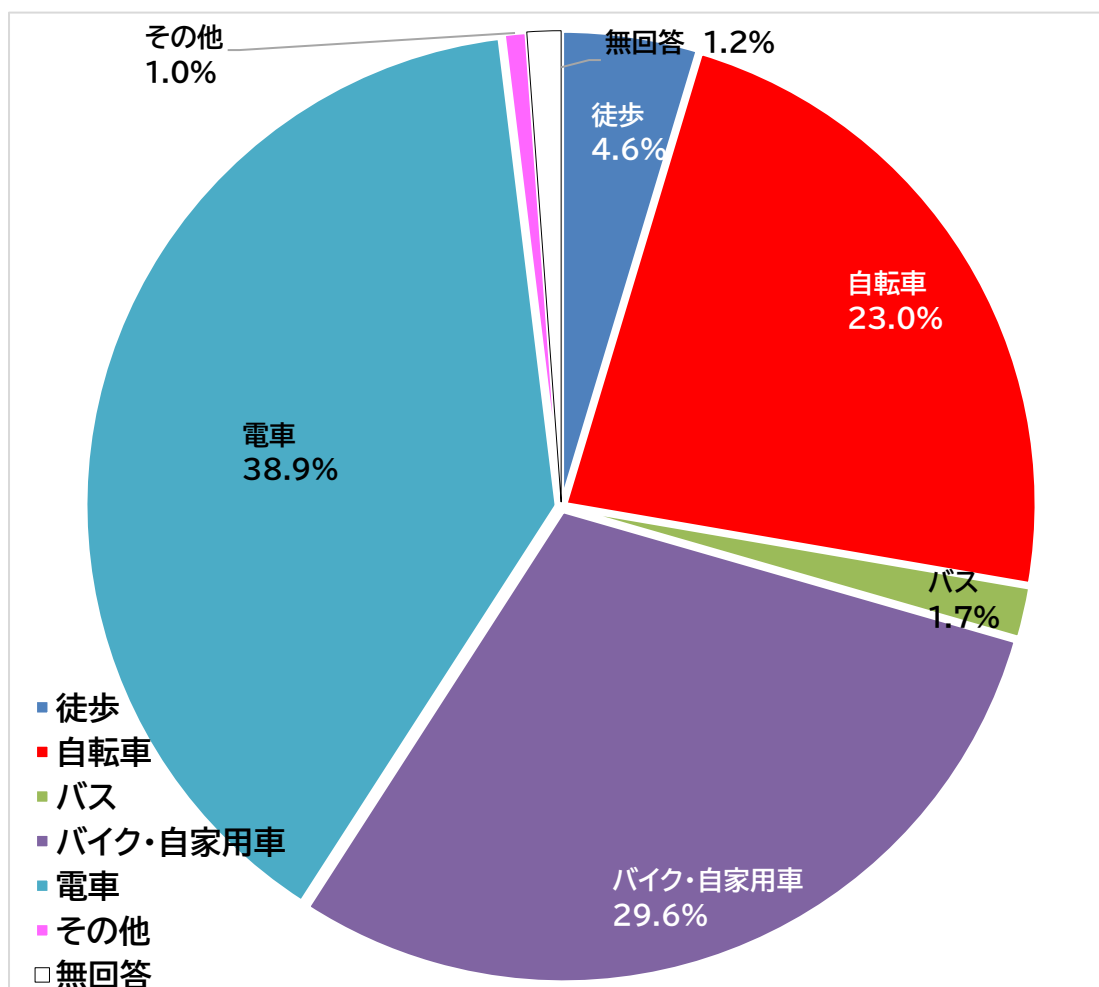
・通勤・通学している人の総数 517 人のうち、「電車」が 38.9%(201 人)と最も高い比率であり、次いで「バイク・自家用車」が 29.6%(153 人)、「自転車」23.0%(119 人)と続く。

表9 回答者の通勤・通学手段

通勤・通学手段	回答数	回答者比率
徒 歩	24	4.6%
自 転 車	119	23.0%
バ ス	9	1.7%
バイク・自家用車	153	29.6%
電 車	201	38.9%
そ の 他	5	1.0%
無 回 答	6	1.2%
総 計	517	100.0%

注)通勤・通学をしていない 450 人

図 26 回答者の通勤・通学手段

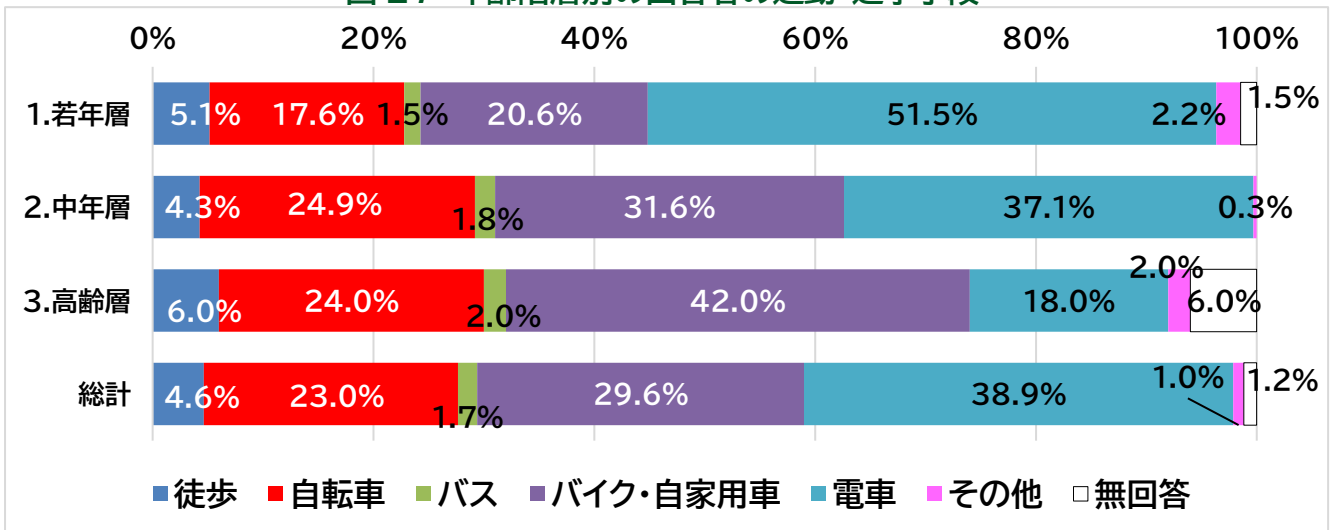


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「電車」が 51.5%と最も高い比率であった。次いで「バイク・自家用車」20.6%、「自転車」17.6%となっている。
- ・中年層でも「電車」が 37.1%と最も高い比率であるが、「バイク・自家用車」が 31.6%となっており、若年層と比べるとバイク・自家用車や自転車の比率が高い。
- ・高齢層では「バイク・自家用車」が 42.0%と最も高い比率となっている。

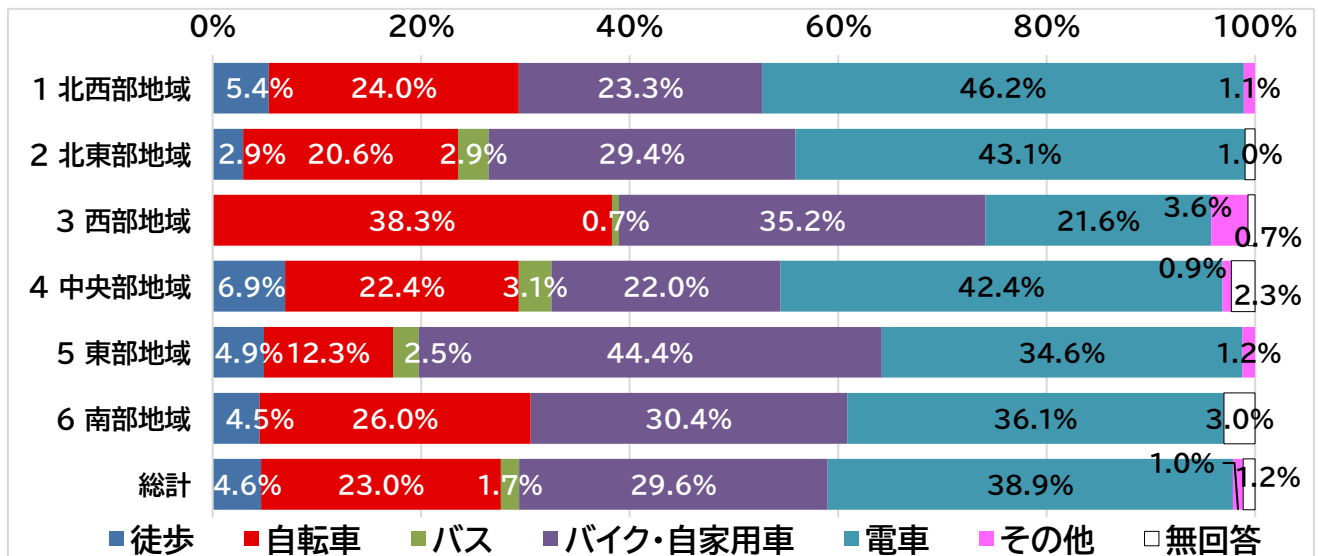
図 27 年齢階層別の回答者の通勤・通学手段



② 地域別構想区域別のクロス集計

- ・西部地域は「電車」の比率が 21.6%と他地域(北西部・北東部・中央部)の半分程度になっている。一方、「自転車」が 38.3%と 1/3 以上を占めている。
- ・また、東部地域では、「バイク・自家用車」の比率が 44.4%と他地域と比べ高い。

図 28 地域別構想区域別の回答者の通勤・通学手段



3-10 問 10 あなたのお住まいの場所の最寄り駅を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果

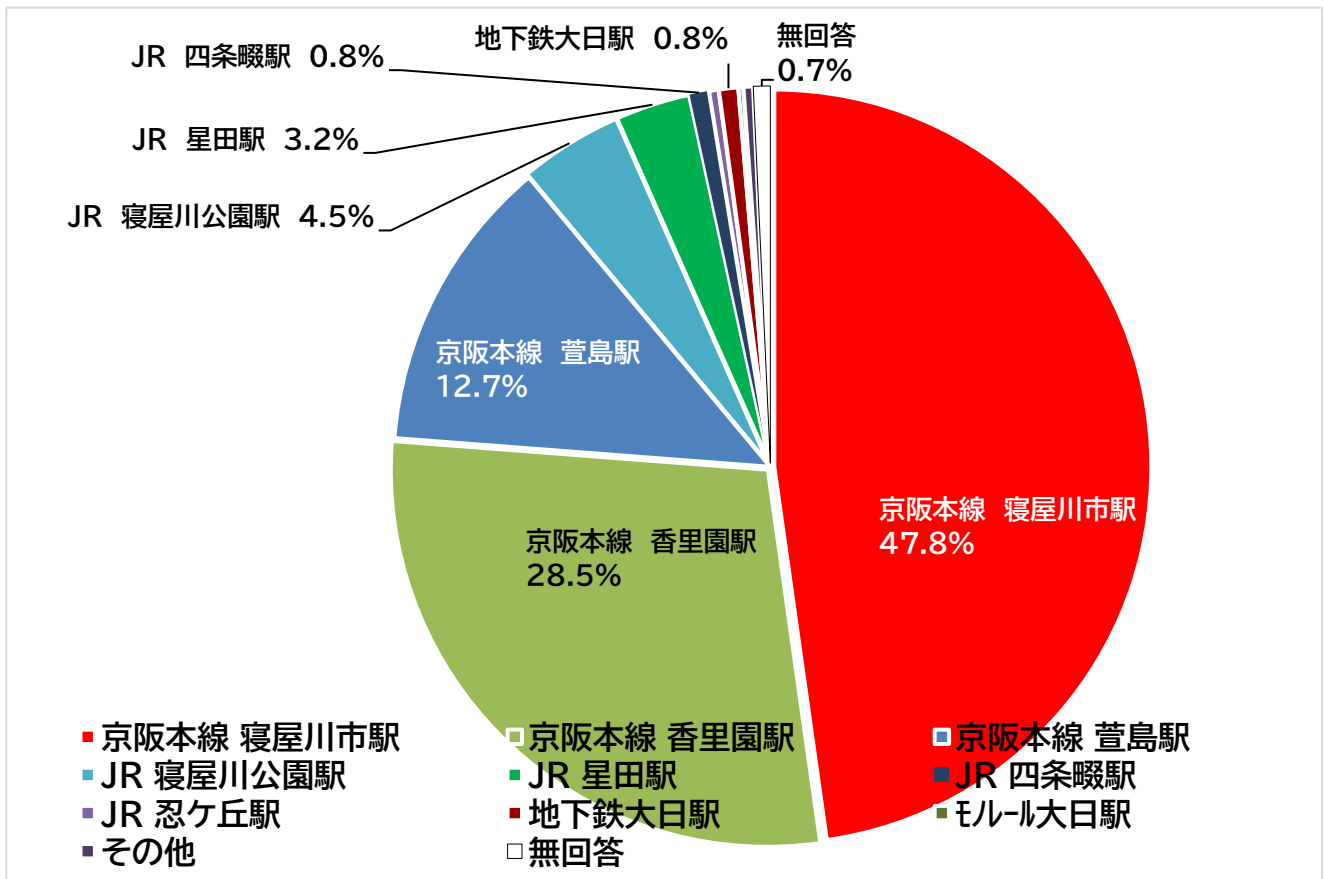
・「京阪本線 寝屋川市駅」が47.8%(462人)で最も高く、次いで「京阪本線 香里園駅」が28.5%(275人)、「京阪本線 萱島駅」が12.7%(123人)と続く。
 ・JR学研都市線では「寝屋川公園駅」が4.5%(43人)、「星田駅」が3.2%(31人)である。

表 10 回答者の最寄り駅

最寄り駅	回 答 数	回答者比率
京阪本線 寝屋川市駅	462	47.8%
京阪本線 香里園駅	275	28.5%
京阪本線 萱島駅	123	12.7%
JR学研都市線 寝屋川公園駅	43	4.5%
JR学研都市線 星田駅	31	3.2%
JR学研都市線 四条畷駅	8	0.8%
JR学研都市線 忍ヶ丘駅	4	0.4%
地下鉄谷町線大日駅	8	0.8%
大阪モノレール大日駅	2	0.2%
その他	4	0.4%
無回答	7	0.7%
総計	967	100.0%

【その他】京阪本線大和田駅、京阪本線古川橋 ほか

図 29 回答者の最寄り駅

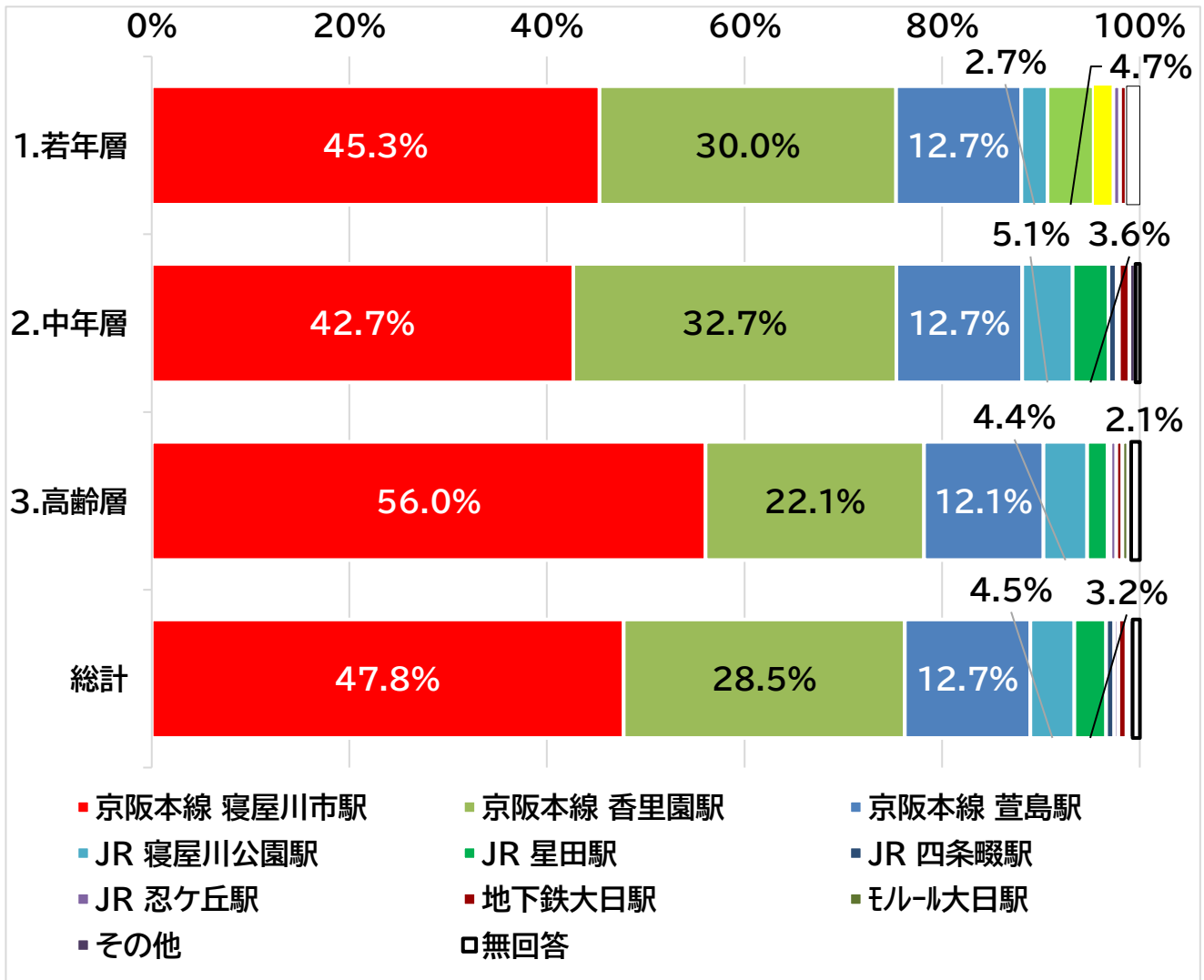


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

・年齢階層別にみると、高齢層では、「京阪本線 寝屋川市駅」の比率が他の階層よりも高く 56.0%となっており、逆に「京阪本線 香里園駅」は 22.1%と若年層・中年層より 10 ポイントほど少なくなっている。

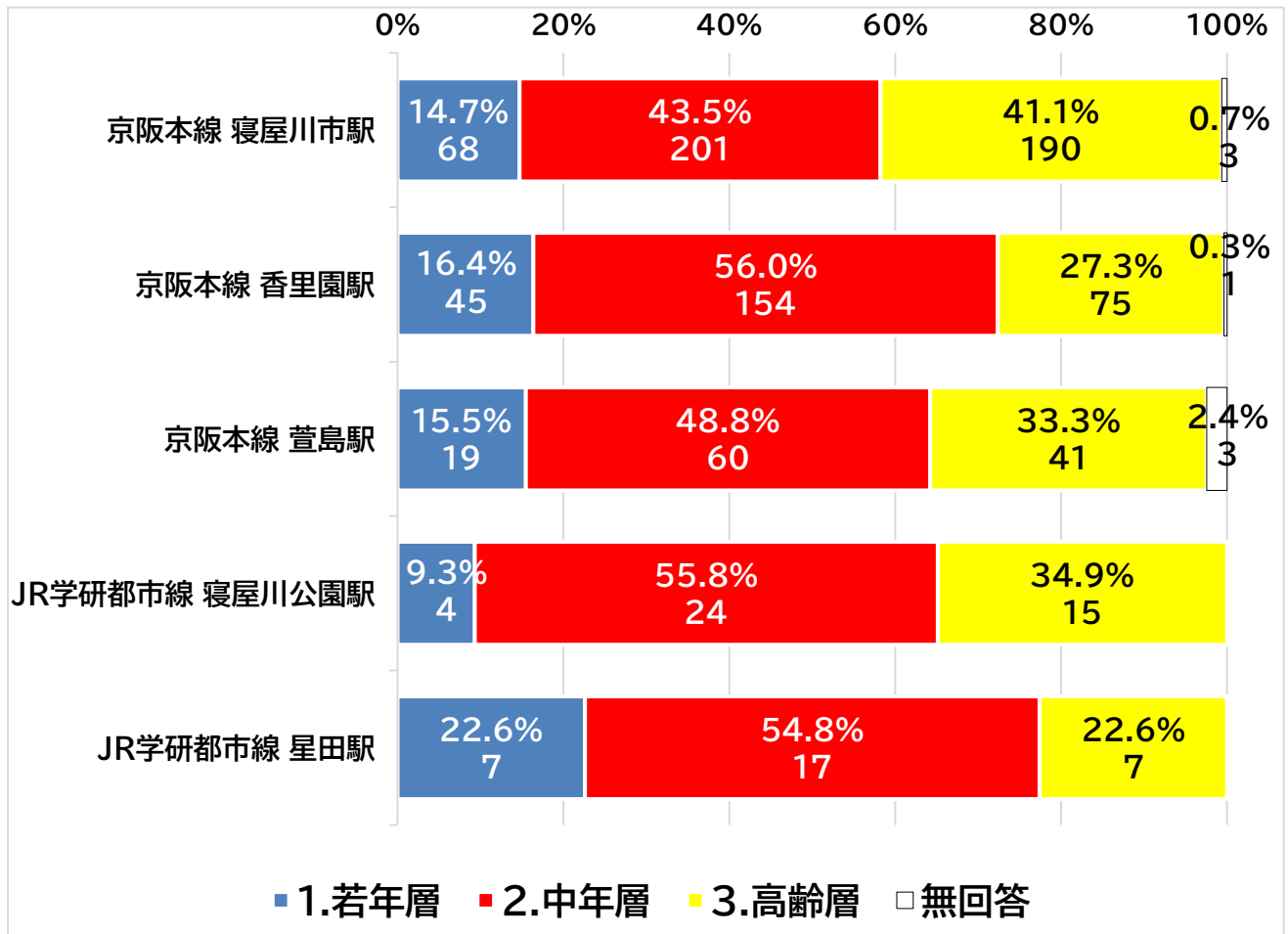
図 30 年齢階層別の回答者の最寄り駅



② 主要駅の年齢階層

・京阪本線 寝屋川市駅、香里園駅及び萱島駅並びに、JR 学研都市線 寝屋川公園駅及び星田駅の主要5駅を最寄り駅とする人の年齢階層を見ると、京阪本線 寝屋川市駅では高齢層の比率が比較的高く、京阪本線 香里園駅では中年層の比率が比較的高い。

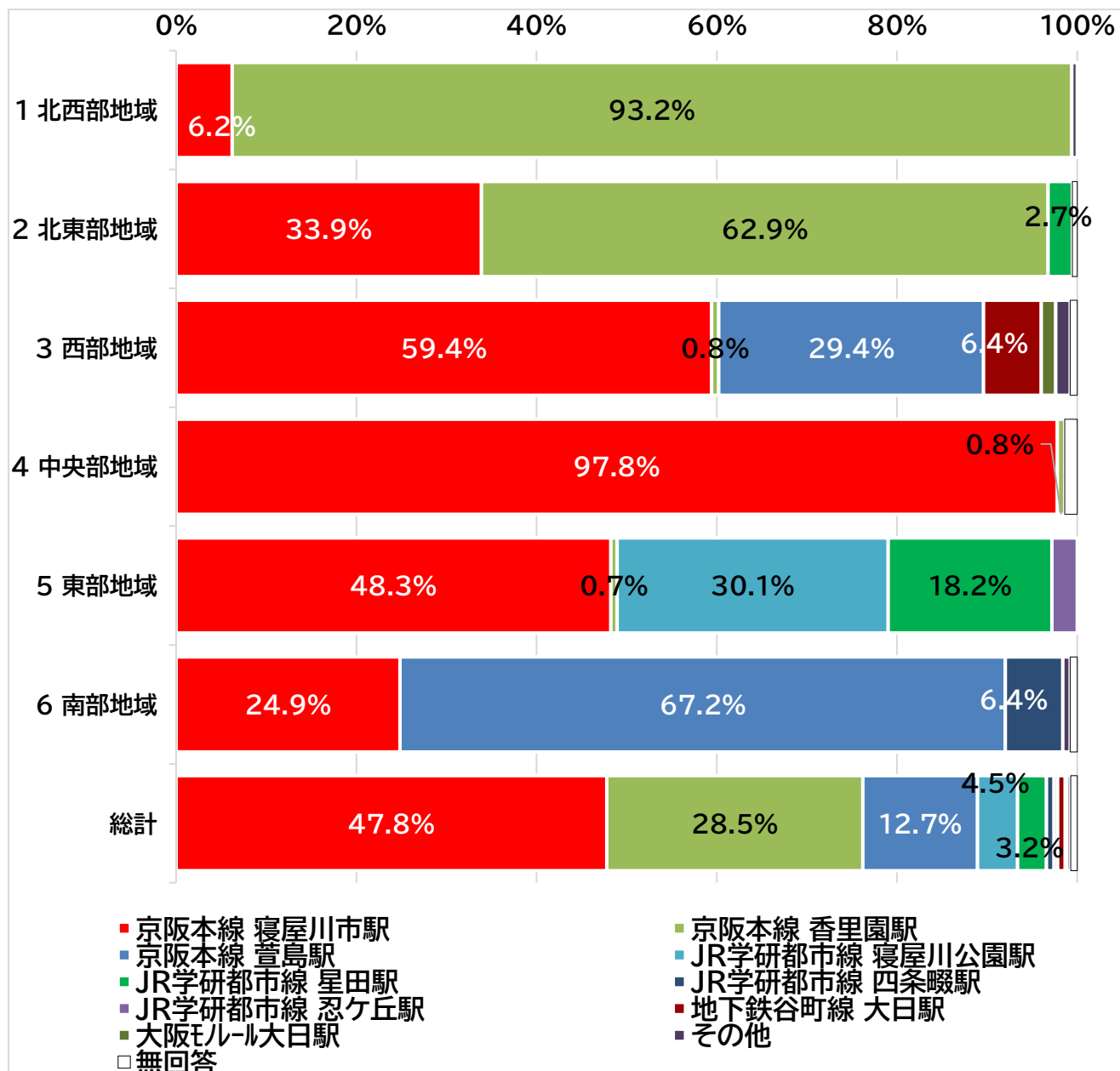
図 31 主要駅を最寄り駅とする回答者の年齢階層構成



③ 地域別構想区域別のクロス集計

・東部地域は、京阪本線 寝屋川市駅を最寄り駅とする人が約半数を占め、次いで JR 学研都市線寝屋川公園駅を最寄り駅としている人が約3割を占める。

図 32 地域別構想区域別の回答者の最寄り駅



3-11 問 11 あなたのお住まいの場所から最寄り駅までの主な移動手段を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果

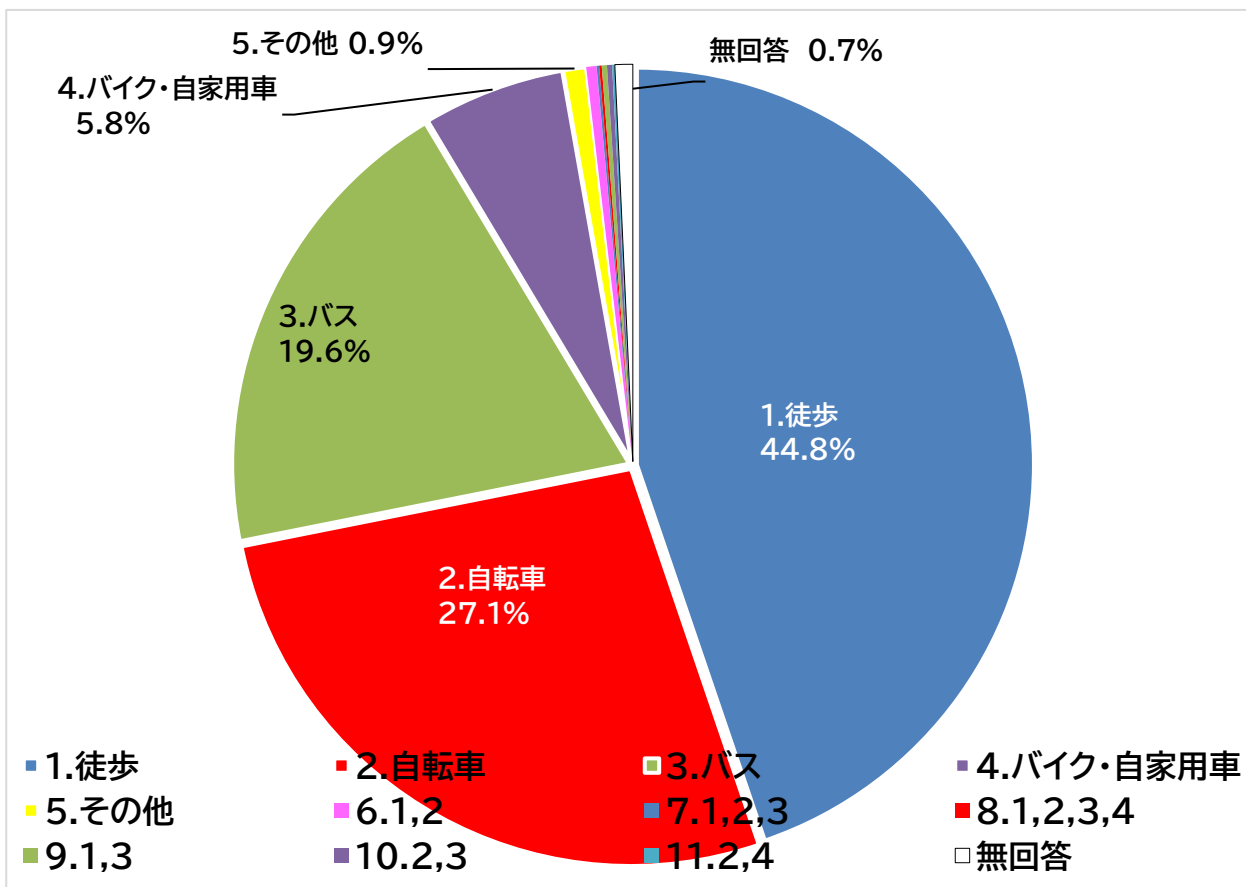
・「1.徒歩」が最も高い 44.8%(433 人)を占めた。次いで「2.自転車」が 27.1%(262 人)、さらに「3.バス」19.6%(189 人)と続く。

表 11 回答者の最寄り駅への移動手段

最寄り駅への移動手段	回答者数	回答者比率
1.徒歩	433	44.8%
2.自転車	262	27.1%
3.バス	189	19.6%
4.バイク・自家用車	56	5.8%
5.その他	9	0.9%
6.1,2	4	0.4%
7.1,2,3	1	0.1%
8.1,2,3,4	1	0.1%
9.1,3	2	0.2%
10.2,3	2	0.2%
11.2,4	1	0.1%
無回答	7	0.7%
総計	967	100.0%

【その他】使わない、タクシー ほか

図 33 回答者の最寄り駅への移動手段

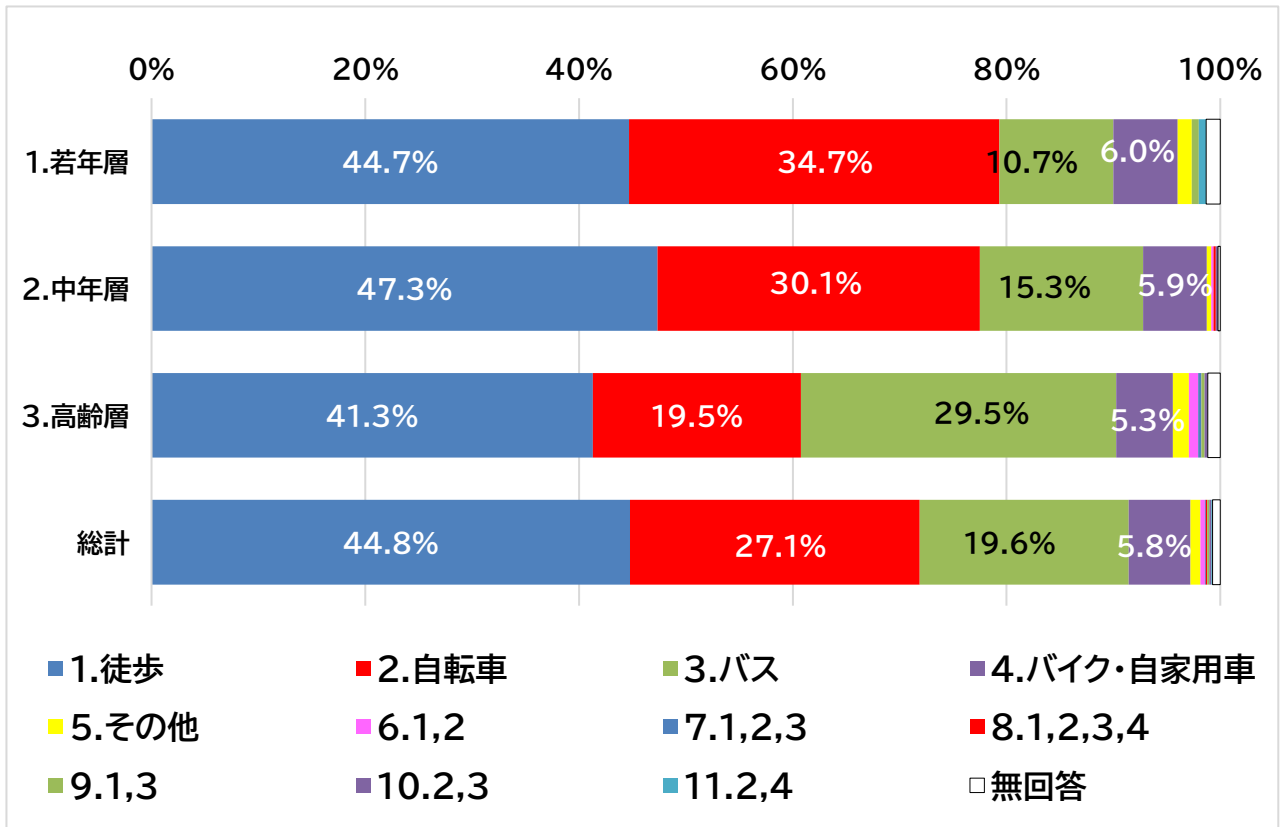


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

・どの階層も「1.徒歩」が最も高く40%以上を占めている。しかし、年齢階層が上がると「1.徒歩」や「2.自転車」の比率が下がり、「3.バス」の比率が上がってきている。

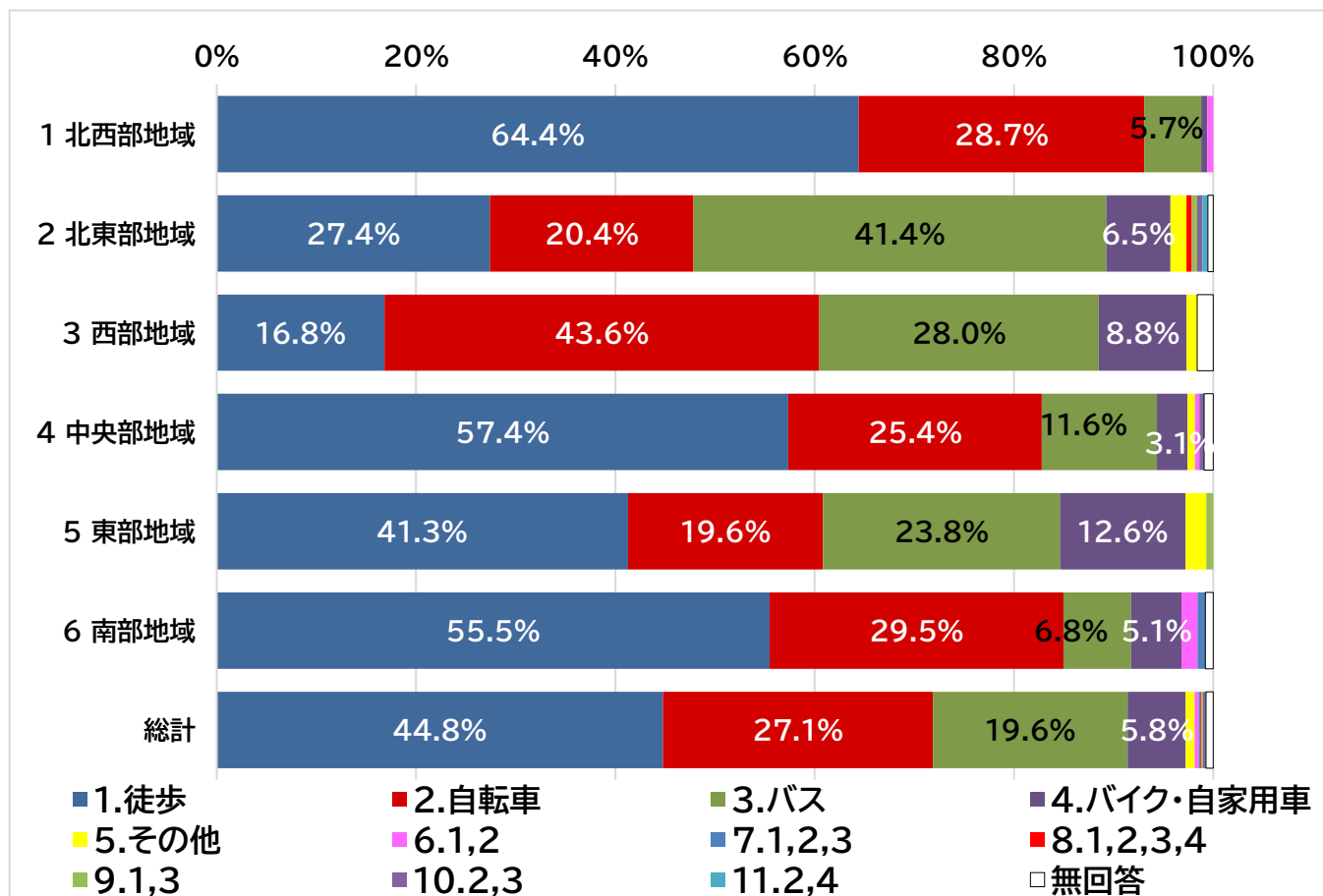
図 34 年齢階層別の回答者の最寄り駅への移動手段



② 地域別構想区域別のクロス集計

- ・北西部地域、南部地域では「3.バス」の比率が10%以下であり、比較的最寄り駅までの距離が近いことがうかがえる。一方、北東部地域では「3.バス」の比率が41.4%と最も高く、西部地域や東部地域もそれぞれ28.0%、23.8%と「3.バス」の比率が高くなっている。
- ・西部地域では、「2.自転車」が43.6%と高い比率になっている。

図 35 地域別構想区域別の回答者の最寄り駅への移動手段



3-12 問 12 あなたの鉄道を利用する主な目的を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果

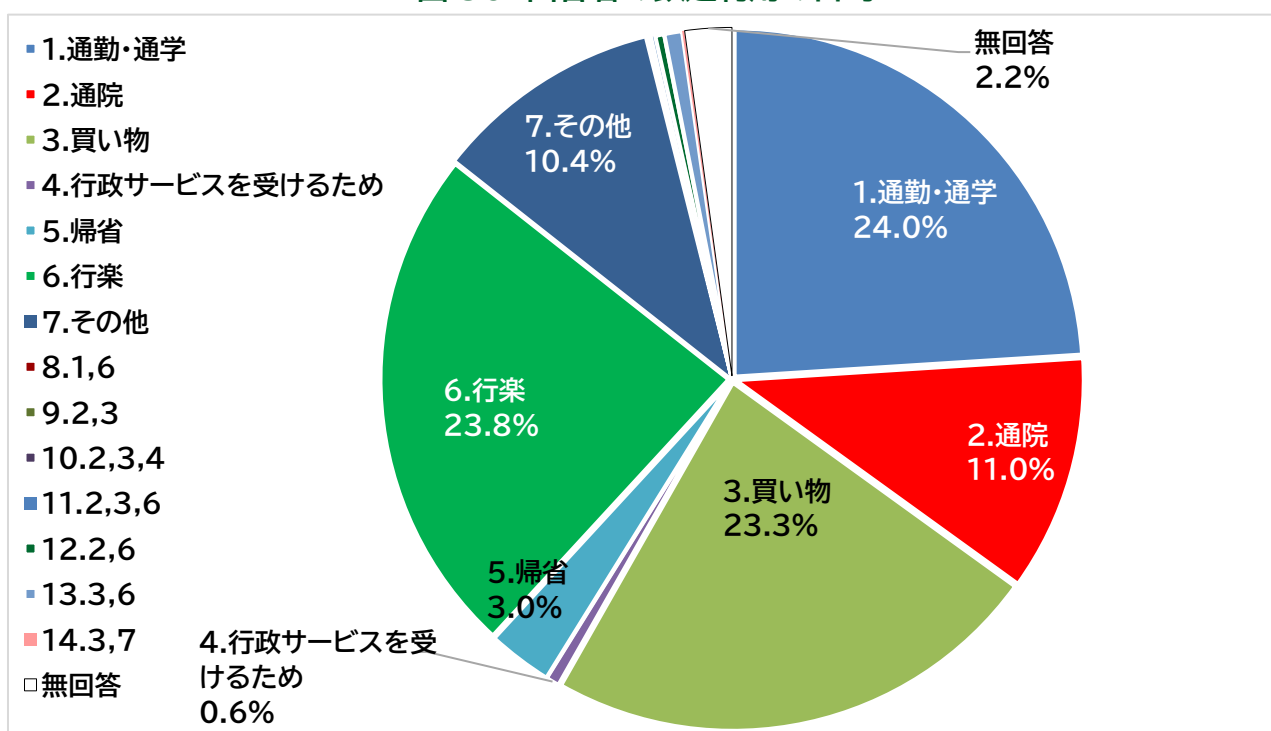
- ・「通勤・通学」が最も高い 24.0%(232 人)、次いで「行楽」の 23.8%(230 人)、「買い物」23.3%(225 人)であった。この3つで7割を超える。
- ・鉄道利用の目的は一つとは限らず、1 回の利用で複数の目的を果たすことが多いため、複数回答が目立ったと考えられる。

表 12 回答者の鉄道利用の目的

鉄 道 利 用 の 目 的	回 答 数	回 答 者 比 率
1.通勤・通学	232	24.0%
2.通院	106	11.0%
3.買い物	225	23.3%
4.行政サービスを受けるため	6	0.6%
5.帰省	29	3.0%
6.行楽	230	23.8%
7.その他	101	10.4%
8.1,6	1	0.1%
9.2,3	1	0.1%
10.2,3,4	1	0.1%
11.2,3,6	1	0.1%
12.2,6	4	0.4%
13.3,6	8	0.8%
14.3,7	1	0.1%
無回答	21	2.2%
総計	967	100.0%

【その他】利用しない、使わない、未利用 ほか

図 36 回答者の鉄道利用の目的

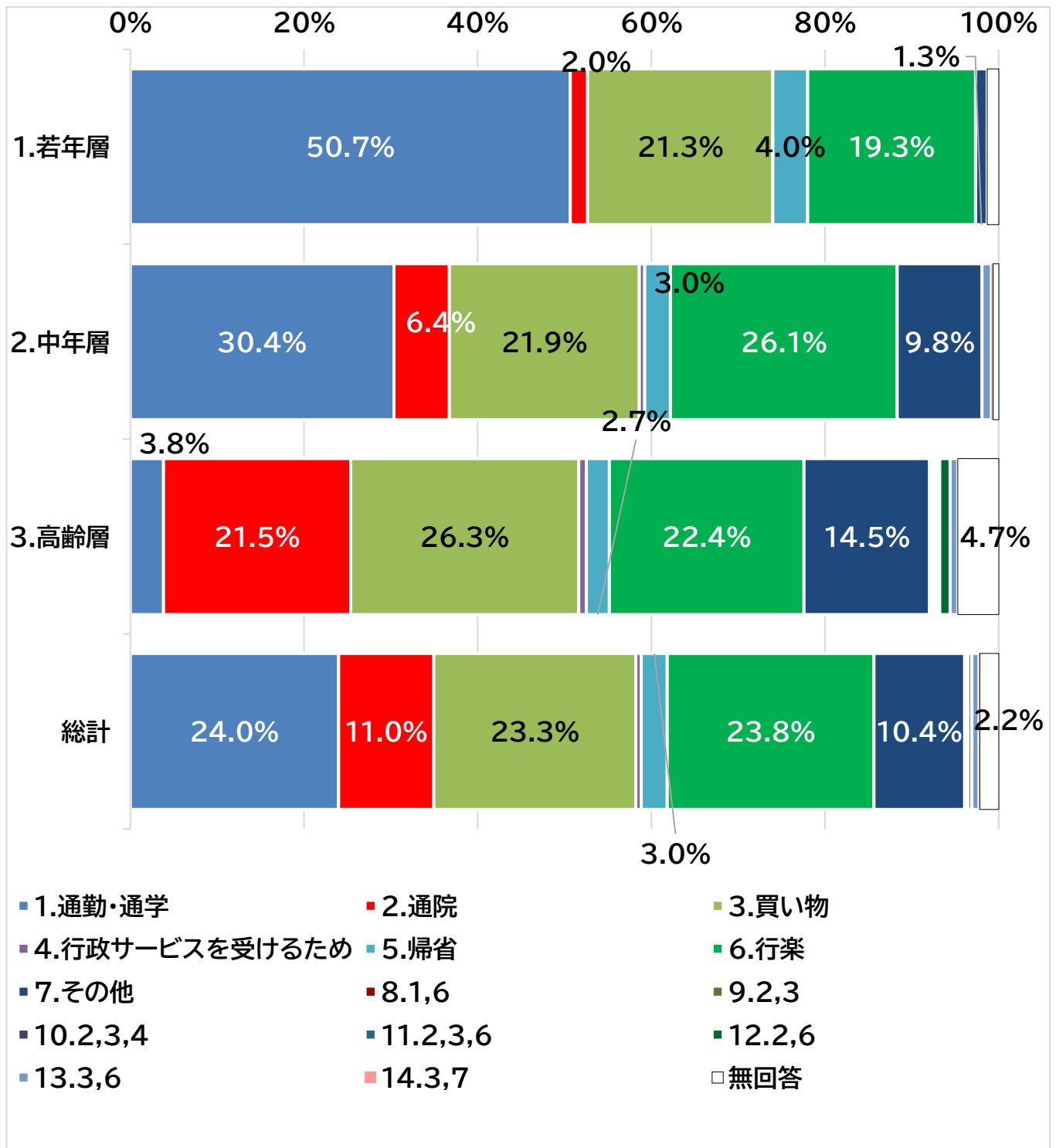


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- 年齢階層が上がるほど「1.通勤・通学」の比率が減少し、代わって「2.通院」の比率が増えている。
- 中年層では「6.行楽」の比率が26.1%と他階層よりも高い比率であり、「1.通勤・通学」に近い割合となっている。

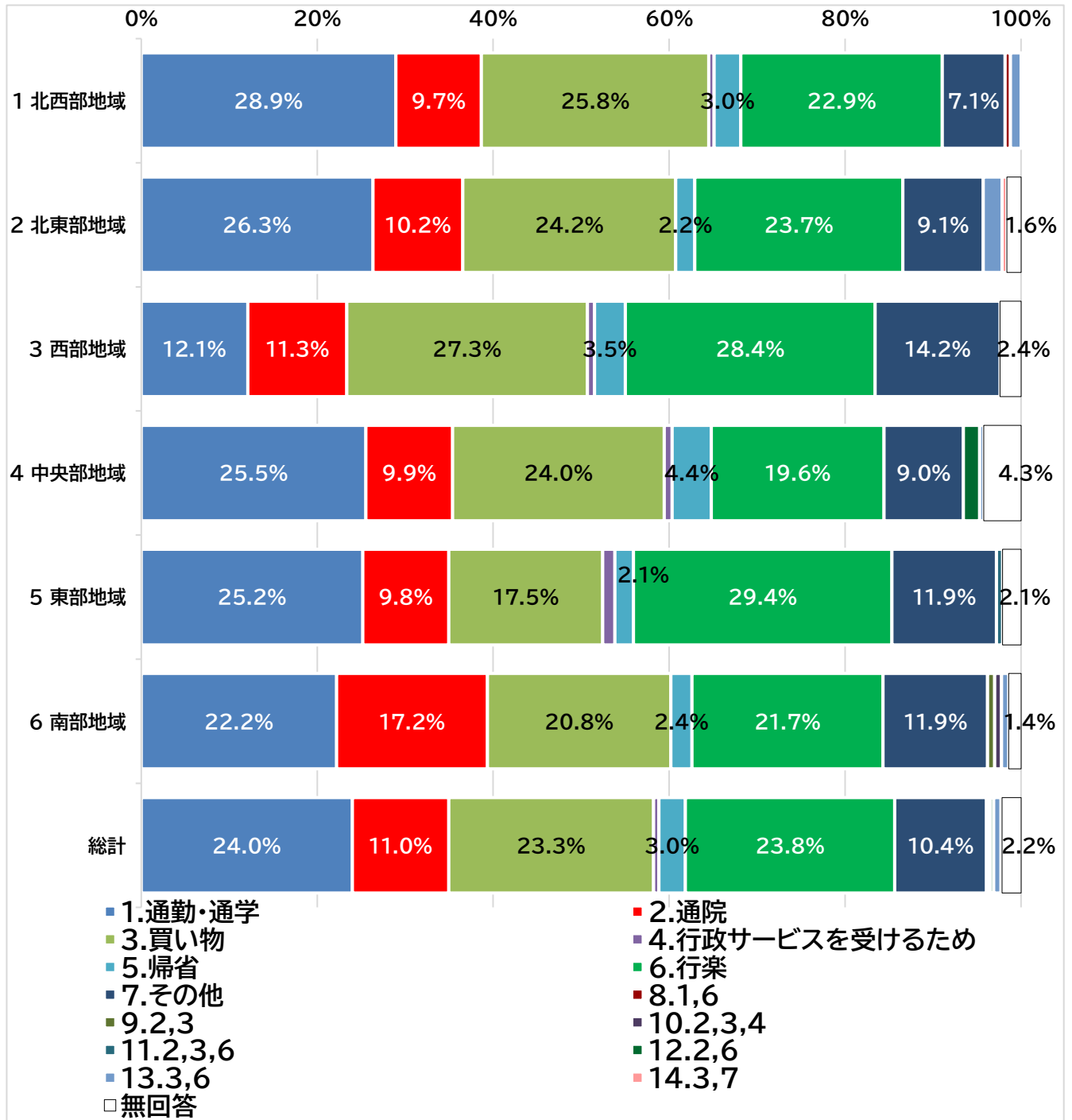
図 37 年齢階層別の回答者の鉄道利用の目的



② 地域別構想区域別のクロス集計

・西部地域は「1.通勤・通学」が12.1%と他の地域と比べ非常に低い比率になっている。代わって「3.買い物」が27.3%で全地域の中で最も高く、「6.行楽」も28.4%と高くなっている。

図 38 地域別構想区域別の回答者の鉄道利用の目的



3-13 問 13 あなたの最寄り駅の利用にかかる満足度を教えてください。(満足度を5段階で表すと何番に該当するか1つ選び、○で囲んでください。)

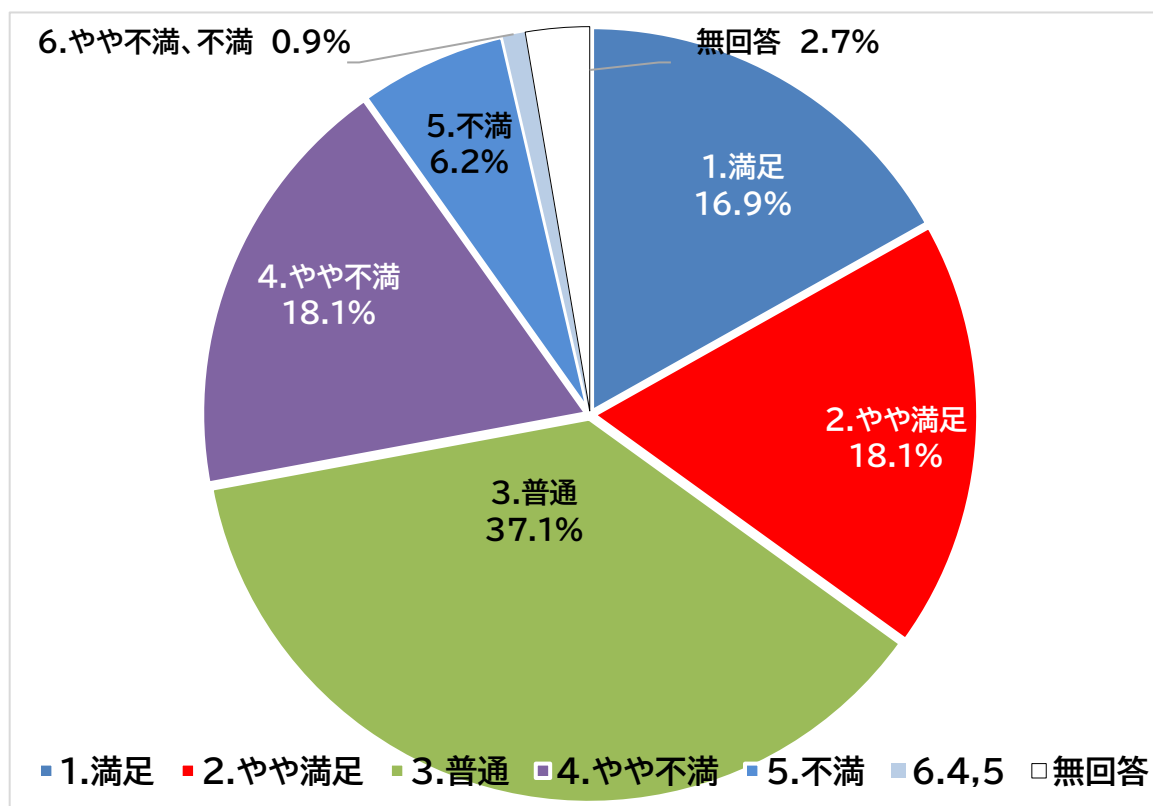
(1) 単純集計結果

- ・「満足」16.9%(163人)、「やや満足」18.1%(175人)で、合わせて35.0%(338人)であった。
- ・一方、「不満」が6.2%(60人)、「やや不満」が18.1%(175人)、「4,5」(やや不満、不満の両方)が0.9%(9人)で、合わせて25.2%(244人)であった。
- ・「普通」が37.1%(359人)で最も高かった。

表 13 回答者の最寄り駅の満足度

最寄り駅の満足度	回答者数	回答者比率
1.満足	163	16.9%
2.やや満足	175	18.1%
3.普通	359	37.1%
4.やや不満	175	18.1%
5.不満	60	6.2%
6.4,5	9	0.9%
無回答	26	2.7%
総計	967	100.0%

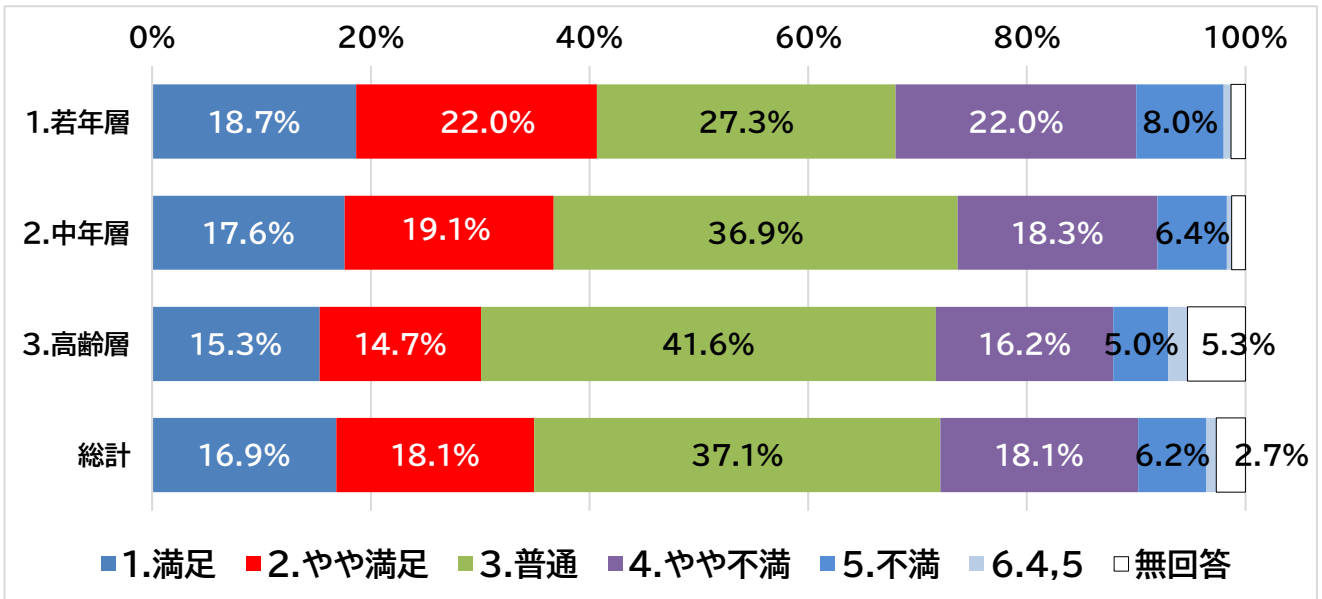
図 39 回答者の最寄り駅の満足度



(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

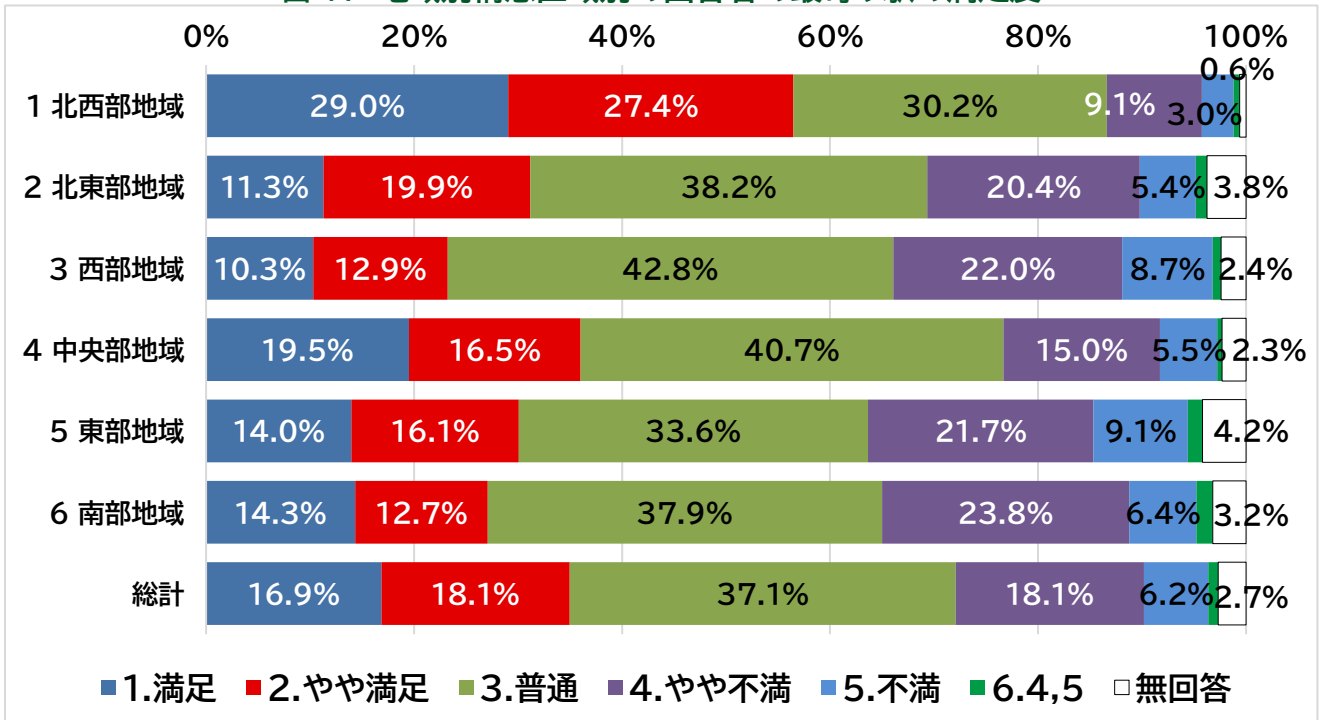
図 40 年齢階層別の回答者の最寄り駅の満足度



② 地域別構想区域別とのクロス集計

- ・北西部地域では「1.満足」、「2.やや満足」合わせて 56.4%を占めており、「4.やや不満」、「5.不満」、「6.4.やや不満、5.不満の両方」の合計 12.7%を大きく上回っている。
- ・一方、北東部地域、西部地域、東部地域及び南部地域では、「4.やや不満」が2割強を占めている。
- ・西部地域と中央部地域では、「普通」が 40%を超えている。

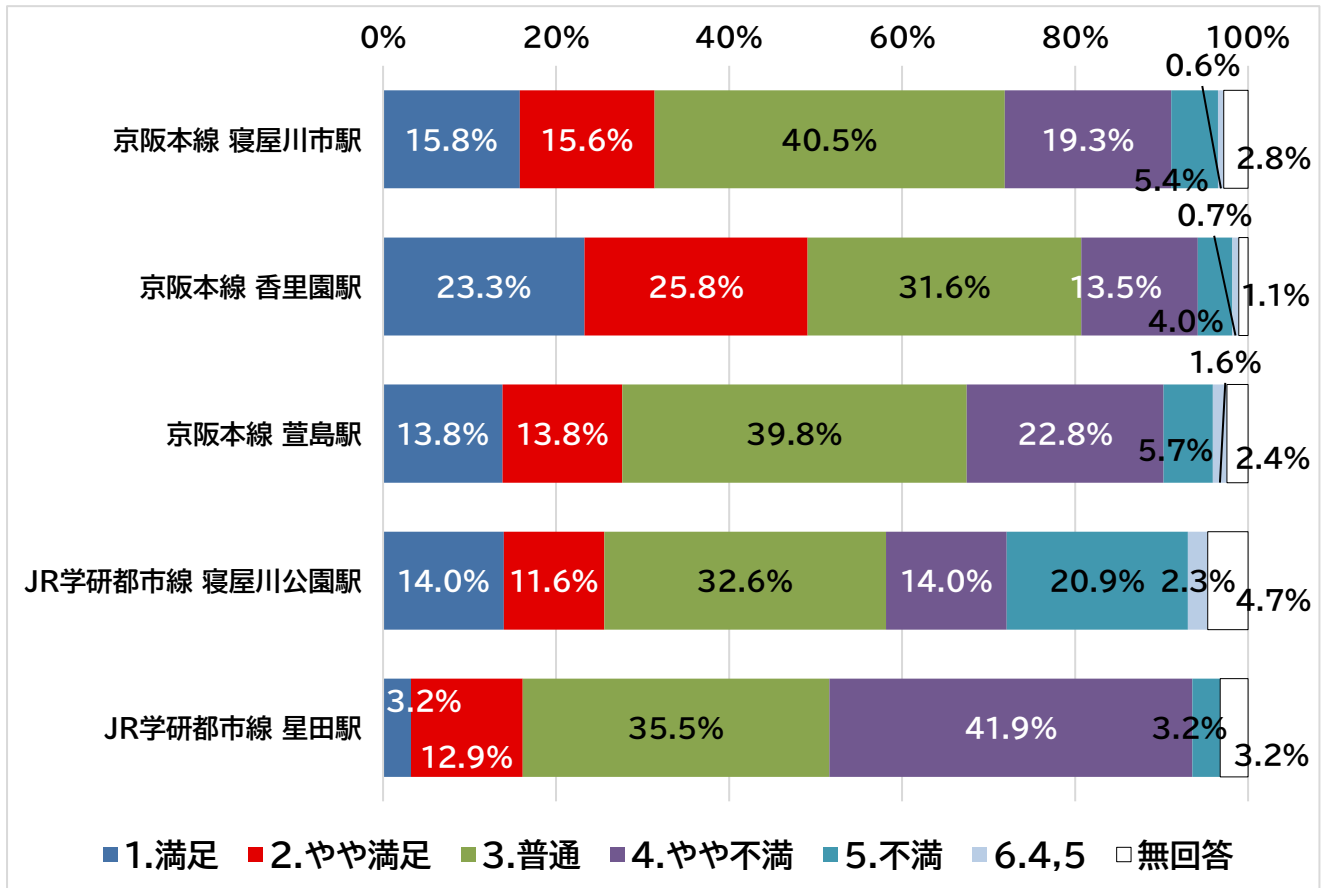
図 41 地域別構想区域別の回答者の最寄り駅の満足度



③ 主要駅の満足度

- ・京阪本線 寝屋川市駅、香里園駅及び萱島駅並びに、JR 学研都市線 寝屋川公園駅及び星田駅の主要5駅を最寄り駅とする人の満足度を見ると、京阪本線 香里園駅は「1.満足」、「2.やや満足」合わせて49.1%と高い満足度を示している。
- ・一方、JR 学研都市線 星田駅は「4.やや不満」、「5.不満」、合わせて45.1%と高い不満度となっている。また、JR 学研都市線 寝屋川公園駅では「5.不満」が20.9%と特に高くなっている。

図 42 主要駅を最寄り駅とする回答者の満足度



3-14 問 14 問 13 で「4. やや不満」、「5. 不満」とお答えいただいた方に伺います。あなたの最寄り駅の利用にかかる不満点を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果(該当回答者数:244 人)

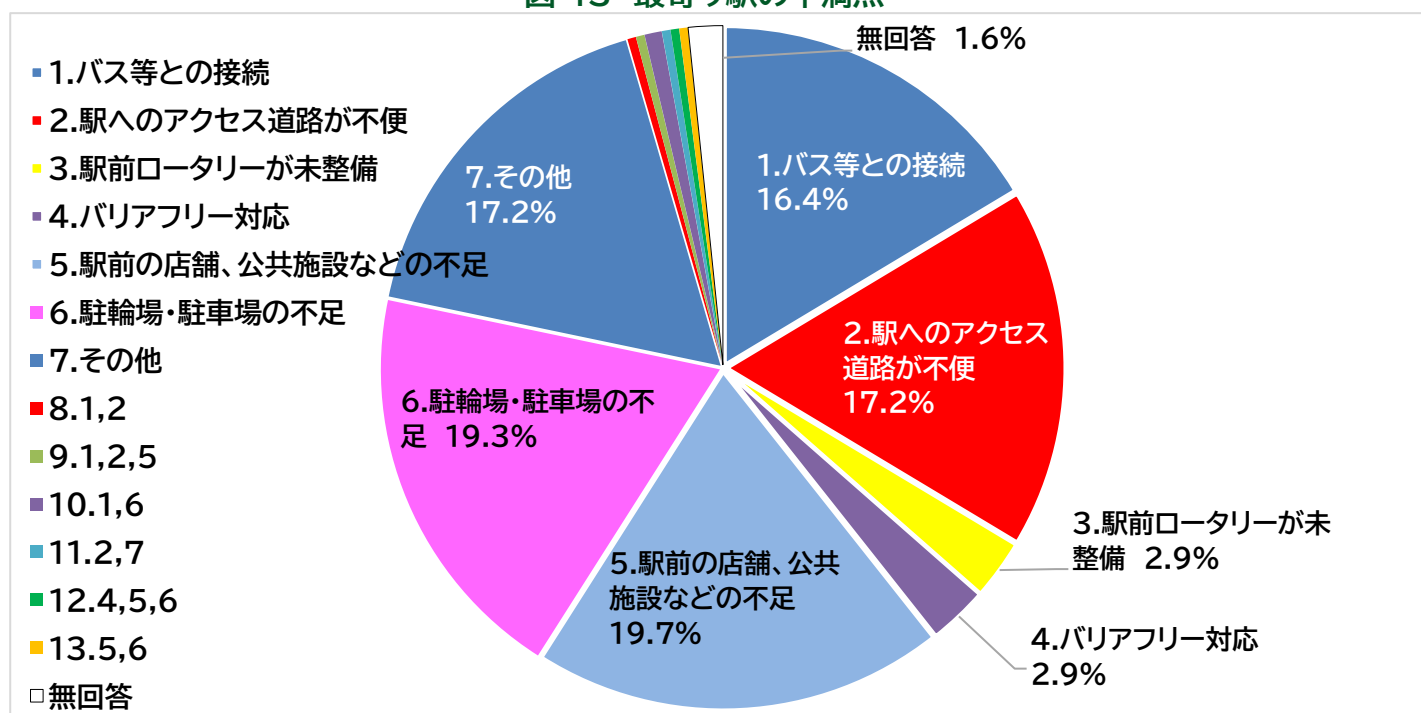
・「5.駅前の店舗、公共施設などの不足」が最も高く 19.7%(48 人)、次いで、「6.駐輪場・駐車場の不足」が 19.3%(47 人)、「2.駅へのアクセス道路が不便」及び「7.その他」が 17.2%(42 人)と続いている。

表14 最寄り駅の不満点

最寄り駅の不満点	回答者数	回答者比率
1.バス等との接続	40	16.4%
2.駅へのアクセス道路が不便	42	17.2%
3.駅前ロータリーが未整備	7	2.9%
4.バリアフリー対応	7	2.9%
5.駅前の店舗、公共施設などの不足	48	19.7%
6.駐輪場・駐車場の不足	47	19.3%
7.その他	42	17.2%
8.1,2	1	0.4%
9.1,2,5	1	0.4%
10.1,6	2	0.8%
11.2,7	1	0.4%
12.4,5,6	1	0.4%
13.5,6	1	0.4%
無回答	4	1.6%
総計	244	100.0%

【その他】ハトのフン等が気になる、急行など来てほしいです、トイレが古く和式しかない ほか

図 43 最寄り駅の不満点

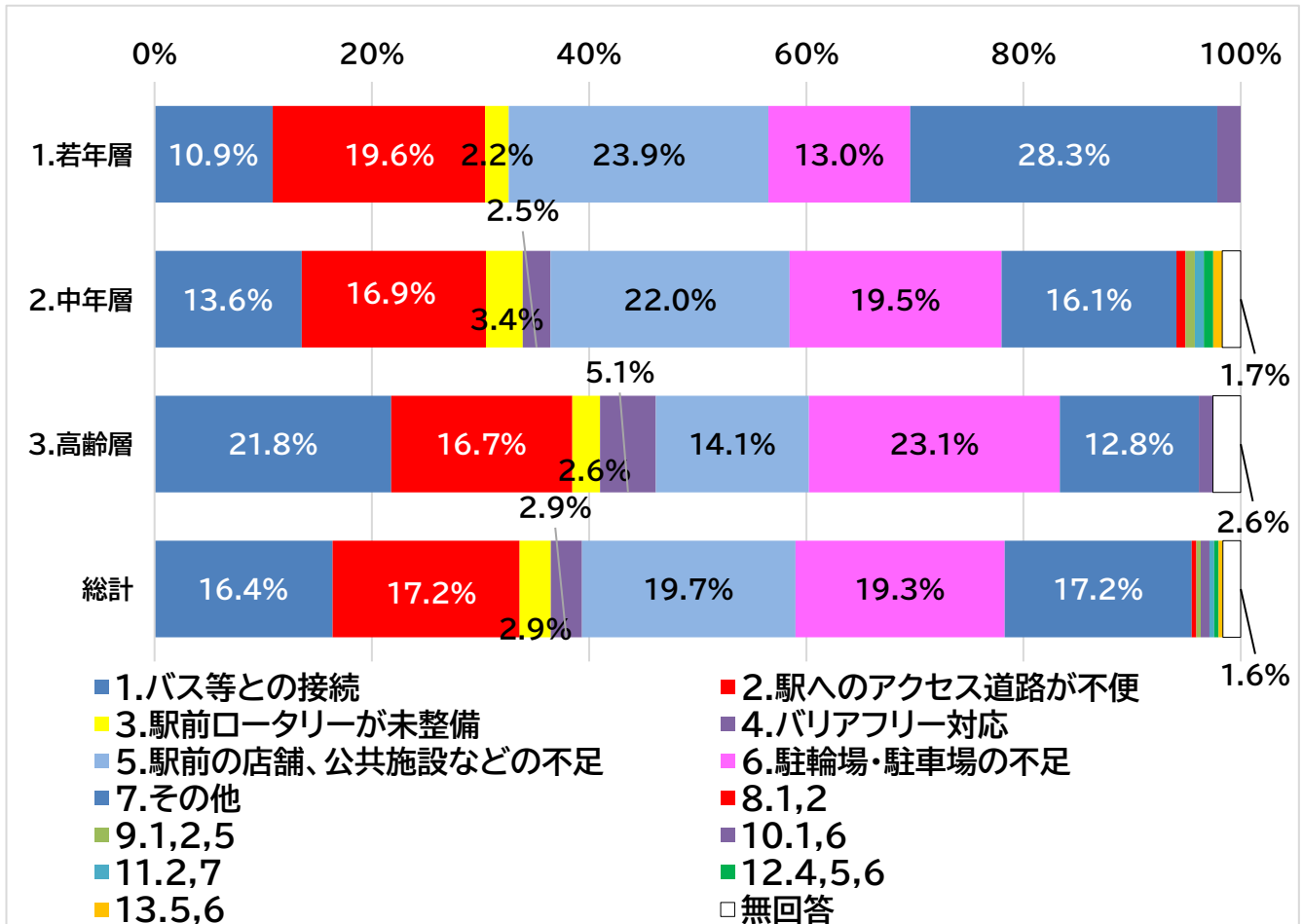


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層・中年層では「5. 駅前の店舗、公共施設などの不足」がそれぞれ 23.9%、22.0%と高い比率であった。
- ・高齢層では「6. 駐輪場・駐車場の不足」が 23.1%、「1. バス等との接続」21.8%となっている。

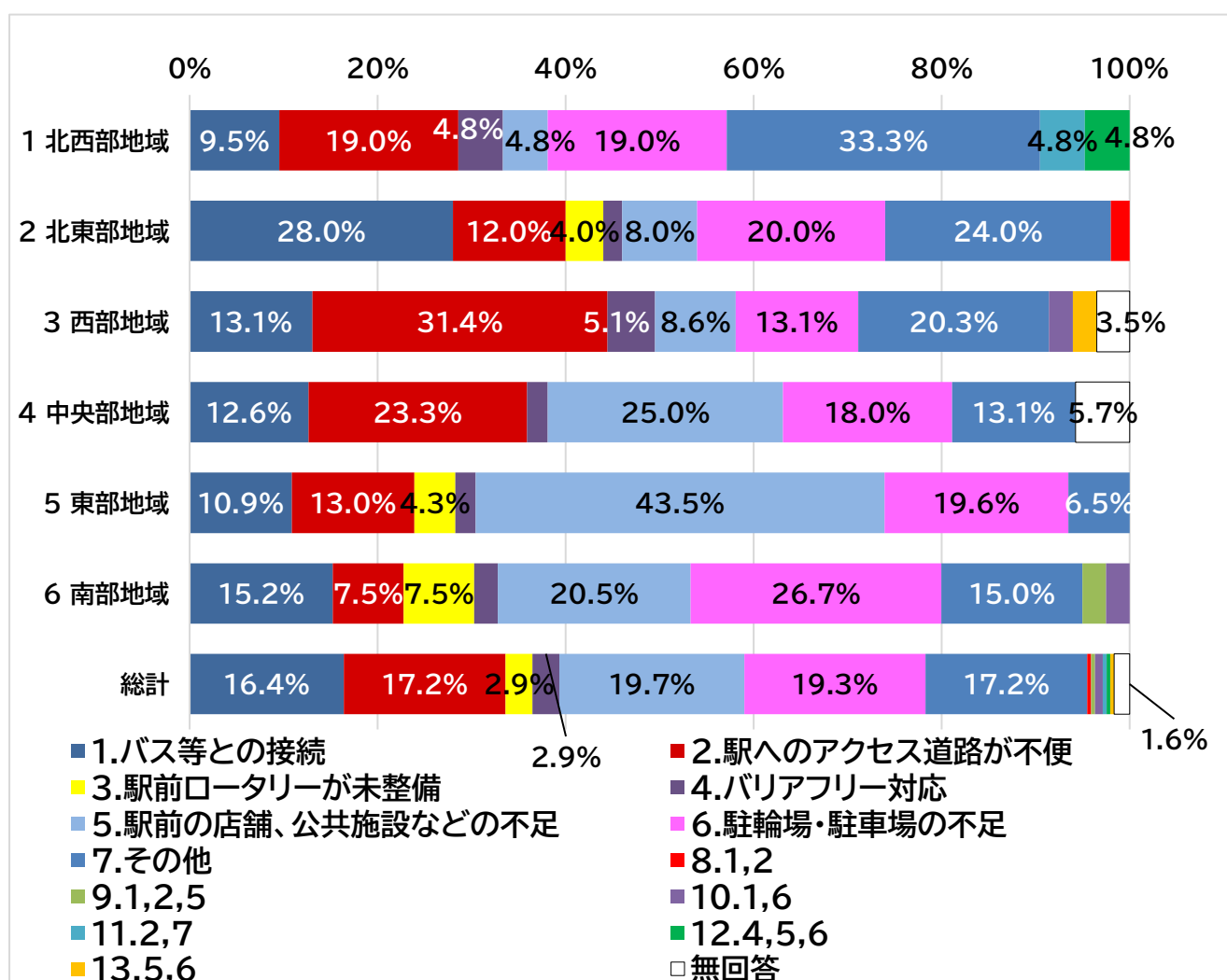
図 44 最寄り駅の不満点



② 地域別構想区域別とのクロス集計

- ・北東部地域では、「1.バス等との接続」が最も高い 28.0%であり、次いで「7.その他」の 24.0%、「6.駐輪場・駐車場の不足」の 20.0%となっている。
- ・西部地域では、「2.駅へのアクセス道路が不便」が 31.4%、次いで「7.その他」20.3%となっている。
- ・中央部地域では、「5.駅前の店舗、公共施設などの不足」が 25.0%、次いで「2.駅へのアクセス道路が不便」が 23.3%となっている。
- ・東部地域では、「5.駅前の店舗、公共施設などの不足」が 43.5%と非常に高い比率となっている。
- ・南部地域では、「6.駐輪場・駐車場の不足」が 26.7%で最も多く、次いで「5.駅前の店舗、公共施設などの不足」が 20.5%となっている。

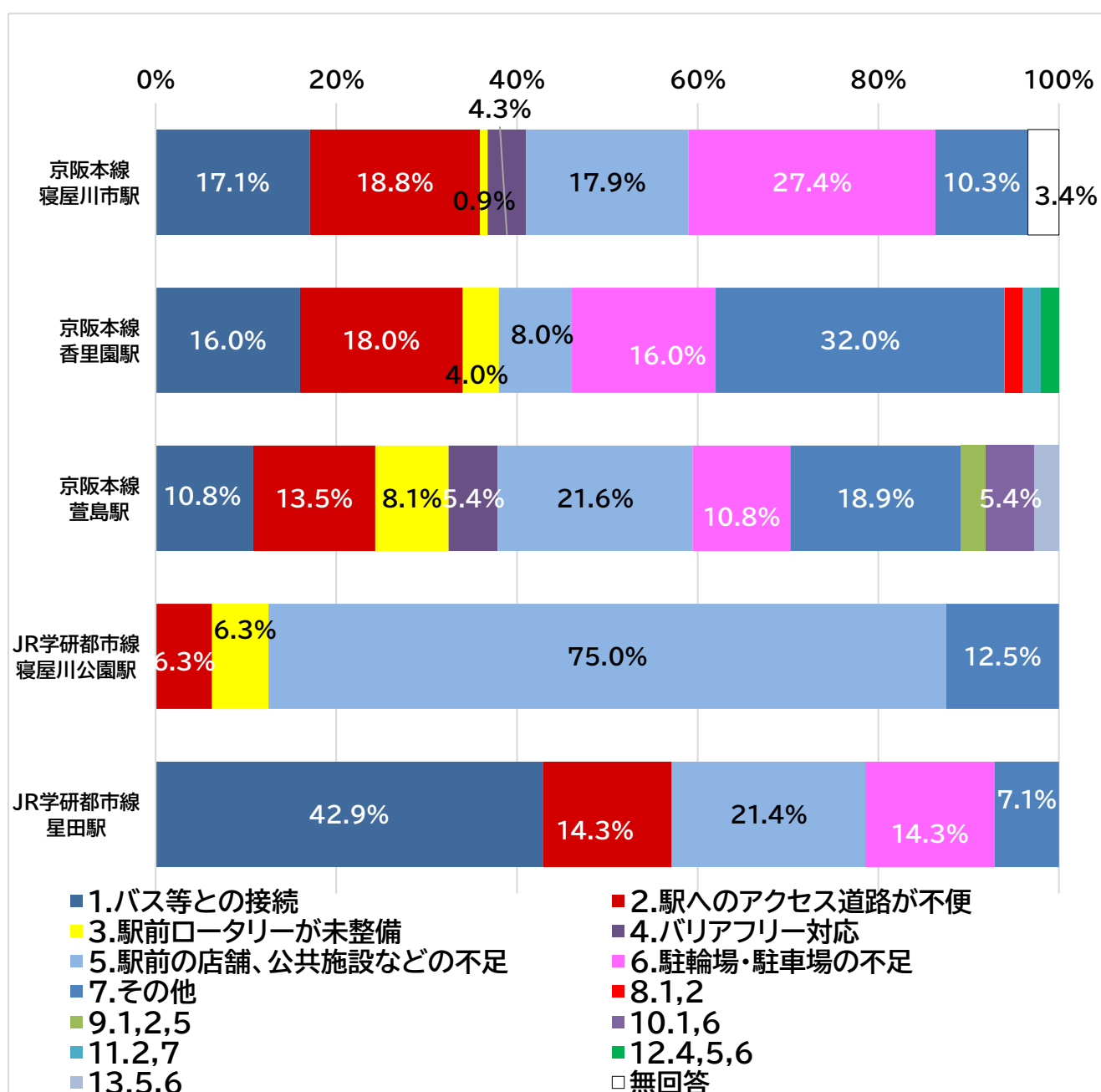
図 45 最寄り駅の不満点



③ 主要駅の不満点

- ・京阪本線 寝屋川市駅、香里園駅及び萱島駅並びに、JR 学研都市線 寝屋川公園駅及び星田駅主要 5 駅を最寄り駅とする人の不満点を見ると、駅ごとに大きな差異が出ている。
- ・京阪本線 寝屋川市駅では「6.駐輪場・駐車場の不足」が 27.4%と高い比率となっている。
- ・京阪本線 香里園駅では「7.その他」が 32.0%となっており、多様な不満が寄せられている。
- ・京阪本線 萱島駅は「5.駅前の店舗、公共施設などの不足」の 21.6%を中心に様々な不満点が指摘されている。
- ・JR 学研都市線 寝屋川公園駅では「5.駅前の店舗、公共施設などの不足」が 75.0%となっている。
- ・JR 学研都市線 星田駅は「1.バス等との接続」が 42.9%と最も高くなっている。

図 46 主要な最寄り駅の不満点



3-15 問 15 下記の選択項目より、あなたの最寄り駅周辺の満足している施設と、より充実してほしい施設をそれぞれ3つまで教えてください。(下記の選択項目欄に該当するものがない場合は「10. その他」に直接ご記入ください。)

【満足している施設】

(1) 満足している施設の単純集計結果(3つまでの複数回答あり)

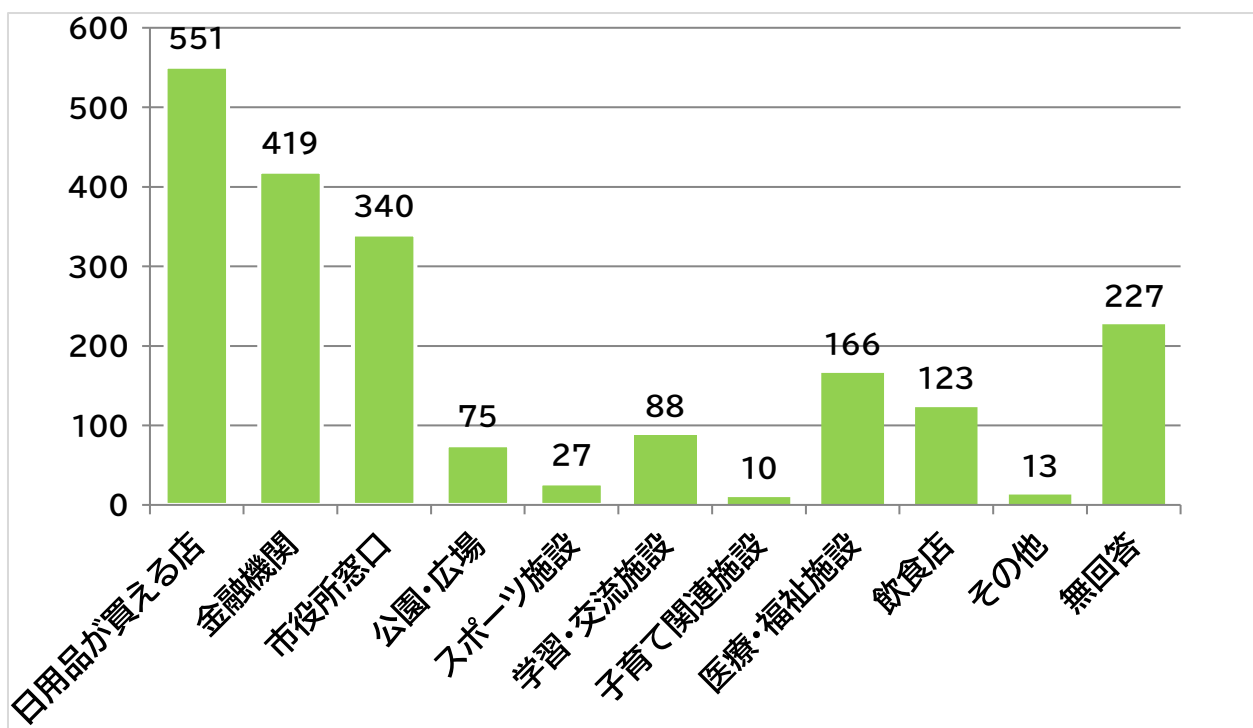
- ・「日用品が買える店」が 57.0%(回答者総数 967 人のうち 551 人)で最も高く、次いで「金融機関」の 43.3%(同 419 人)、「市役所窓口」の 35.2%(同 340 人)と続く。
- ・無回答は 23.5%(同 227 人)であった。

表 15 最寄り駅で満足している施設

最寄り駅で満足している施設	回答者数	回答者比率
日用品が買える店	551	57.0%
金融機関	419	43.3%
市役所窓口	340	35.2%
公園・広場	75	7.8%
スポーツ施設	27	2.8%
学習・交流施設	88	9.1%
子育て関連施設	10	1.0%
医療・福祉施設	166	17.2%
飲食店	123	12.7%
その他	13	1.3%
無回答	227	23.5%
回答者総数	967	100.0%

【その他】ハローワーク、駐輪場、学校 ほか
注)複数回答があるため、回答者数の合計は回答者総数とは一致しない。

図 47 最寄り駅で満足している施設

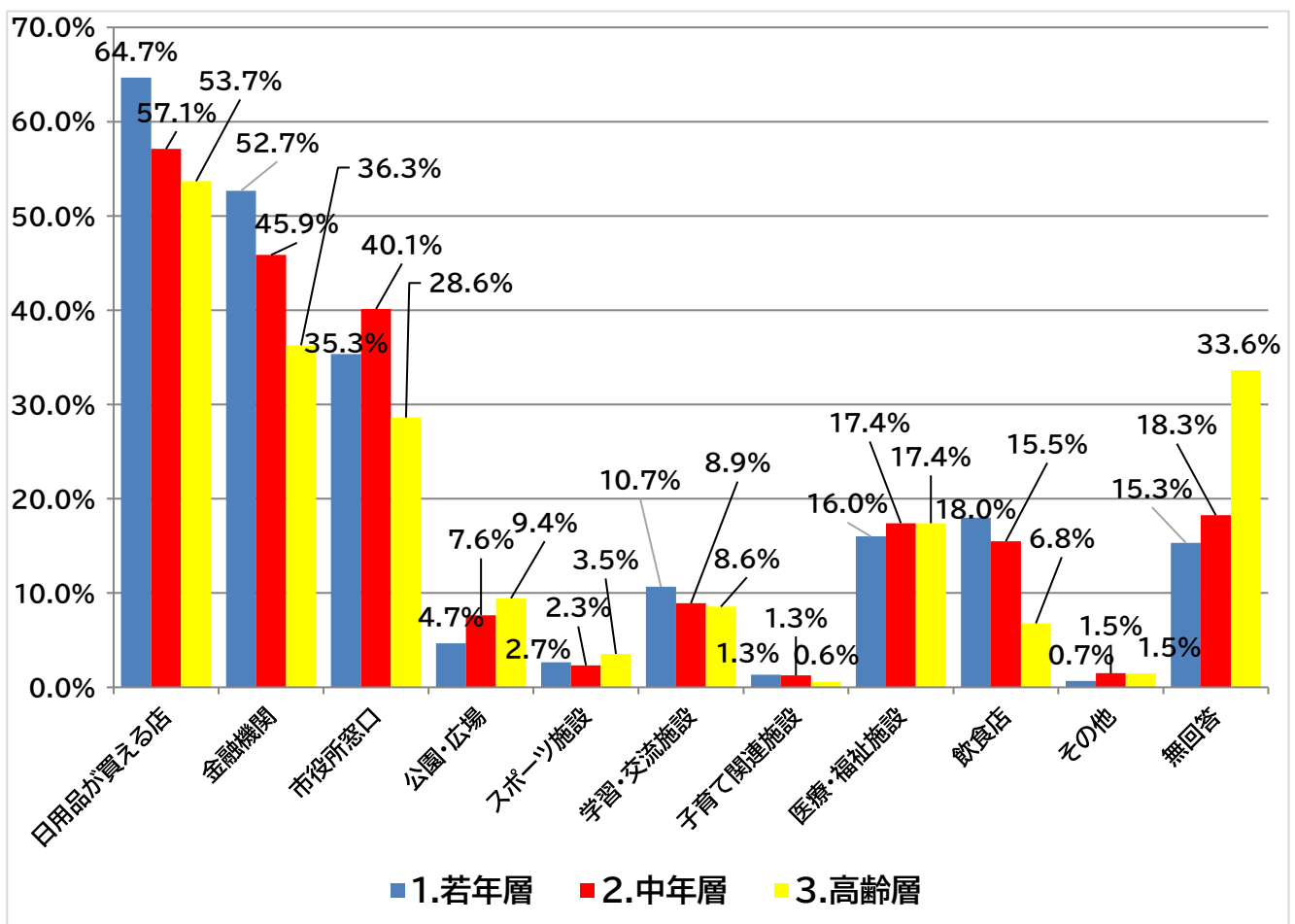


(2) 満足している施設のクロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「日用品が買える店」が 64.7%と高い比率になっている。次いで「金融機関」が 52.7%、「市役所窓口」が 35.3%となっている。
- ・中年層もほぼ若年層と同様の傾向であるが、「市役所窓口」が 40.1%と若年層や高齢層より高い比率になっている。
- ・高齢層では、「日用品が買える店」が 53.7%、次いで「金融機関」が 36.3%であるが、「無回答」が 33.6%にも上っているのが特徴である。

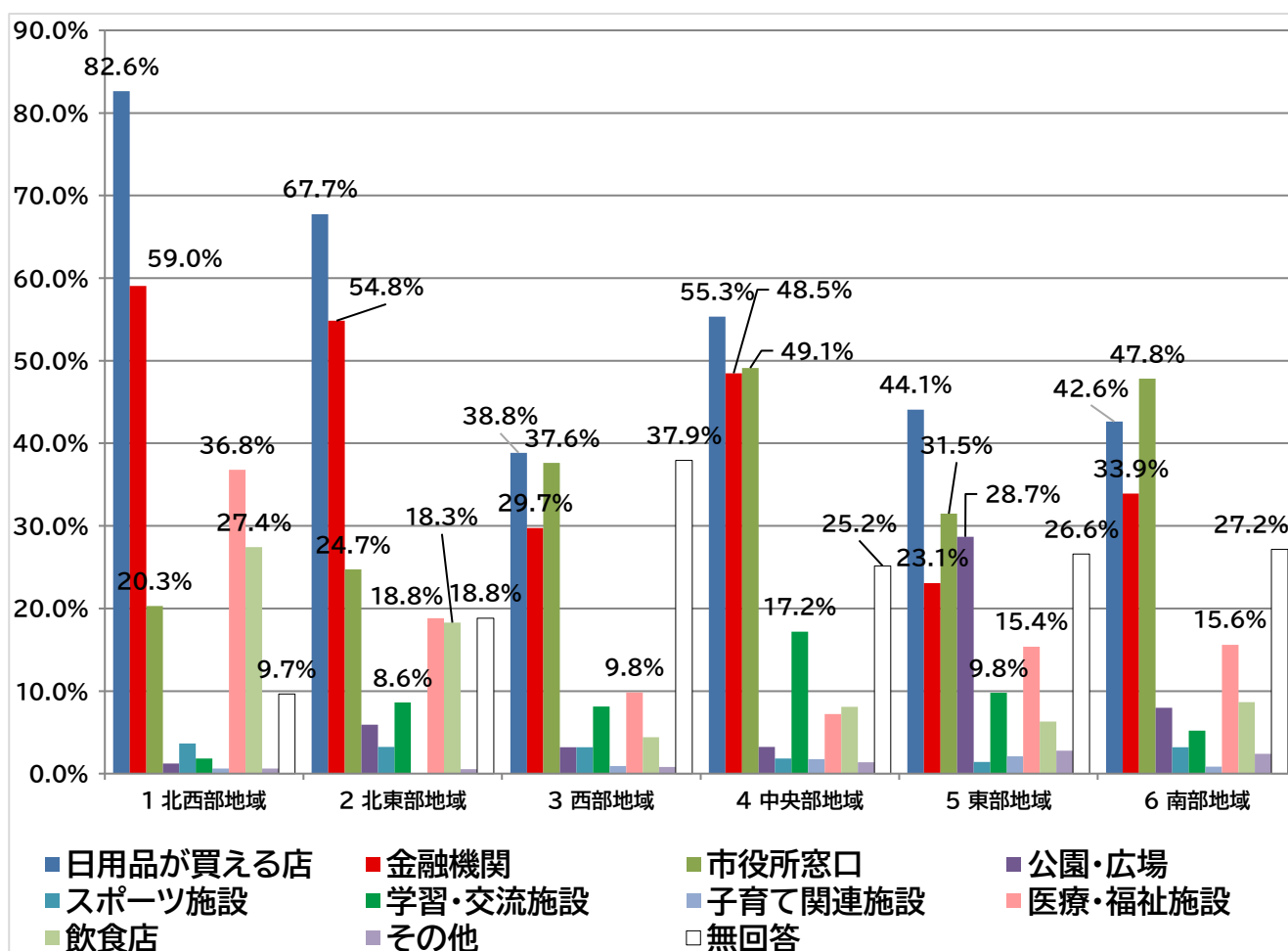
図 48 年齢階層別の最寄り駅で満足している施設



② 地域別構想区域別とのクロス集計

- ・北西部地域では「日用品が買える店」が 82.6%と際立って高い。次いで「金融機関」が 59.0%となっている。また、「医療・福祉施設」と「飲食店」がそれぞれ 36.8%、27.4%と他地域と比較すると際立って高い比率である。この地域は「無回答」が 9.7%と非常に少ない。
- ・北東部地域は「日用品が買える店」が 67.7%と最も高く、次いで「金融機関」が 54.8%と続く。
- ・西部地域では「日用品が買える店」が 38.8%、「市役所窓口」が 37.6%、「金融機関」が 29.7%と高い比率となっている。また、「無回答」が 37.9%に上っている。
- ・中央部地域では「日用品が買える店」が 55.3%と最も高く、次いで「市役所窓口」が 49.1%、「金融機関」が 48.5%と続く。
- ・東部地域は「日用品が買える店」が 44.1%と最も高く、次いで「市役所窓口」が 31.5%となっている。
- ・南部地域は「市役所窓口」が 47.8%、次いで「日用品が買える店」が 42.6%、さらに「金融機関」33.9%と続く。

図 49 地域別構想区域別の最寄り駅で満足している施設



【より充実してほしい施設】

(3) より充実してほしい施設の単純集計結果(3 つまでの複数回答あり)

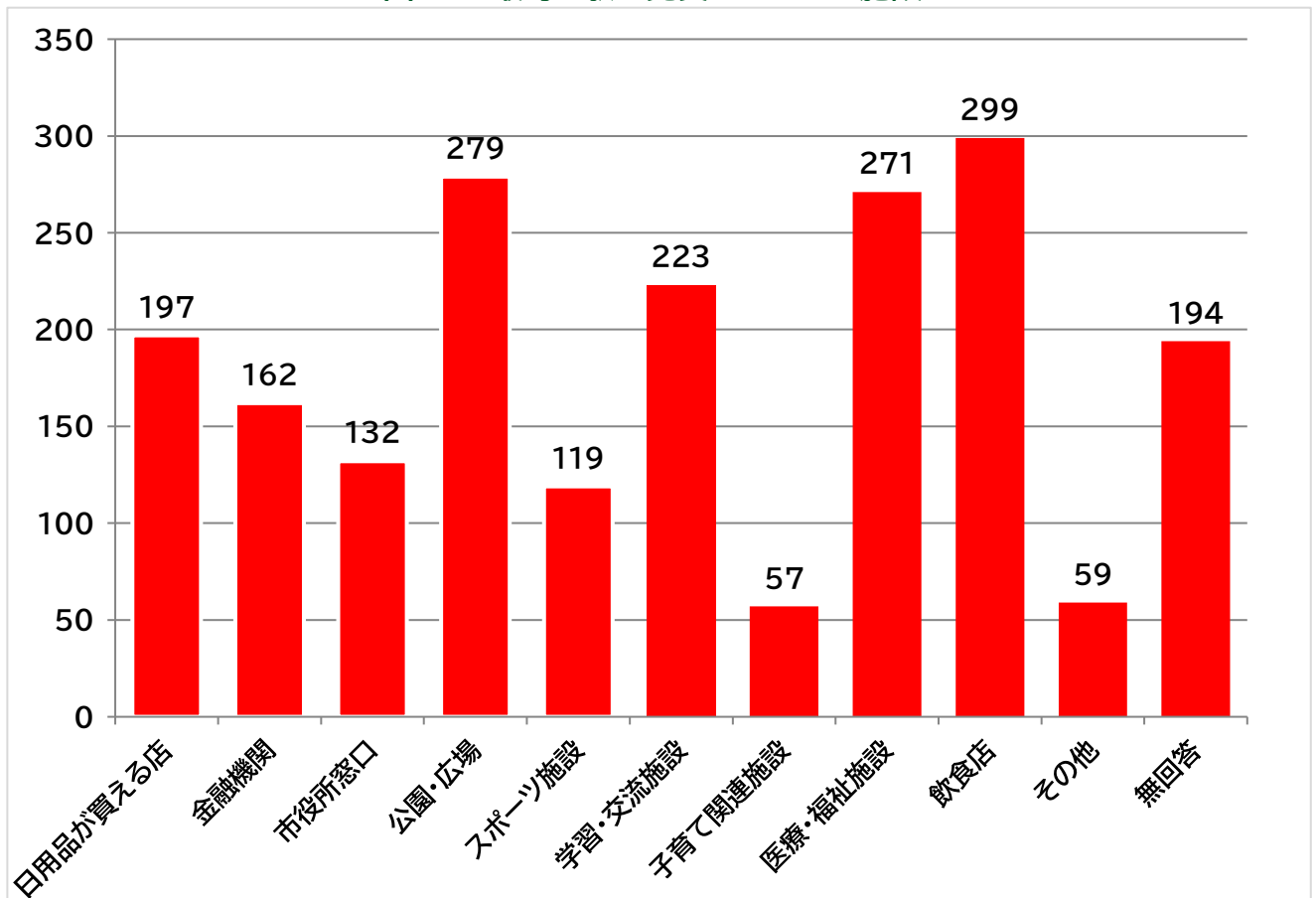
- ・「飲食店」が 30.9%(回答者総数 967 人のうち 299 人)で最も高く、次いで「公園・広場」の 28.9%(同 279 人)、「医療・福祉施設」の 28.0%(同 271 人)と続く。
- ・無回答者は 20.1%(同 194 人)であった。

表 16 最寄り駅で充実してほしい施設

最寄り駅で充実してほしい施設	回答者数	回答者比率
日用品が買える店	197	20.4%
金融機関	162	16.8%
市役所窓口	132	13.7%
公園・広場	279	28.9%
スポーツ施設	119	12.3%
学習・交流施設	223	23.1%
子育て関連施設	57	5.9%
医療・福祉施設	271	28.0%
飲食店	299	30.9%
その他	59	6.1%
無回答	194	20.1%
回答者総数	967	100.0%

【その他】本屋、書店、駐車場、駐輪場、映画館、レジャー施設 ほか
 注)複数回答があるため、回答者数の合計は回答者総数とは一致しない。

図 50 最寄り駅で充実してほしい施設

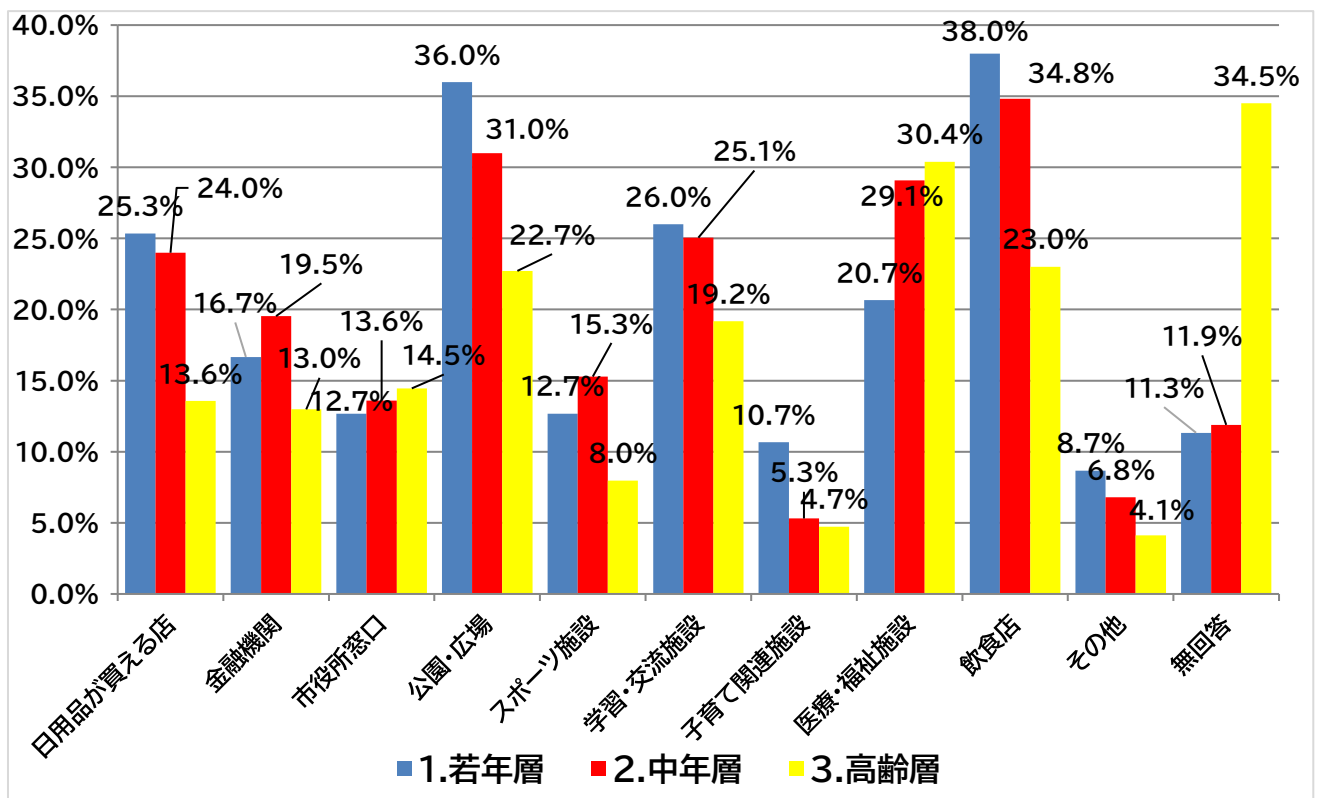


(4) より充実してほしい施設のクロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「飲食店」が 38.0%と最も高く、次いで「公園・広場」が 36.0%となっている。他、「学習・交流施設」26.0%、「日用品が買える店」25.3%となっている。
- ・中年層もほぼ若年層と同様の傾向であり、「飲食店」が 34.8%と最も高く、次いで「公園・広場」が 31.0%となっている。さらに「医療・福祉施設」が 29.1%と続く。
- ・高齢層では、無回答者が 34.5%にのぼっている。「医療・福祉施設」が 30.4%、「飲食店」が 23.0%、「公園・広場」が 22.7%となっている。

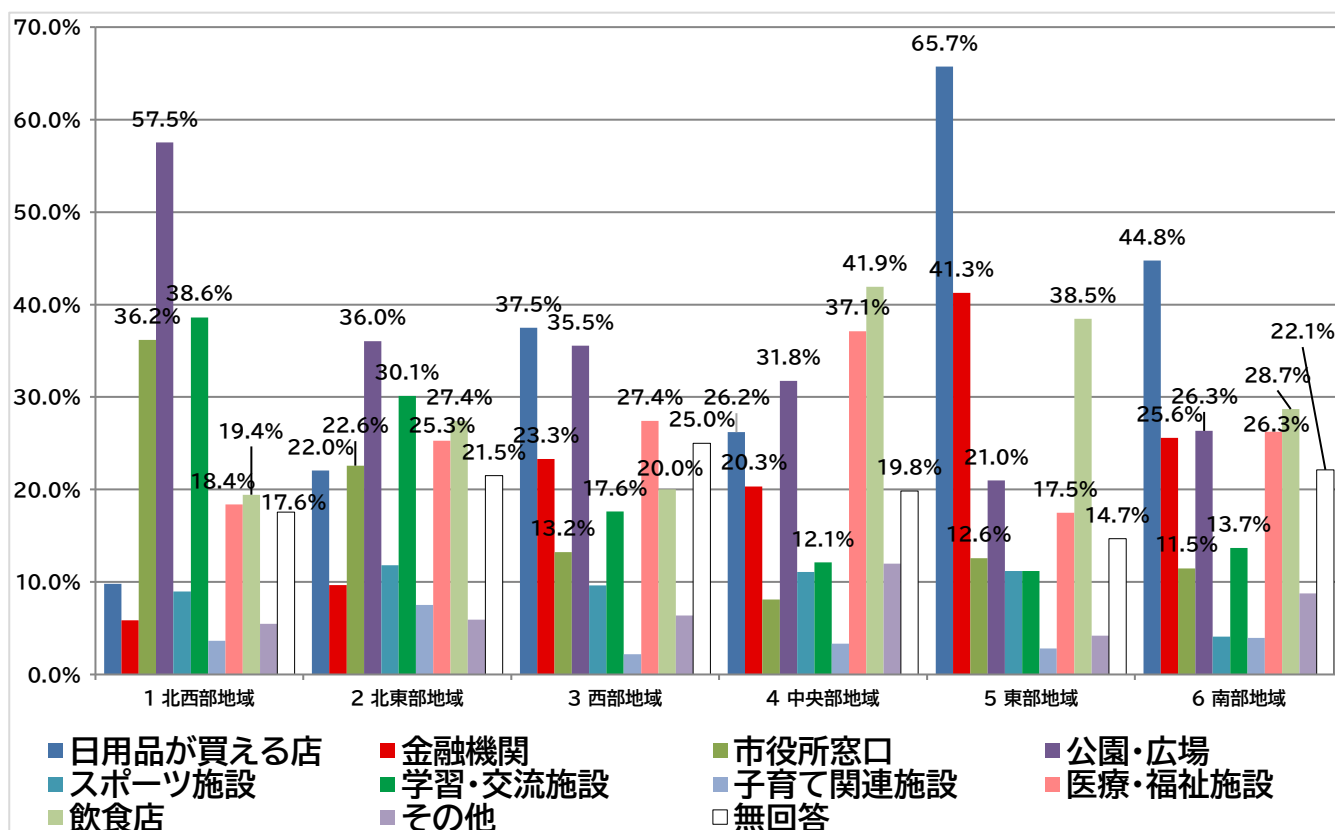
図 51 年齢階層別の最寄り駅で充実してほしい施設



② 地域別構想区域別とのクロス集計

- ・北西部地域では「公園・広場」が57.5%と最も高く、次いで「学習・交流施設」が38.6%となっている。さらに、「市役所窓口」36.2%と続く。
- ・北東部地域は「公園・広場」が36.0%と最も高く、次いで「学習・交流施設」が30.1%、「飲食店」が27.4%、「医療・福祉施設」が25.3%と続く。
- ・西部地域では「日用品が買える店」が37.5%と最も高く、次いで「公園・広場」が35.5%、「医療・福祉施設」が27.4%となっている。
- ・中央部地域では「飲食店」が41.9%と最も高く、次いで「医療・福祉施設」が37.1%、「公園・広場」が31.8%、「日用品が買える店」が26.2%と続く。
- ・東部地域は「日用品が買える店」が65.7%と特に高くなっており、次いで「金融機関」が41.3%、「飲食店」が38.5%となっている。
- ・南部地域は「日用品が買える店」が44.8%と最も高く、次いで「飲食店」が28.7%、「公園・広場」と「医療・福祉施設」が26.3%、「金融機関」が25.6%となっている。

図 52 地域別構想区域別の最寄り駅で充実してほしい施設



3-16 問 16 あなたの日用品等の主な購入先を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果

・「1.家の周辺のスーパー」が最も高く 63.0%(609 人)、次いで「2.大型ショッピングモール」の 16.8%(162 人)、「3.最寄り駅周辺」12.1%(117 人)であった。

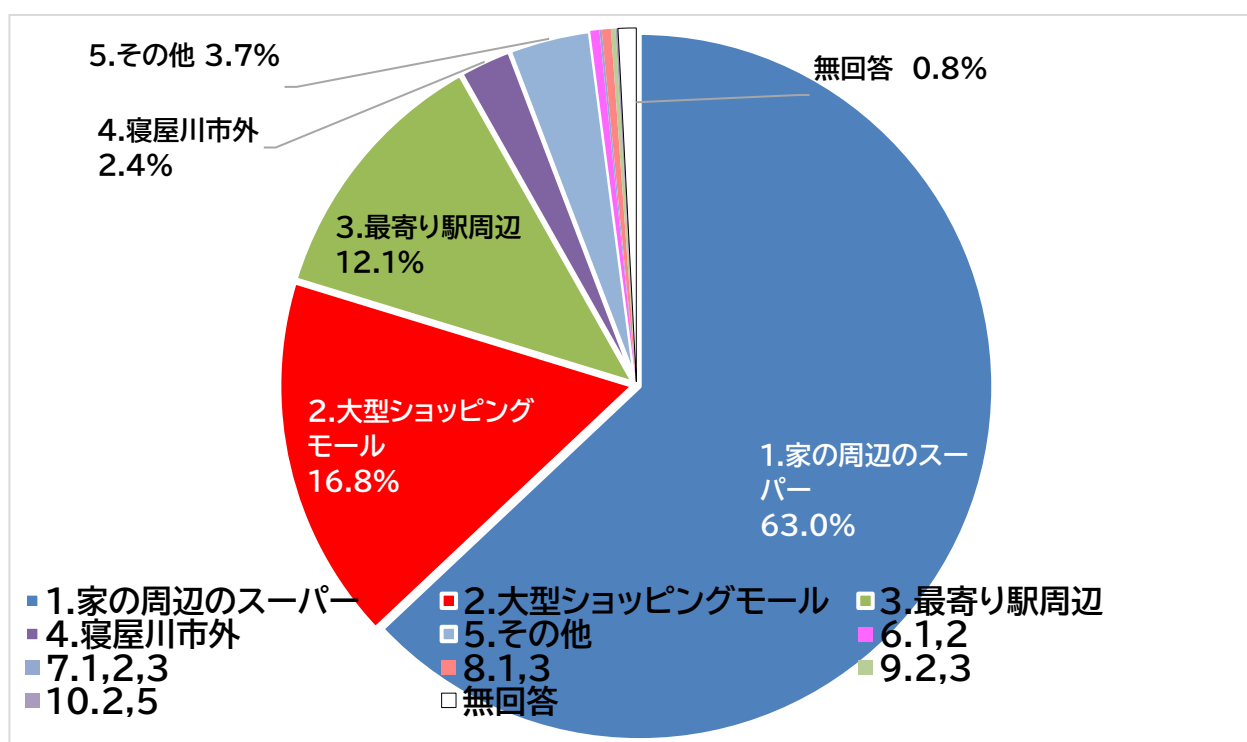
・買い物は品目などにより買う場所が異なるほか、購買のタイミングによっても購入場所が変わることが考えられるため、複数回答が目立つ結果になった一因と考えられる。また、生協等の戸別宅配やネットショッピングなどが普及していると考えられるため、「5.その他」も多くなっていることが推察される。

表 17 回答者の買い物先

買 い 物 先	回答者数	回答者比率
1.家の周辺のスーパー	609	63.0%
2.大型ショッピングモール	162	16.8%
3.最寄り駅周辺	117	12.1%
4.寝屋川市外	23	2.4%
5.その他	36	3.7%
6.1,2	4	0.4%
7.1,2,3	1	0.1%
8.1,3	4	0.4%
9.2,3	2	0.2%
10.2,5	1	0.1%
無回答	8	0.8%
総計	967	100.0%

【その他】仕事先のスーパー、生協、宅配、ドラッグストア、ネットショップ ほか

図 53 回答者の買い物先

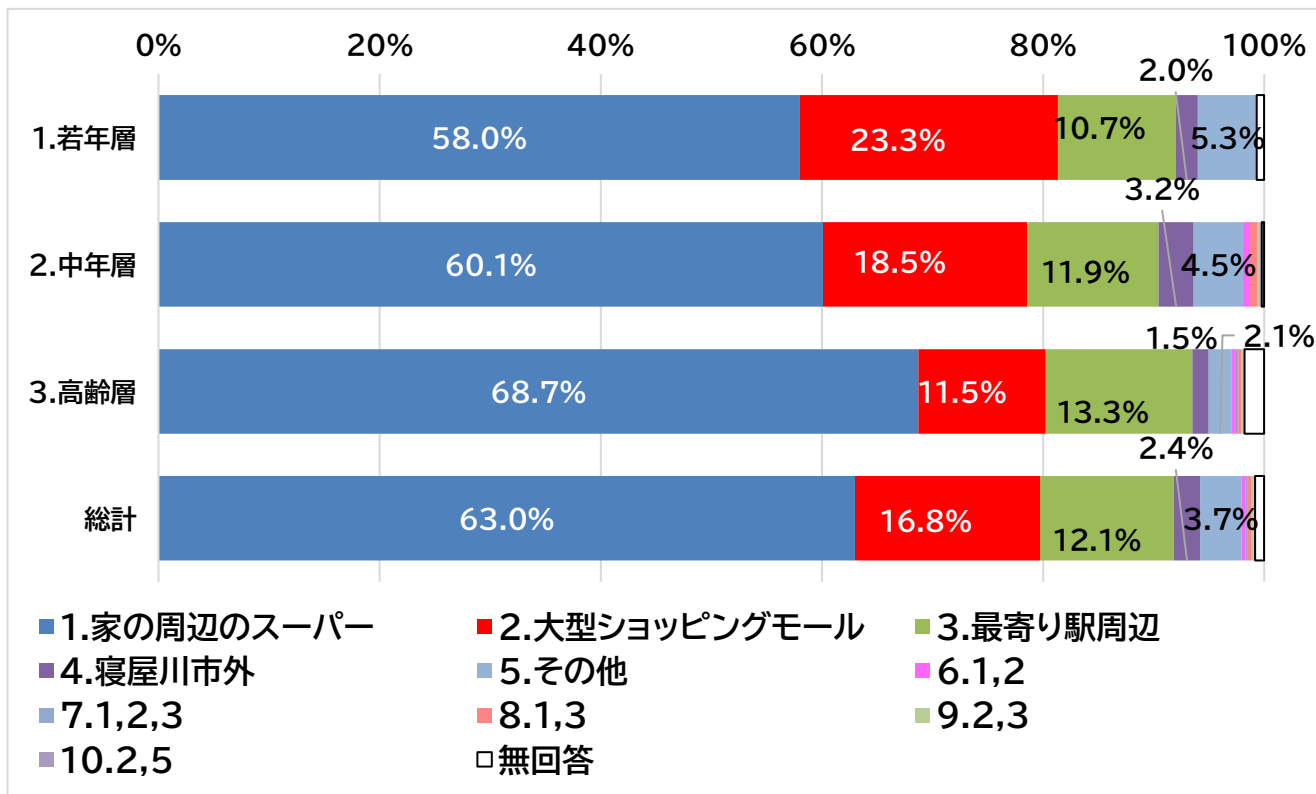


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

・年齢階層が上がるほど「1.家の周辺のスーパー」の比率が高く、高齢層では68.7%となっている。
 ・一方、年齢階層が下がると「2.大型ショッピングモール」の比率が高く、若年層では23.3%となっている。

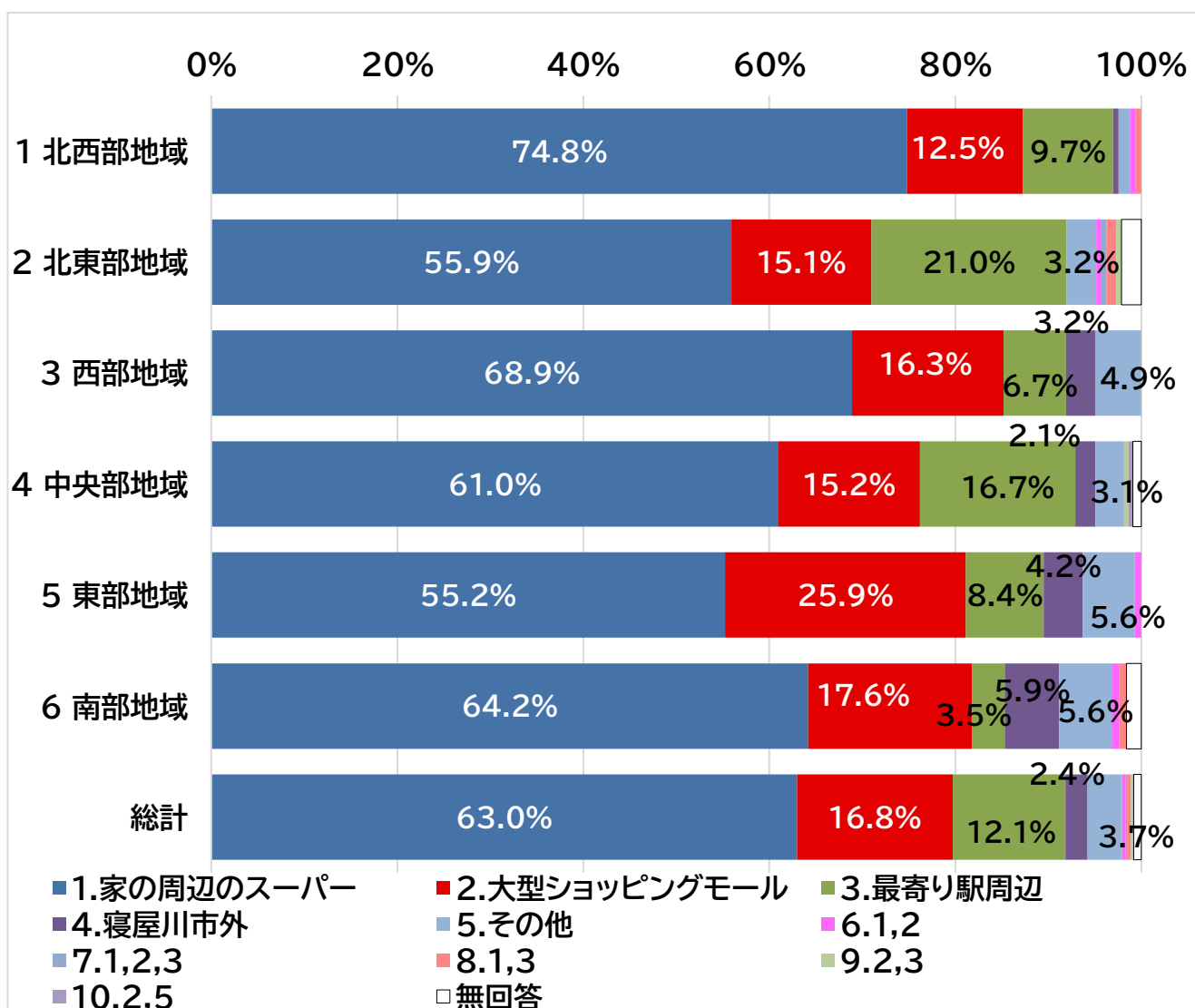
図 54 年齢階層別の回答者の買い物先



② 地域別構想区域別のクロス集計

- ・北西部地域、西部地域では「1.家の周辺のスーパー」の比率がそれぞれ 74.8%、68.9%と他地域と比べ高い比率となっている。
- ・一方、北東部地域と東部地域では「1.家の周辺のスーパー」の比率がそれぞれ 55.9%、55.2%と他地域と比べ低い比率になっており、代わって北東部地域では「3.最寄り駅周辺」が 21.0%、東部地域では「2.大型ショッピングモール」が 25.9%と他地域と比べ高くなっている。

図 55 地域別構想区域別の回答者の買い物先



3-17 問 17 あなたのお住まいの場所から日用品等の購入先への主な移動手段を教えてください。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください。)

(1) 単純集計結果

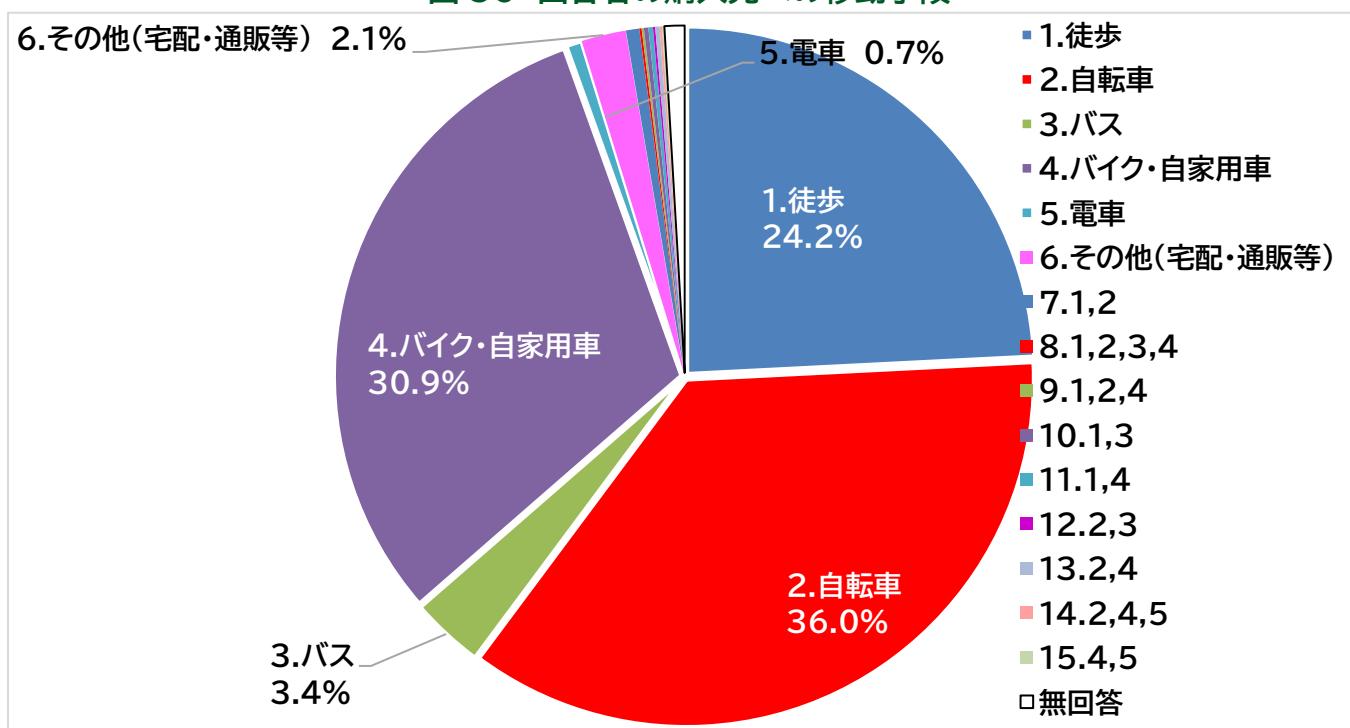
・「2.自転車」が最も高い比率である 36.0%(348 人)、次いで「4.バイク・自家用車」の 30.9%(299 人)、「1.徒歩」24.2%(234 人)であった。

表 18 回答者の購入先への移動手段

購入先への移動手段	回答者数	回答者比率
1.徒歩	234	24.2%
2.自転車	348	36.0%
3.バス	33	3.4%
4.バイク・自家用車	299	30.9%
5.電車	7	0.7%
6.その他(宅配・通販等)	20	2.1%
7.1,2	6	0.6%
8.1,2,3,4	1	0.1%
9.1,2,4	1	0.1%
10.1,3	2	0.2%
11.1,4	2	0.2%
12.2,3	1	0.1%
13.2,4	2	0.2%
14.2,4,5	1	0.1%
15.4,5	1	0.1%
無回答	9	1.0%
総計	967	100.0%

【その他】子供が購入、タクシーで買い物 ほか

図 56 回答者の購入先への移動手段

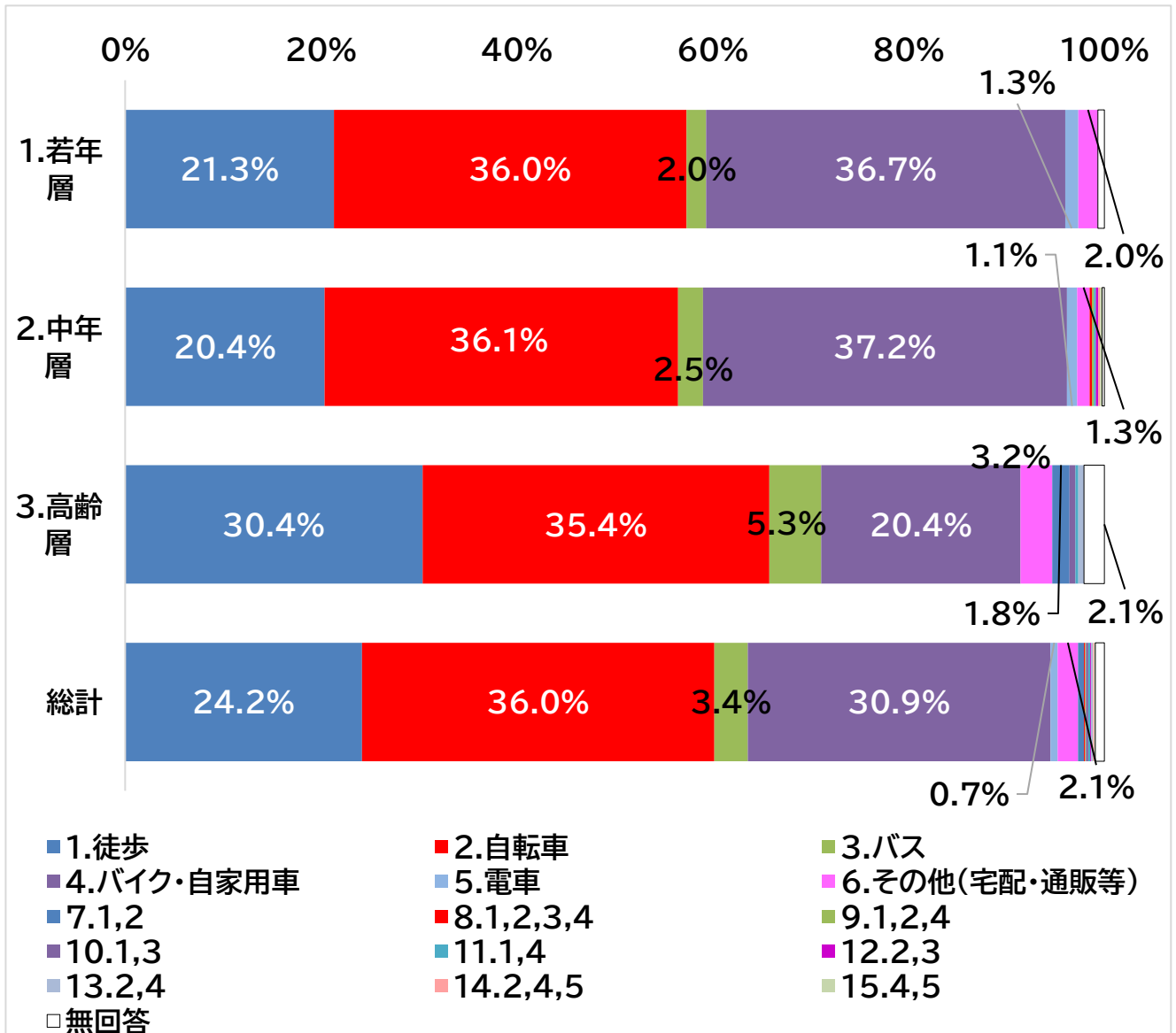


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

・若年層及び中年層共に「4.バイク・自家用車」の比率が最も高く、同じ傾向である。
 ・一方、高齢層では若年層及び中年層と比べて「4.バイク・自家用車」の比率が低く、「徒歩」が30.4%と高い比率になっている。

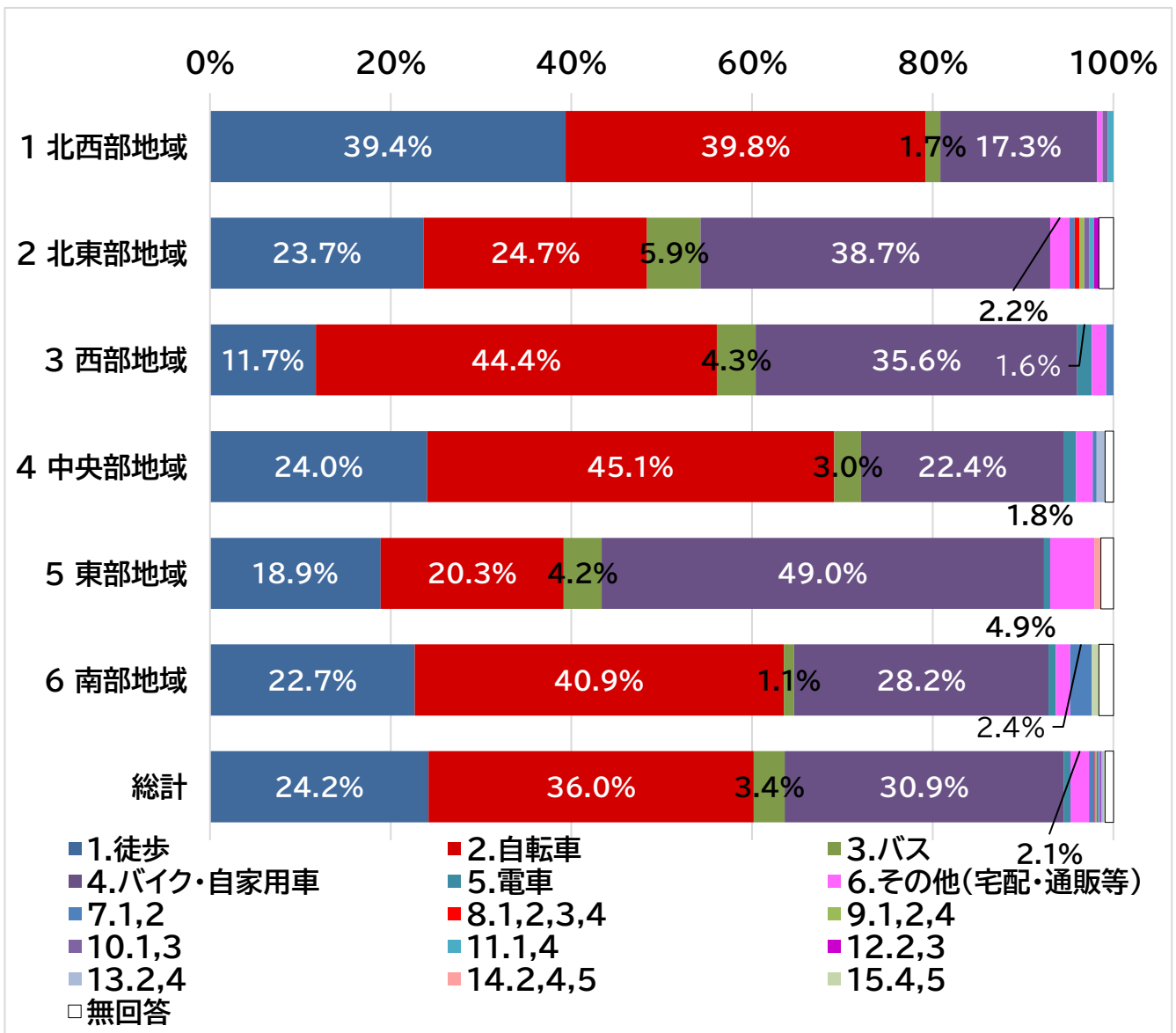
図 57 年齢階層別の回答者の購入先への移動手段



② 地域別構想区域別のクロス集計

- ・北西部地域は「徒歩」が 39.4%と他地域と比べて高い比率となっている。逆に「バイク・自家用車」は 17.3%と総計の半分程度になっている。
- ・西部地域と中央部地域では「自転車」がそれぞれ 44.4%、45.1%と高い比率となっている。
- ・東部地域では「バイク・自家用車」が 49.0%と高い比率となっている。

図 58 地域別構想区域別の回答者の購入先への移動手段



3-18 問 18 下記の選択項目より、お住まいの地域の状況や土地利用など、まちづくりに関する現状について、課題や問題点と思われるものを3つまでお選びください。(下記の選択項目欄に該当するものがない場合は「19. その他」に直接ご記入ください。)

(1) 単純集計結果(3つまでの複数回答あり)

- ・「交通渋滞や道路の未整備」が 24.5%(回答者総数 967 人のうち 237 人)で最も高い比率であり、次いで「災害時の安全性」の 24.1%(同 233 人)とこの2つが 20%を超えている。
- ・以下、「空き家の増加」16.8%(同 162 人)、「公共施設の配置や老朽化」15.3%(同 148 人)、「公共交通の不便」15.0%(同 145 人)と続く。
- ・「その他」が 10.0%(同 97 人)、無回答者は 12.5%(同 121 人)であった。

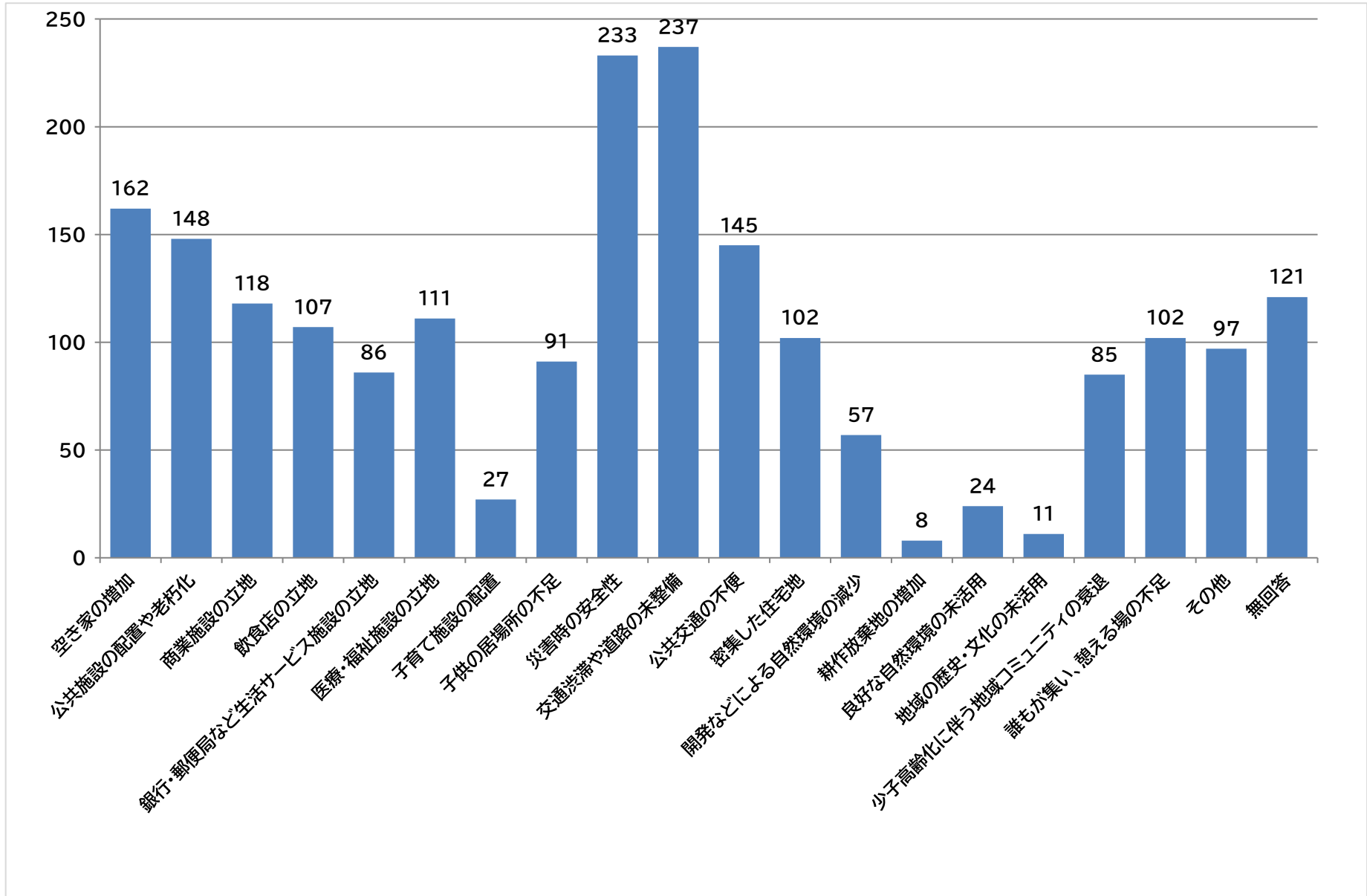
表 19 まちづくりの課題や問題点

課題や問題点	回答者数	回答者比率
空き家の増加	162	16.8%
公共施設の配置や老朽化	148	15.3%
商業施設の立地	118	12.2%
飲食店の立地	107	11.1%
銀行・郵便局など生活サービス施設の立地	86	8.9%
医療・福祉施設の立地	111	11.5%
子育て施設の配置	27	2.8%
子供の居場所の不足	91	9.4%
災害時の安全性	233	24.1%
交通渋滞や道路の未整備	237	24.5%
公共交通の不便	145	15.0%
密集した住宅地	102	10.5%
開発などによる自然環境の減少	57	5.9%
耕作放棄地の増加	8	0.8%
良好な自然環境の未活用	24	2.5%
地域の歴史・文化の未活用	11	1.1%
少子高齢化に伴う地域コミュニティの衰退	85	8.8%
誰もが集い、憩える場の不足	102	10.5%
その他	97	10.0%
無回答	121	12.5%
回答者総数	967	100.0%

【その他】美しい町(ゴミのポイ捨て、犬のフン撲滅)街路樹整備、街灯が少なく夜になると怖いです、害鳥のフン等の被害、喫煙マナーが悪い、高齢者に対する医療保護等の福祉対策、治安や防犯面で不安がある ほか

注)複数回答があるため、回答者数の合計は回答者総数とは一致しない。

図 59 まちづくりの課題や問題点

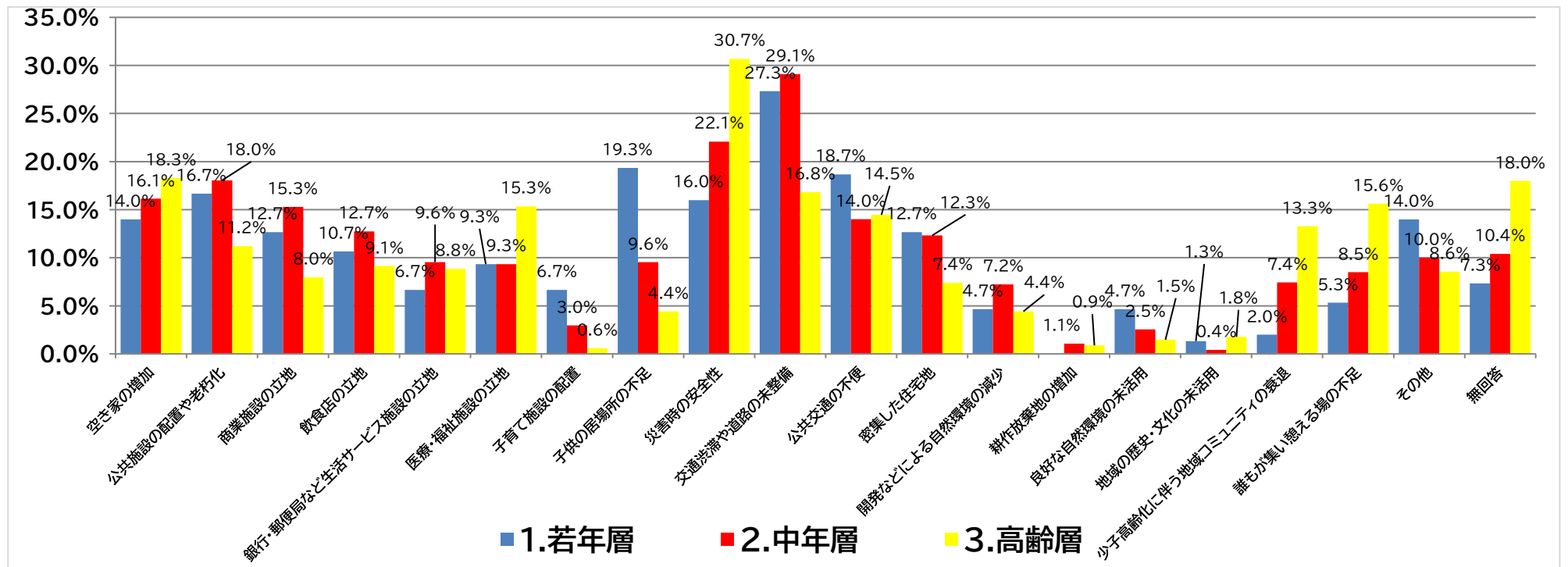


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「交通渋滞や道路の未整備」が 27.3%で最も高く、次いで「子供の居場所の不足」が 19.3%、「公共交通の不便」が 18.7%、さらに「公共施設の配置や老朽化」16.7%、「災害時の安全性」16.0%となっている。
- ・中年層では、「交通渋滞や道路の未整備」が 29.1%で最も高く、次いで「災害時の安全性」が 22.1%、さらに「公共施設の配置や老朽化」18.0%、「空き家の増加」16.1%、「商業施設の立地」15.3%となっている。
- ・高齢層では、「災害時の安全性」が 30.7%で最も高く、次いで「空き家の増加」が 18.3%、「交通渋滞や道路の未整備」が 16.8%、「誰もが集い、憩える場の不足」が 15.6%、「医療・福祉施設の立地」が 15.3%となっている。

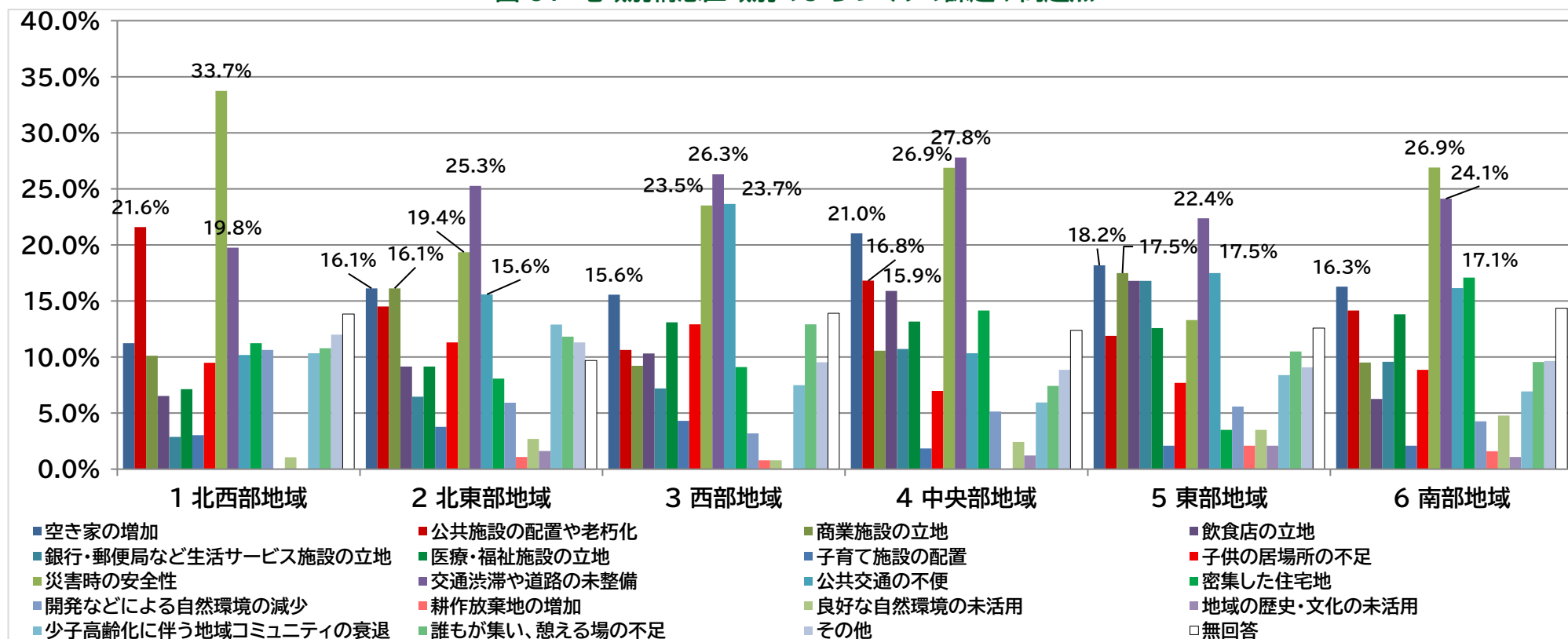
図 60 年齢階層別のまちづくりの課題や問題点



② 地域別構想区域別のクロス集計

- ・北西部地域では「災害時の安全性」が 33.7%、次いで「公共施設の配置や老朽化」が 21.6%、「交通渋滞や道路の未整備」19.8%と続く。
- ・北東部地域は「交通渋滞や道路の未整備」が 25.3%と最も高く、次いで「災害時の安全性」が 19.4%、「空き家の増加」と「商業施設の立地」が 16.1%と続く。
- ・西部地域では「交通渋滞や道路の未整備」が 26.3%、「公共交通の不便」が 23.7%、「災害時の安全性」が 23.5%と高い比率となっている。
- ・中央部地域では「交通渋滞や道路の未整備」が 27.8%と最も高く、次いで「災害時の安全性」が 26.9%、「空き家の増加」が 21.0%と続く。
- ・東部地域は「交通渋滞や道路の未整備」が 22.4%と最も高く、次いで「空き家の増加」が 18.2%となっている。
- ・南部地域は「災害時の安全性」が 26.9%、次いで「交通渋滞や道路の未整備」が 24.1%となっている。

図 61 地域別構想区域別のまちづくりの課題や問題点



3-19 問 19 下記の選択項目より、あなたが自身の居住環境の中で重要と考える点や、新たに居住地を選ぶ際に重視したい点について、当てはまるものを3つまで教えてください。(下記の選択項目欄に該当するものがない場合は「14. その他」に直接ご記入ください。)

(1) 単純集計結果(3つまでの複数回答あり)

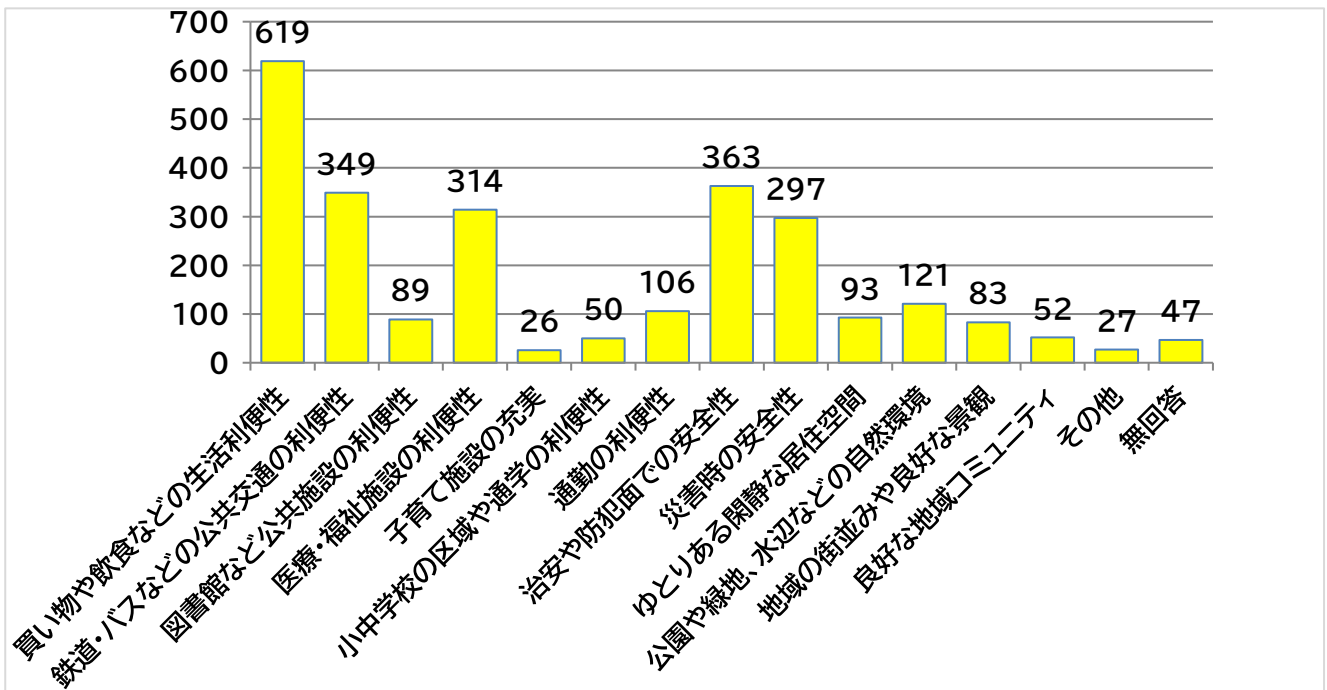
・「買い物や飲食などの生活利便性」が 64.0%(回答者総数 967 人のうち 619 人)で最も高く、次いで「治安や防犯面での安全性」の 37.5%(同 363 人)、「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」の 36.1%(同 349 人)、「医療・福祉施設の利便性」の 32.5%(314 人)と続く。

表 20 重要と考える点・重視したい点

重要と考える点・重視したい点	回答者数	回答者比率
買い物や飲食などの生活利便性	619	64.0%
鉄道・バスなどの公共交通の利便性	349	36.1%
図書館など公共施設の利便性	89	9.2%
医療・福祉施設の利便性	314	32.5%
子育て施設の充実	26	2.7%
小中学校の区域や通学の利便性	50	5.2%
通勤の利便性	106	11.0%
治安や防犯面での安全性	363	37.5%
災害時の安全性	297	30.7%
ゆとりある閑静な居住空間	93	9.6%
公園や緑地、水辺などの自然環境	121	12.5%
地域の街並みや良好な景観	83	8.6%
良好な地域コミュニティ	52	5.4%
その他	27	2.8%
無回答	47	4.9%
回答者総数	967	100.0%

【その他】海と山が近い、高齢者に対する福祉対策(独居者に対すること)、治安悪化させない事(ほか注)複数回答があるため、回答者数の合計は回答者総数とは一致しない。

図 62 重要と考える点・重視したい点

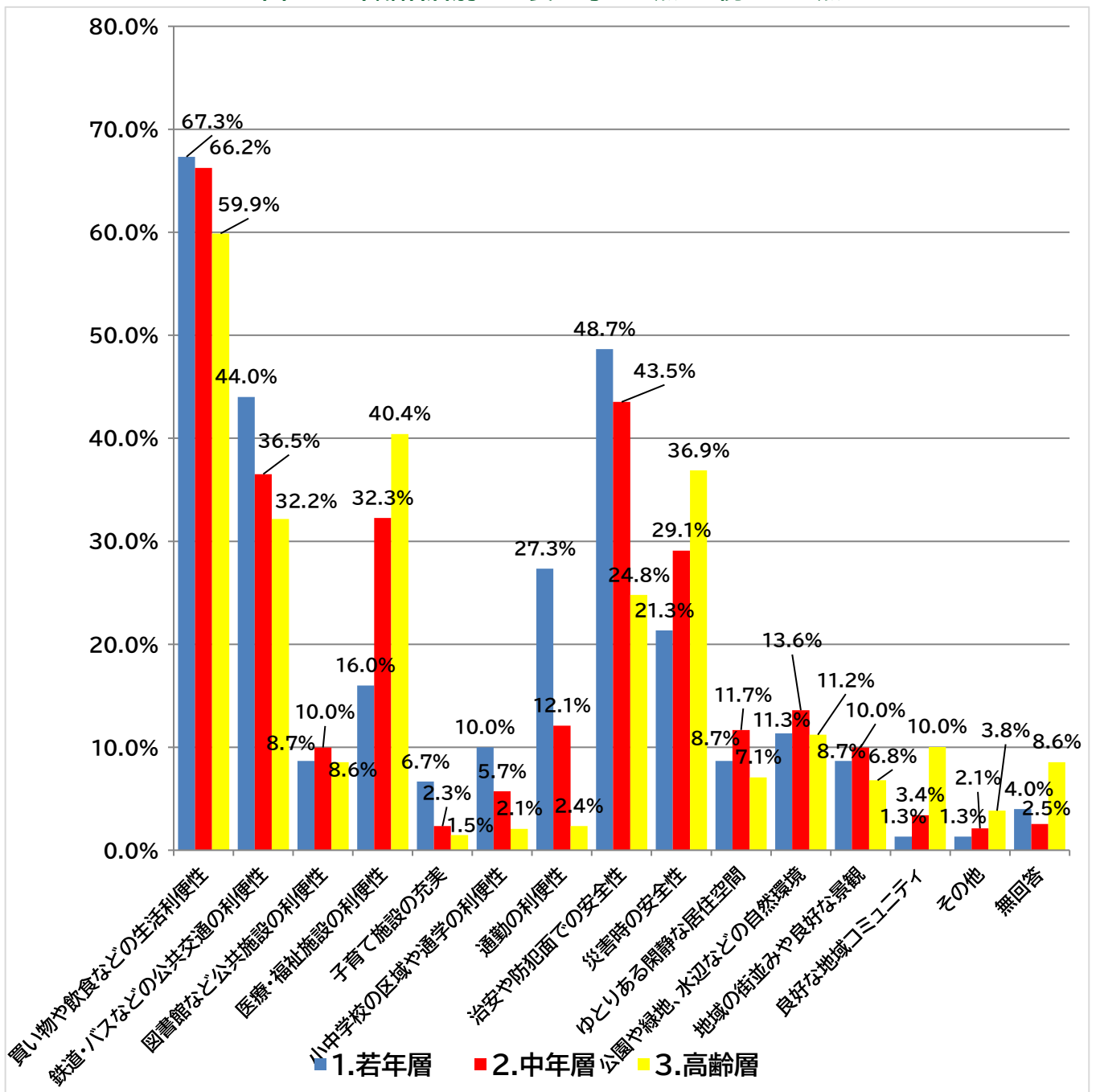


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- ・若年層では、「買い物や飲食などの生活利便性」が 67.3%と高い比率となっている。次いで「治安や防犯面での安全性」が 48.7%、「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」44.0%となっている。
- ・中年層もほぼ若年層と同様の傾向であり、「買い物や飲食などの生活利便性」が 66.2%、次いで「治安や防犯面での安全性」が 43.5%、「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」36.5%となっている。
- ・高齢層では、「買い物や飲食などの生活利便性」が 59.9%で最も高く、次いで「医療・福祉施設の利便性」が 40.4%、「災害時の安全性」が 36.9%となっている。

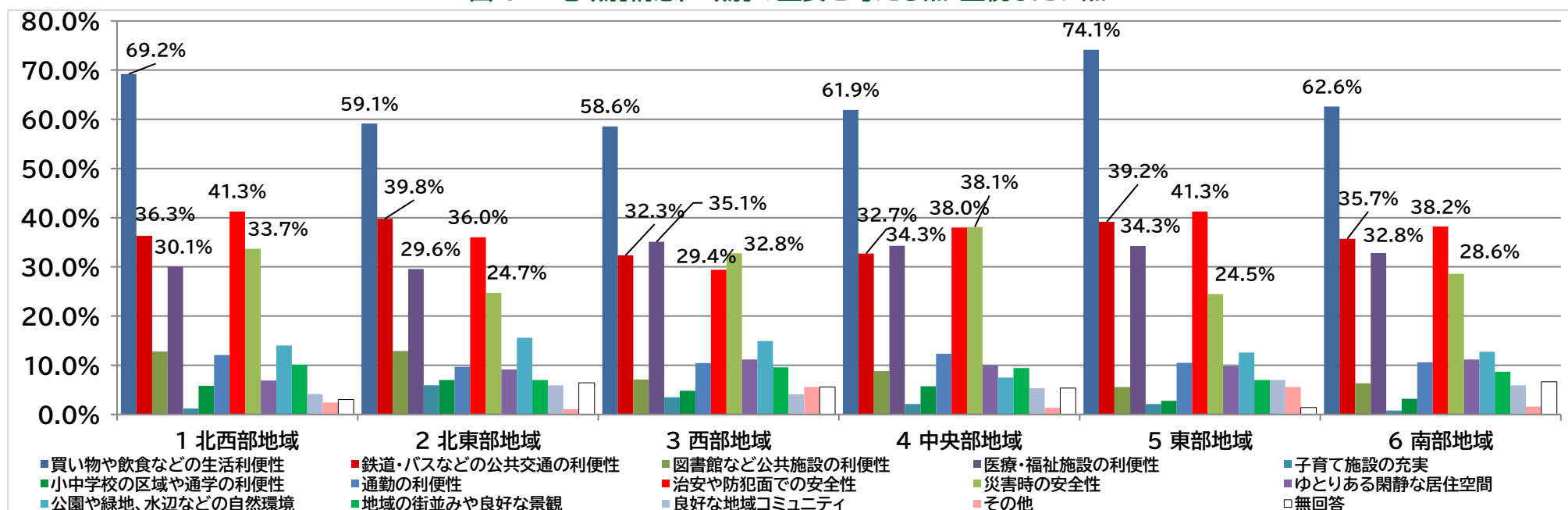
図 63 年齢階層別の重要と考える点・重視したい点



② 地域別構想区域別とのクロス集計

- ・北西部地域では「買い物や飲食などの生活利便性」が 69.2%、次いで「治安や防犯面での安全性」が 41.3%、「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」36.3%、「災害時の安全性」33.7%と続く。
- ・北東部地域は「買い物や飲食などの生活利便性」が 59.1%、次いで「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」が 39.8%、「治安や防犯面での安全性」が 36.0%と続く。
- ・西部地域では「買い物や飲食などの生活利便性」が 58.6%、「医療・福祉施設の利便性」が 35.1%、「災害時の安全性」が 32.8%、「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」が 32.3%となっている。
- ・中央部地域では「買い物や飲食などの生活利便性」が 61.9%、次いで「災害時の安全性」が 38.1%、「治安や防犯面での安全性」が 38.0%、「医療・福祉施設の利便性」が 34.3%、「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」が 32.7%と続く。
- ・東部地域は「買い物や飲食などの生活利便性」が 74.1%と非常に高く、次いで「治安や防犯面での安全性」が 41.3%、「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」が 39.2%、「医療・福祉施設の利便性」が 34.3%となっている。
- ・南部地域は「買い物や飲食などの生活利便性」が 62.6%、次いで「治安や防犯面での安全性」が 38.2%、「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」が 35.7%、「医療・福祉施設の利便性」が 32.8%となっている。

図 64 地域別構想区域別の重要と考える点・重視したい点



3-20 問 20 今後のまちづくりは、どのように進めていくことが望ましいと思いますか。(該当する番号を1つ選び、○で囲んでください)

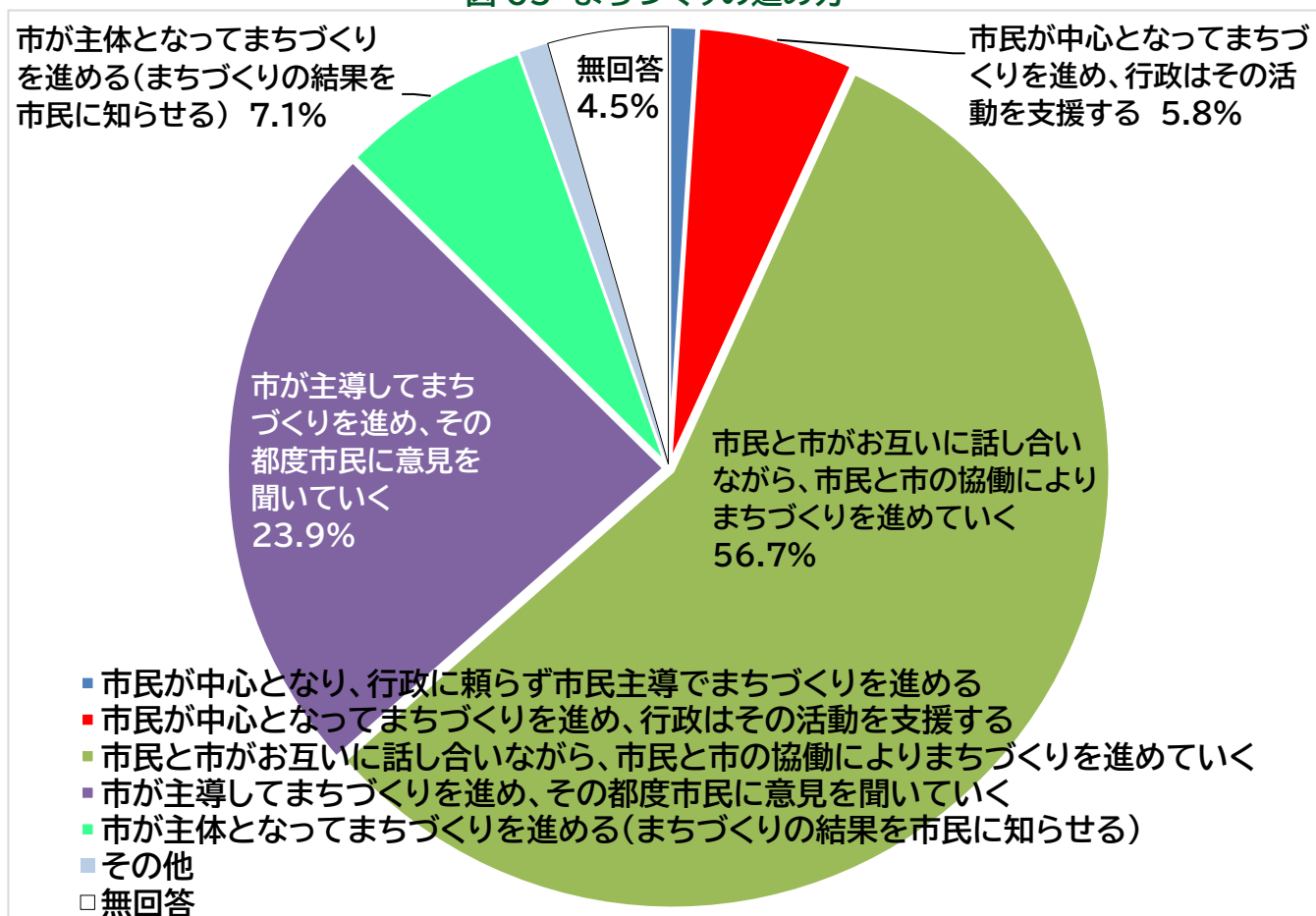
(1) 単純集計結果

・「市民と市がお互いに話し合いながら、市民と市の協働によりまちづくりを進めていく」が 56.7% (548 人) で最も高い比率を占め、次いで「市が主導してまちづくりを進め、その都度市民に意見を聞いていく」が 23.9%(231 人)であった。

表 21 まちづくりの進め方

まちづくりの進め方	回答者数	回答者比率
市民が中心となり、行政に頼らず市民主導でまちづくりを進める	10	1.0%
市民が中心となってまちづくりを進め、行政はその活動を支援する	56	5.8%
市民と市がお互いに話し合いながら、市民と市の協働によりまちづくりを進めていく	548	56.7%
市が主導してまちづくりを進め、その都度市民に意見を聞いていく	231	23.9%
市が主体となってまちづくりを進める(まちづくりの結果を市民に知らせる)	69	7.1%
その他	10	1.0%
無回答	43	4.5%
総計	967	100.0%

図 65 まちづくりの進め方

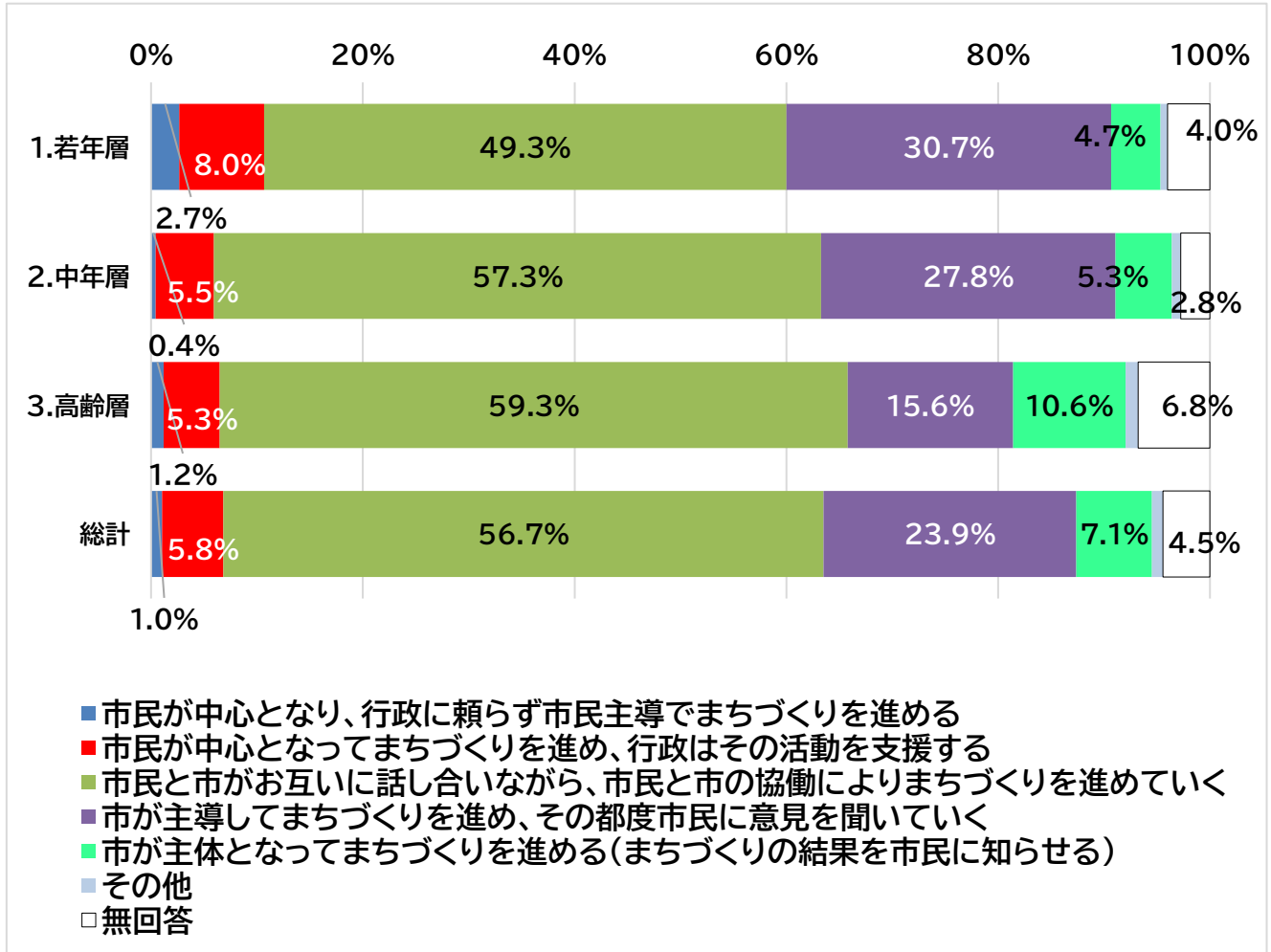


(2) クロス集計結果

① 年齢階層とのクロス集計

- 年齢階層が下がるほど「市が主導してまちづくりを進め、その都度市民に意見を聞いていく」比率が高くなっている。

図 66 年齢階層別のまちづくりの進め方



② 地域別構想区域別のクロス集計

どの地域も同じ傾向であるが、中央部地域では「市が主体となってまちづくりを進める(まちづくりの結果を市民に知らせる)」が11.2%とやや高くなっている。

図 67 地域別構想区域別のまちづくりの進め方

